

第四條 公學校教諭ハ臺灣公學校教諭ノ免許狀ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

明治三十七年府令第四十三號第十七條第二項及第十八條第二項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケ臺灣公學校教諭ノ免許狀ヲ有スル者ハ蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ヲ除クノ外他ノ公學校ニ勤務セシムルコトヲ得ス

○臺灣總督府令第三十六號(官報 五月十七日)

明治三十七年 府令第四十二號臺灣小學校、臺灣公學校教員檢定及免許ニ關スル規程中左ノ通改正ス

明治四十二年五月六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第十六條 臺灣公學校教員無試驗檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第十六條ノ三乃至第十八條ニ準據シ之ヲ行フ

一 臺灣總督府國語學校ヲ卒業シ又ハ同校講習科ヲ修了シタル者

二 臺灣總督府國語學校第二附屬學校師範科及同師範速成科ヲ卒業シタル者

三 文部省、道廳、府縣又ハ臺灣小學校教員免許狀ヲ有スルモノニシテ臺灣語又ハ蕃語ヲ習得シタル者

四 官立學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタルモノニシテ臺灣語又ハ蕃語ヲ習得シタル者

五 有効期限アル公學校教員免許狀ヲ有スル者若ハ有効期限満了ノ公學校教員免許狀ヲ有スル者

六 其ノ他臺灣總督ニ於テ適任ト認メタル者

第十六條ノ二 前條檢定ニ就キ教員檢定委員會ニ於テ教育、臺灣語及蕃語ニ關シ必要ト認メタルトキハ試験ヲ行フコトヲ得

第十六條ノ三 公學校教諭ハ甲種公學校教諭、乙種公學校教諭、丙種公學校教諭及公學校專科教諭

ニ分チ之ヲ檢定ス

第十六條ノ四 甲種公學校教諭ハ何レノ公學校ニ於テモ教諭タルコトヲ得ヘキモノトス

甲種公學校教諭ノ試驗科目及其ノ程度ハ臺灣小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ニ準シ尙臺灣語ヲ加フ

第十六條ノ五 乙種公學校教諭ハ修業年限八箇年ノ公學校ニ於テ第六學年以下ノ教授ヲ擔任スル教諭及修業年限六箇年以下ノ公學校並蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ニ於テ教諭タルコトヲ得ヘキモノトス

乙種公學校教諭ノ試驗科目及其ノ程度ハ臺灣尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ニ準シ尙臺灣語ヲ加フ

第十六條ノ六 丙種公學校教諭ハ蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ニ於テ教諭タルコトヲ得ヘキモノトス

丙種公學校教諭ノ試驗科目ハ前條ニ準シ其ノ程度ハ前條以下ニ於テ之ヲ檢定スルコトヲ得但シ臺灣語ヲ除キ蕃語ヲ加フ

第十七條 公學校專科教諭ハ圖書、音樂、體操、裁縫、手工、農業及商業ノ一科目若ハ數科目ニ限り教諭タルコトヲ得ヘキモノトス

公學校專科教諭ノ試驗ノ程度ハ臺灣小學校專科正教員ノ試驗程度ニ準シ尙臺灣語ヲ加フ

前項ニ規定シタル科目ノ試験ハ教育ノ大要及受験科目ノ教授法ヲ附帶シテ之ヲ行フ

公學校專科教諭ノ試験ハ教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス

第十八條 第十六條ノ四、第十六條ノ五及第十七條ニ依リ試験スル臺灣語ノ程度及第十六條ノ六ニ依リ試験スル蕃語ノ程度ハ臺灣總督府國語學校師範部甲科生徒ニ課スル臺灣語ノ程度ニ準ス

第十九條 公學校訓導ノ試験科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ臺灣總督府國語學校師範部乙科生徒、女子ニ在リテハ臺灣總督府國語學校第二附屬學校師範科生徒ニ課スル學科目及其ノ程度ニ準ス

第十九條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ臺灣公學校教員ノ試験檢定ヲ行フトキハ教員檢定委員會ニ於テ第十六條ノ三乃至第十九條ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認めタル者ニ對シテハ其ノ科目ノ試験ヲ缺クコトヲ得

- 一 師範學校、中學校又ハ高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
 - 二 文部省、道廳、府縣又ハ臺灣小學校教員免許狀ヲ有スル者
 - 三 官立學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者
 - 四 中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者
 - 五 臺灣總督府國語學校國語部又ハ實業部ヲ卒業シタル者
 - 六 有効期限滿了ノ臺灣公學校教員免許狀ヲ有スル者
- 第二十一條中及公學校教諭ヲ甲種、乙種、丙種公學校教諭ニ改メ尋常小學校准教員ノ下ニ、公學校專科教諭ヲ加フ
- 第一號書式(公學校教諭又ハ訓導)ヲ(甲種、乙種、丙種公學校教諭公學校專科教諭又ハ訓導)ニ改メ(但(甲種、乙種、丙種公學校教諭志願者ハ檢定ヲ缺クヘキ科)ヲ加フ(乙種、丙種公學校教諭志願者ハ檢定ヲ受クヘキ科目ヲ記入スヘシ)ヲ加フ)
- 附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規程ニ依リ授與シタル臺灣公學校教諭免許狀ニシテ現ニ其ノ效力ヲ有スルモノハ甲種公學校教諭タルヘキ效力ヲ有ス
臺灣小學校、臺灣公學校教員檢定及免許ニ關スル規程第十七條第二項及第十八條第二項ニ依リ授與シタル臺灣公學校教諭免許狀ヲ有スル者ハ丙種公學校教諭タルヘキ效力ヲ有ス
從前ノ規程ニ依リ授與シタル臺灣公學校訓導免許狀ニシテ現ニ其ノ效力ヲ有スルモノハ尙其ノ有効期間效力ヲ有ス

與シタル臺灣公學校教諭免許狀ヲ有スル者ハ丙種公學校教諭タルヘキ效力ヲ有ス
從前ノ規程ニ依リ授與シタル臺灣公學校訓導免許狀ニシテ現ニ其ノ效力ヲ有スルモノハ尙其ノ有効期間效力ヲ有ス

〔參照〕

- 臺灣總督府令第四十三號臺灣小學校、臺灣公學校教員檢定及免許ニ關スル規程(明治三十七年四月二十九日官報)抄錄
- 第十六條 臺灣公學校教員無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ之ヲ行フ
 - 一 臺灣總督府國語學校師範部卒業生又ハ同校講習科ヲ修了シタル者
 - 二 小學校本科正教員又ハ尋常小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有シ臺灣土語ヲ習得シタル者
 - 三 臺灣總督府師範學校卒業生
 - 四 其ノ他臺灣總督ニ於テ適任ト認めタル者
- 第十七條 前條檢定ニ就キ教員檢定委員會ニ於テ教育及臺灣土語ニ關シ必要ト認めタルトキハ試験ヲ行フコトヲ得
- 第十八條 公學校教諭ノ試験科目及其ノ程度ハ臺灣總督府國語學校ノ師範部甲科生徒ニ課スル學科程度ニ準ス
- 第十九條 公學校教諭ノ試験科目ニハ審判ヲ加ヘ其ノ他ノ試験科目ノ程度ハ前項ノ程度以下ニ於テ之ヲ檢定スルコトヲ得
- 第二十條 檢定ヲ出願スル者ハ左ノ區別ニ依リ檢定手数料ヲ納付スヘシ
 - 金三圓 小學校尋常小學校本科正教員及公學校教諭
 - 金二圓 小學校專科正教員、小學校、尋常小學校准教員及公學校訓導

○臺灣總督府令第三十七號(官報五月十七日)
酒精出港稅徵收猶豫及稅額免除規則施行規則左ノ通相定ム
明治四十二年五月八日 臺灣總督 伯備佐久間左馬太

第一條 酒精出港稅徵收猶豫及稅額免除規則施行規則
酒精出港稅徵收猶豫及稅額免除規則第一條ニ依リ徵收猶豫ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項

ヲ記シタル申請書ヲ出港地ノ稅關又ハ支署ニ提出スヘシ

一 酒精ノ箇數、記號、番號、石數、含有純酒精ノ容量

二 擔保物ノ種類、數量、價格及所在

三 猶豫ヲ請ハムトスル期間

四 擔保物提供者ノ住所、氏名又ハ名稱

五 前各號ノ外必要ナル事項

第二條 擔保物ノ種類ハ左ニ列記シタルモノニ限ル

一 土地

二 金錢

三 利付國債證券及地方債券

四 政府ノ保護又ハ特別監視ヲ受クル株式會社ノ株券又ハ債券

第三條 出港稅ノ納付ヲ擔保スル爲豫メ擔保物ヲ提供スルトキハ其ノ出港稅カ擔保物ノ價格ニ達

セサル限リ其ノ都度擔保ヲ提供スルコトヲ要セス

第四條 土地以外ノ擔保物ヲ提供セムトスル者ハ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ出港地ノ稅關

又ハ支署ニ提出スヘシ但シ稅關又ハ支署所在地ニ金庫ナキトキハ之ヲ供託セスシテ提供スルコ

トヲ得

第五條 稅關又ハ支署ニ於テ前條但書ニ依リ擔保ノ提供ヲ受ケタルトキハ當該官吏ハ擔保物領收

證ヲ提供者ニ交付シ擔保物ハ之ヲ供託スヘシ

第六條 稅關又ハ支署ニ於テ第一條ノ申請ヲ受ケタルトキハ擔保額及其ノ猶豫スヘキ期間ヲ定メ

之ヲ擔保提供者ニ告知スヘシ

第七條 擔保物ノ價格減少シタルトキハ稅關又ハ支署ハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ稅關又ハ支署ハ直ニ出港稅ヲ徵收ス

第八條 酒精出港稅徵收猶豫及稅額免除規則第一條第二項但書ニ依リ金錢以外ノ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ

公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、土地ノ座落、地番、等則、地目、甲數、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

公賣決行前ニ於テ公賣ノ費用及出港稅ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第九條 酒精出港稅徵收猶豫及稅額免除規則第一條第二項但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第十條 酒精出港稅徵收猶豫及稅額免除規則第三條ノ申請書ニハ其ノ酒精ノ箇數、記號、番號、石數、含有純酒精ノ容量、免除スヘキ稅額及出港免許年月日其ノ他必要ナル事項ヲ記シ出港地ノ稅關

又ハ支署ニ提出スヘシ

酒精出港稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ト酒精ヲ使用又ハ供給シタル者ト異リタル場合ニ於テハ免

除申請者ハ使用者又ハ供給者ニ其ノ酒精ヲ交付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第三十八號(官報五月十七日)

臺灣關稅規則施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年五月八日

臺灣關稅規則施行規則

第一章 船舶ニ關スル手續

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

- 第一條 船舶ノ入港届ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港ノ時及乗組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第二條 積荷目録ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量及荷受人ヲ記載スヘシ
- 關稅法第十五條ニ依リ提出スヘキ積荷目録ニハ前項ニ掲ケタル事項ノ外、貨物ノ船卸ヲ爲スヘキ地ヲ記載スヘシ
- 第三條 船口申告書ニハ船口ノ所在、箇數、船用品目録ニハ船用品ノ種類、數量及見積價格、旅客氏名表ニハ旅客ノ國籍、氏名、乗込地及上陸地ヲ記載スヘシ
- 前項ノ文書ニハ仍船舶ノ名稱及國籍ヲ記載スヘシ
- 第四條 外國貨物ヲ積載セル船舶積荷目録提出前ニ於テ貨物積卸ノ認許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ
- 第五條 船舶ノ出港届ハ船舶ノ名稱、國籍、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第六條 外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキハ彙ニ預リタル船舶國籍證書共ノ他ノ書類ヲ還付スヘシ
- 第七條 外國貨物ヲ積載セル船舶日没ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ
- 第八條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手續料ヲ納付スヘシ但シ外國貨物ヲ積載セル沿海通航船內國貨物ノ積卸ヲ爲スニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 警察官吏關稅法第十八條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ稅關又ハ稅關監視署ニ急報スヘシ

- 第十條 關稅法第十九條ニ掲ケタル外國貨物ヲ不開港ヨリ開港ニ回漕スルノ認許ヲ受ケムトスルトキハ船長ヨリ船卸港貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ
- 第十一條 外國貨物ノ假陸揚ヲ爲サムトスルトキハ其ノ記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關ニ稅關ノ設置ナキ地ニ在リテハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ申告スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ豫メ申告スル能ハサルトキハ陸揚シタル後直ニ申告スヘシ
- 第十二條 關稅法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
- 第十三條 沿海通航船海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其ノ地稅關ニ申告スヘシ
- 前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類、數量及原價ヲ記載シタル目録ヲ歸港地稅關ニ提出スヘシ
- 第二章 貨物ニ關スル手續
- 第一節 總則
- 第十四條 日没ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ稅關ニ送致スル爲テ特許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ
- 第十五條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手續料ヲ納付スヘシ
- 第十六條 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ヲ爲ス爲テ特許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類等ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ
- 特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第十七條 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ検査ヲ受ケムトスル者アルトキハ稅關ハ之ヲ特許スルコトアルヘシ但シ關稅法第二十四條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス
前項ノ特許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ
本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手續料ヲ納付スヘシ

第二節 貨物ノ輸出及積戻手續

第十八條 輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格、仕向港及仕向地ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ旅客攜帶品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セス
輸出貨物外國產ナルトキハ仍其ノ產地ヲ記載スヘシ

關稅定率法第七條第十五號ニ依リ關稅ノ免除ヲ得ムトスル外國產貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的及再輸入ノ場所ヲ記載スヘシ
前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出港稅關ニ申告スヘシ

第十九條 關稅定率法第八條ニ依リ關稅ヲ免除セラレタル貨物ヲ輸入ノ日ヨリ滿一箇年以内ニ輸出セムトスル者又ハ通過ノ爲輸入シタル貨物ヲ輸出セムトスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ稅關ニ提出スヘシ
前項ノ貨物ニ付輸出ノ免許ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出濟ノ旨ヲ記入シ提出者ニ還付スヘシ

第二十條 第十八條第一項ノ規定ハ積戻申告ニ之ヲ準用ス
第三節 貨物ノ回漕

第二十一條 貨物回漕ノ申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、陸揚地、内外國貨物ノ區別、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條 回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ回漕免狀ヲ稅關ニ提出スヘシ
稅關ニ於テ前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ貨物ノ検査ヲ爲シ免狀ト符合スルトキハ該免狀ニ回漕濟ノ旨ヲ記入シテ提出者ニ還付スヘシ

第四節 貨物ノ收容ニ關スル手續

第二十三條 關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及箇數ヲ記載スヘシ

第二十四條 關稅法第五十一條ノ公告ニハ前條ニ掲ケタル事項、競賣ノ事由、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十五條 收容貨物ノ敷料ハ別ニ之ヲ定ム

第三章 犯則事件ノ調査及處分

第二十六條 差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ
第二十七條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第二十八條 差押物件ヲ所持者又ハ街庄社長ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領證ヲ徵シ街庄社長ニ保管セシメタルトキハ其ノ旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第二十九條 關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ之ヲ公告シテ競賣ニ付スヘシ
前項ノ公告ニハ物件ノ品名、數量、競賣ノ事由、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第三十條 臨檢、搜索及訊問調書ニハ臨檢、搜索又ハ訊問ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第三十一條 稅關官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅關長ニ報告スヘシ

第三十二條 關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

處分通告書ニハ關稅法第九十四條ニ掲ケタル事項ノ外犯則ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第三十三條 處分通告書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

處分通告書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ

第三十四條 沒收ニ該當スル物品ニシテ街庄社長ノ保管ニ係ルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十五條 稅關長犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ法院ニ引繼クヘシ

差押物件所持者又ハ街庄社長ノ保管ニ係ルトキハ前項引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第三十六條 犯則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入削除若ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ其ノ字數ヲ記載シ之ニ認印シ其ノ削除ニ係ル文字ハ字體ヲ存シ置クヘシ

第四章 稅關ノ執務時間及臨時開廳

第三十七條 稅關執務時間ハ休日ヲ除キ左ノ通トス

五月一日ヨリ九月三十日迄ハ午前八時ヨリ午後二時ニ至ル

十月一日ヨリ翌年四月三十日迄ハ午前九時ヨリ午後四時ニ至ル但シ土曜日ハ午後三時迄トス

第三十八條 稅關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハムトスル者ハ開廳ノ期間及其ノ期間中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納ムヘシ

第五章 雜則

第三十九條 關稅法第九十八條ノ特許ヲ受ケムトスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理

由、貨物ノ陸揚ニ係ルトキハ其ノ品名、數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ船長ヨリ特許手數料ヲ稅關ニ納付スヘシ

第四十條 稅關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ノ下付ヲ請フ者ハ手數料ヲ納ムヘシ

第四十一條 棧橋、起重機其ノ他稅關所屬ノ土地建設物又ハ備品ヲ使用スル者ヲシテ使用料ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第四十二條 手數料及使用料ノ額ハ別ニ之ヲ定ム

第四十三條 手數料、使用料、收容貨物ノ費用及敷料ハ申請書又ハ納付書ニ收入印紙ヲ貼附シテ之ヲ納付スルコトヲ得

第四十四條 稅關官吏及收稅官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物等ニシテ當該官吏ノ賣却スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス

第四十五條 臺灣關稅規則若ハ本令ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官廳名若ハ官氏名及年月日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第四十六條 申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出者之ニ署名スヘシ

第四十七條 臺灣關稅規則又ハ本令ニ依リ稅關又ハ稅關長ニ提出スヘキ文書ハ稅關支署ノ管轄内ニ在リテハ稅關支署ニ提出スヘシ

前項ノ外稅關ニ關スル規定ハ稅關支署ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年八月府令第九十一號臺灣關稅規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

○臺灣總督府令第三十九號(官報五月十七日)

臺灣輸出稅及出港稅規則施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年五月八日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣輸出稅及出港稅規則施行規則

- 第一條 輸出稅及出港稅ヲ徵收セムトスルトキハ納金額及納付金庫ヲ指定シタル文書ヲ以テ納税人ニ告知スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス
- 第二條 納税人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ税金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付スヘシ
- 第三條 輸出稅及出港稅ノ賦課ニ關スル異議ノ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ之ニ表示スヘシ
- 第四條 異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ
- 第五條 判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ
- 第六條 異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ揭示スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ揭示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキヲ以テ判定書ノ交付アリタルモノト看做ス
- 第七條 從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認メ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキハ異議者ニ通知スヘシ
- 第八條 異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ評價人ヲ選定シ其ノ職業、住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ

稅關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第九條 稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命スヘシ

第十條 稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第十一條 評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ詳記シタル評價書ヲ作り之ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十二條 稅關長ハ前條ノ評價書ニ依リ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第十三條 本令ニ規定セサル事項ハ臺灣關稅規則施行規則ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年八月府令第九十四號臺灣輸出稅及出港稅規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

○臺灣總督府令第四十號(官報五月二十一日)

明治三十九年六月府令第四十五號中電話交換料ノ部「林圯埔」ノ次ニ左ノ如ク加フ

明治四十二年五月十一日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地名 電話交換料
東 港 三十六圓
羅 東 三十六圓
三 六 圓

東 港 三十六圓
胡 蘆 墩 三十六圓

○臺灣總督府令第四十一號(官報五月二十一日)

明治三十四年四月府令第二十一號稅關支署ノ名稱位置及管轄區域左ノ通改正ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月十三日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

名	稱	位	區	管	轄	區	域
臺灣總督府稅關基隆支署		基隆廳管下基隆		基隆廳、宜蘭廳、深坑廳各管下一區			
臺灣總督府稅關新竹支署		新竹廳管下舊港		桃園廳、新竹廳各管下一區			
臺灣總督府稅關嘉義支署		苗栗廳管下公司寮		苗栗廳管下一區			
臺灣總督府稅關鹿港支署		臺中廳管下塗葛堀		彰化廳、南投廳各管下一區			
臺灣總督府稅關鹿港支署		彰化廳管下鹿港		彰化廳、南投廳各管下一區			
臺灣總督府稅關安平支署		嘉義廳管下東石港		斗六廳、嘉義廳各管下一區			
臺灣總督府稅關打狗支署		臺南廳管下安平		鹽水港廳、臺南廳、番薯寮廳各管下一區			
臺灣總督府稅關東港支署		鳳山廳管下打狗		鳳山廳管下一區			
臺灣總督府稅關媽宮支署		阿猴廳管下東港		阿猴廳、恆春廳各管下一區			
臺灣總督府稅關媽宮支署		澎湖廳管下媽宮		澎湖廳管下一區			

○關東都督府令第七號（官報五月十日）
 明治四十一年四月二十八號旅順電氣使用規則中左ノ通改正ス

關東都督 子爵大島義昌

第四條第三項ヲ左ノ如ク改ム

電氣使用者ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ新舊使用者連署シテ管理者ニ届出ツヘシ但シ舊使用者ノ未納ニ係ル料金其ノ他ノ徴收金ハ新舊使用者連署シテ納付スヘシ

第九條 月額料金ハ毎月初日ノ現在ニ依リ指定ノ期限内ニ納付スヘシ但シ新設又ハ再使用ノ場合ニ於テ使用日數一箇月ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ計算ス

第十二條 月額料金ノ日割計算法ハ月額ニ使用日數ヲ乘シ其ノ月ノ現日數ヲ以テ除シ其ノ金額ヲ定ム但シ錢位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第十五條 前條ノ規程ニ違背シテ設備シタル器具、機械ハ之ヲ取除キ其ノ撤去又ハ改作ノ爲要シタル工費其ノ他一切ノ費用ヲ徴收シ仍器具材料ニシテ再使用ノ虞アルモノハ之ヲ沒收ス前條ノ

規定ニ違背シテ電氣ヲ増加シタルトキハ其ノ發覺ノ日ヨリ前回臨檢シタル日ニ溯リ其ノ增加分ニ對シ第二十八條ノ白熱燈料內燈五燭光ノ一燭力單價ニ依リ計算シタル料金ノ三倍ヲ増徴ス
 前項ノ場合ニ於テ増加電量分明ナラサルトキハ管理者ノ見積ル所ニ依ル
 第二十九條 不定時燈料ハ左ノ指定電量ヲ一箇月ノ使用最低限トシ使用ト否トニ拘ハラズ之ニ對スル月額ヲ納付スヘシ

取付燈數	指定電量	月 額
十 燈 以下	二萬「ワット」時	金 六 圓

取付燈數十燈ヲ超過スルトキハ一燈ニ付指定電量二千「ワット」時月額金六十錢トス
 前二項ノ指定電量ヲ超過スルトキハ百「ワット」時ニ付金三錢ノ割合ヲ以テ翌月ノ月額料金ト同時ニ納付スヘシ但シ廢止中止ノ際ハ直ニ之ヲ徴收ス

第二十九條ノ二 不定時燈使用者ハ同時ニ定時燈ヲ使用スルコトヲ得ス但シ外燈ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 第一種臨時燈ハ三夜ヲ以テ一箇月ノ使用最低限トシ使用ト否トニ拘ハラズ其ノ燭力ニ從ヒ定時燈月額料金ノ十分ノ三ヲ徴收ス

前項ノ使用最低限ヲ超過シタルトキハ一夜ニ付定時燈月額料金ノ十分ノ一ノ割合ヲ以テ翌月ノ月額料金ト同時ニ徴收ス但シ廢止中止ノ際ハ直ニ之ヲ徴收ス

第三十三條 電燈ノ燭力又ハ點火方法ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ料金ヲ増加シタルトキハ其ノ増加シタル部分ニ對シテハ日割計算ニ依リ之ヲ徴收シ減少シタルトキハ當月分ノ料金ハ之ヲ減額セス

附 則

本令ハ明治四十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第八號(官報五月十三日)
印紙犯罪處罰法第五條ノ規定ニ依ル官沒ハ民政署長又ハ民政支署長ヨリ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

附則

本令ハ明治四十二年五月十二日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年四月二十八日

關東都督 子爵大島義昌

○統監府令第十四號(官報六月五日)
明治四十一年^三月統監府令第九號中「六十五人」ヲ「七十五人」ニ改ム
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

〔参照〕

統監府令第九號(明治四十一年四月二十日官報)抄録
理事官看守ノ定員ハ通シテ六十五人トス

○統監府令第十五號(官報六月五日)

左ニ指定スル韓國政府ノ公布シタル法令ニ定ムル税金ヲ期限内ニ納付セサル者アルトキハ理事官ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ國稅徵收法第三十二條ニ當ル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一明治四十二年^二月統監府告示第十二號ヲ以テ其ノ譯文ヲ告示シタル家屋稅法、酒稅法及煙草稅法

前項ノ韓國法令中罰則ノ規定ニ違背シタル者アルトキハ理事官ハ二十五圓以下ノ過料ニ處シ之ヲ徵收ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

統監代理

副統監 子爵曾禰荒助

明治四十二年五月二十九日

○統監府令第十六號(官報 六月十二日)
明治四十一年^九統監府令第三十七號電話規則中左ノ通改正ス

統監代理

副統監 子爵會禰荒助

明治四十二年六月五日

第八條第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 統監府通信管理局(以下單ニ通信)ノ指示スル所ニ從ヒ 電話開通ニ必要ナル物件及勞力ヲ政府ニ無償提供シタルモノ

第十一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ一般電話交換ノ取扱ニ依ラス 電話線ヲ專用シテ電話通話(以下單ニ專)ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 他ノ加入區域内ニ在ル郵便局所ニ屬スル加入者ト專用通話ヲ爲ス加入者

第十八條ノ二 加入申込者又ハ加入者四名以内ノ間ニ於テ專用通話ヲ爲サムトスルトキハ當事者ノ連署シタル申請書(第二十條)ヲ差出シ 通信管理局長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ加入者ヲ増減セムトスルトキ亦同シ

前項ノ申請ヲ取消シ又ハ專用通話ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ請求書(第二十一條)ヲ通信管理局ニ差出スヘシ

第十八條ノ三 專用通話ヲ爲ス加入者中 加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタル者アルトキハ其ノ他ノ加入者間ノ專用通話ヲ認可シタルモノト看做ス但シ其ノ加入者一名トナリタルトキハ專用通話ハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

第二十條中「承認ヲ受クヘシ」ノ下ニ「若第十八條ノ二ニ依リ專用通話ノ申請ヲ爲シタル加入申込者

又ハ專用通話ヲ爲ス加入者ナルトキハ關係加入申込者又ハ加入者ノ承諾書ヲ添附スヘシヲ加フ

第二十五條第二號中「同一邸宅構内」ヲ「同一戸内」ニ改ム

第二十七條 加入者前條ノ請求ヲ爲ストキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ 加入申込者第十條ニ依リ電話機設置場所變更ノ請求ヲ爲ストキ亦同シ

第八條第三號ニ依ル加入者電話機ノ移轉ヲ請求スル場合ニ於テハ前項移轉料ノ外第十三條第一項ノ加入期間内ハ通信管理局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ移轉ニ必要ナル物件及勞力ヲ政府ニ無償提供セシムルコトアルヘシ

第三十一條第二項中「設備ノ負擔」ヲ「物件及勞力ノ無償提供」ニ改ム

第三十四條 第一條第二項及第二十六條但書ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ其ノ加入區域外ニ係ル電話線路ヲ、第十八條ノ二第一項ニ依リ認可ヲ受ケタル者ニシテ第十七條第四號ニ該當スルモノ

ハ其ノ郵便局所間ノ電話線路ヲ通信管理局ノ指示スル所ニ從ヒ建設シ之ヲ同局ニ引渡スヘシ

第三十五條 加入者專用通話ヲ廢止シタル場合通信管理局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ一般電話交換ノ取扱ニ依ル通話ノ開始ヲ延期スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ延期中ハ專用通話ヲ爲ス加入者ト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ當該加入期以後ニ屬スル電話使用料及第五十一條ニ依ル當該料金納付期以後ニ屬スル附加使用料ハ其ノ延期中之ヲ免除ス

第三十六條中「加入者トノ通話及」ヲ「加入者トノ通話(專用通話)及」ニ改ム

第四十九條第一項中「三 電話使用料 一 加入毎ニ 甲地年額金七十二圓 乙地年額金六十圓」ヲ「三 電話使用料 一

加入毎ニ 一般通話ヲ爲スモノ 甲地年額金七十二圓 乙地年額金六十圓 二 加入區域外加入 加入區域外電話線路ノ線

年額金一圓五十錢ヲ一 加入區域外加入 加入區域外電話線路ノ線 單線式ハ年額金一圓五十錢
ニ第二項中「電話料ハ別ニ之ヲ告示ス」ヲ「電話料並第十七條第四號ニ該當スル專用電話ノ附加使用
料ハ別ニ之ヲ告示ス」ニ改ム
第五十二條中「及附加使用料ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ」ヲ「及電話使用料又ハ附加使用料ニ異動
ヲ生シタルトキ亦同シ」ニ改ム
第五十六條中「電話機又ハ増設機械ノ變更ニ依リ其ノ」ヲ「專用電話ノ開廢又ハ電話機、増設機械ノ變
更等ニ依リ電話使用料又ハ」ニ改ム
第六十條第一項中「及附加使用料」ヲ「及第五十二條ニ依ル當該料金納付期ノ附加使用料」ニ第三項中
「長距離電話通話」ヲ「專用通話及長距離電話通話」ニ其ノ期ノ附加使用料ヲ「第五十一條ニ依ル當該
料金納付期ノ附加使用料」ニ改ム
(第二十號書式)

專用電話通話申請書

電話規則ニ依リ專用電話通話致度此段及申請候也

一 專用電話通話者名及電話機設置場所

電話加入申込順番(何)番(加入申込書ト同時ニ提出ス)

電話番號(何)番

何處 何處

何處 何處

年月日

住所職業 何 某印
住所職業 何 某印

統監府通信管理局長

殿

注意

一本申請書ニハ各電話機設置場所ノ位置ヲ記載シタル圖面ヲ添付スヘシ

(第二十一號書式)

專用電話通話申請取消(通話廢止)請求書

一 加入申込順番(何)番(電話番號)何(番)

一 加入申込順番(何)番(電話番號)何(番)

都合ニ依リ專用電話通話ノ申請取消(通話ヲ廢止)致度此段及請求候也

年月日

住所職業 何 某印
住所職業 何 某印

統監府通信管理局長

殿

注意

加入名義同一ノ場合ハ連署ヲ要セス

附則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

統監府令第三十七號電話規則(明治四十一年九月二十九日官報)抄録

第八條 左記各號ノ場合ニ於テハ加入申込登記ノ順番ニ依ラス電話開通ノ順序ヲ線上クルコトヲ得

三 統監府通信管理局(以下「通監」)ノ指示スル所ニ從ヒ電話開通ニ必要ナル設備ヲ負擔シ之ヲ同局ニ引渡スモノ

第十一條 電話ヲ開通シタルトキハ當該郵便局所ニ於テ一加入毎ニ其ノ電話番號ヲ定ム

第十七條 左記各號ニ該當スル者ハ電話使用料ノ附加使用料ヲ納ムヘシ但シ第二十四條ニ依リ加入區域外トナリタルト
キハ其ノ加入區域外トナリタル日ヨリ一箇年間加入區域外加入ノ附加使用料ハ之ヲ免除ス

第二十條 加入申込者又ハ加入者其ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ其ノ請求書ヲ當該郵便局所ニ提出スヘシ但シ他人ノ名

一 變更セムトスルトキハ當事者ノ連署シタル請求書(附式ニ)ヲ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ
 第二十五條 加入申込者又ハ加入者左記各號ノ場合ニ於テハ各其ノ請求書(附式ニ)ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ
 二 電話機設置場所ト同一邸宅構内ニ於テ同一回線中ニ電話機又ハ電鈴ヲ増設シ又ハ之ヲ撤去セムトスルトキ
 第二十七條 加入者前條ノ請求ヲ爲ストキハ機械移轉料ヲ納ムヘシ
 第八條第三號ニ依リ加入者電話機ノ移轉ヲ請求スル場合ニ於テハ前項移轉料ノ外最初ノ加入期間内ハ通信管理局ノ指示
 スル所ニ從ヒ其ノ移轉ニ必要ナル設備ヲ負擔シ之ヲ同局ヘ引渡サシムルコトアルヘシ
 第三十一條第二項
 第八條第三號ノ加入申込者ニシテ電話開通ニ必要ナル設備ヲ負擔シ支障ヲ生シタルトキハ其ノ加入申込ハ之ヲ取消スコ
 トアルヘシ
 第三十四條 第一條第二項及第二十六條但書ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ通信管理局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ加入區域外ニ
 係ル電話線路ヲ建設シ之ヲ同局ニ引渡スヘシ
 第三十五條 特ニ必要ト認ムル者ニ限リ電話線ノ專用ヲ許可スルコトアルヘシ其ノ專用ニ關スル條件及料金等ハ別ニ之ヲ
 定ム
 第三十六條 他ノ加入區域内ニ在ル郵便局所ニ屬スル加入者トノ通話及電話通話ヲ取扱フ郵便局所(以下郵便局トシテ)ノ電話
 機又ハ自動電話機ニ依リ通話ハ毎三分時間迄ヲ以テ一通話時トシ他ニ通話請求ナキ場合ノ外ニ通話時ヲ起シテ繼續スル
 コトヲ得ス其ノ通話順序ハ請求ノ順序ニ依リ但シ通話請求ノ順序ニ依リ接続ヲ爲ス場合ニ於テ之カ通話ヲ爲ササルトキ
 ハ其ノ請求ハ消滅スルモノトス
 第四十九條 電話ニ關スル料金左ノ如シ
 三 電話使用料 一 加入毎ニ 甲地年額金七十二圓
 乙地年額金六十圓
 四 附加使用料 一 加入區域外加入 加入區域外電話線路ノ線 年額金一圓五十錢
 條延長一公里毎ニ
 前項第一號乃至第三號ノ土地ノ區別第五號以外ノ通話ヲ爲シ得ル區域及其ノ電話料ハ別ニ之ヲ告示ス
 第五十二條 電話開通カ前條各期ノ中途ナルトキハ其ノ初期ノ電話使用料及附加使用料ハ電話開通ノ日ヨリ其ノ期ノ末日
 ニ至ルマテノ日數ニ應ジ年額金ノ日割ヲ以テ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ加入後附加使用料ヲ納ムヘキ
 場合ノ生シタルトキ及附加使用料ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ
 第五十六條 電話機又ハ増設機械ノ變更ニ依リ其ノ附加使用料ニ異動ヲ生シタルトキハ日割ヲ以テ其ノ不足額ヲ徵收シ過
 額ハ之ヲ還付セス

第六十條 加入者加入期間内ニ於テ加入ヲ取消シ又ハ加入ヨリ除名セラレタルトキト雖其ノ期間内ノ電話使用料及附加
 使用料並其ノ期間ノ歷スル會計年度内ノ電話番號表掲載料ハ之ヲ免除セス
 第六十六條ニ依リ通話ヲ停止セラレタルトキハ其ノ停止期間中ノ電話使用料及附加使用料ハ之ヲ免除セス
 長距離電話通話ノ廢止又ハ加入區域外ヨリ加入區域内ヘ及加入區域外ニ於ケル電話機附屬品ノ移轉、電話機ノ變更及増設
 機械ノ撤去、變更若ハ第二十八條ニ依リ電話機接続ノ廢止ノ場合ニ於テモ其ノ明ノ附加使用料ハ之ヲ減免セス
 ○統監府令第十七號(官報 六月二十八日)

明治四十一年九 統監府令第三十九號特設電話規則中左ノ通改正ス

明治四十二年六月十九日

統監 子爵曾禰荒助

第七條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

三 第十六條第一項ノ場合ニ於テハ電話規則ニ依ル電話開始以後ニ屬スル電話交換料及附加交
 換料

第八條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 第一項第二號ノ場合ハ料金納付ノ日ヨリ同第三號ノ場合ハ電話規則ニ依ル電話開始ノ日ヨ
 リ五箇月間

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ニ依リ電話規則ニ依ル電話ニ加入シタル者ノ電話交換料及附加交換料ハ之ヲ電話使用料及
 附加使用料ニ充用スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十二年六月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第三十九號特設電話規則(明治四十一年九月二十九日官報)抄録
 第七條 左ノ特設電話ニ關スル既納ノ料金ハ其ノ納付人ノ請求ニ依リ通貨ヲ以テ納メタルモノハ通貨、郵便切手ヲ以テ納メ

タルモノハ郵便切手ヲ以テ之ヲ選付シ未納ノ料金ハ之ヲ徴收セス

- 一 特設電話ノ加入ヲ認可セザリントキハ其ノ加入登記料
- 二 加入者ノ設備シタル線路及機械等ニ原因シタルニ非スシテ電話不通ニ至リ其ノ日數十五日以上ニ涉リタルトキハ年額金ノ日割ニ依ル其ノ不通期間ノ電話交換料及附加交換料

前項第二號ノ不通ノ日數ハ當該郵便局所ニ於テ其ノ事故ヲ認メタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 前條ニ依ル料金選付ノ請求ハ左ノ期間内ニ其ノ料金ヲ納付シタル郵便局所ニ之ヲ爲スヘシ

- 一 第一項第一號ノ場合ハ其ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ六十日間
- 二 第二項第二號ノ場合ハ料金納付ノ日ヨリ五箇月間

○統監府令第十八號(官報 六月二十八日)

明治四十一年九月統監府令第四十號官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話維持規程中左ノ通改正ス

明治四十二年六月十九日

統監 子爵曾禰荒助

第七條ノ二 特設電話規則第十六條第一項ノ場合ニ於テハ特設電話ノ維持依託ハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ電話規則ニ依ル電話開始以後ニ屬スル維持料ハ納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付シ未納ノ料金ハ之ヲ徴收セス其ノ請求期間ハ該電話開始ノ日ヨリ五箇月間トス

附則

本令ハ明治四十二年六月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第四十二號(官報 六月八日)

明治三十八年五月府令第三十四號臺灣總督府郵便切手類賣下賣捌規則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第七條中其ノ所轄郵便局又ハ最寄一、二等郵便局ヨリ、一、二等郵便局ヨリ、ニ改ム

第十一條乃至第十三條第十七條乃至第二十四條及第二十六條中「一、二等」ヲ削ル

第十五條中「三等郵便局所轄區内」ヲ削ル

第二十七條 此ノ規則ニ依リ三等郵便局區内ノ郵便受取所並郵便切手賣捌所ト一、二等郵便局間ニ受授スル文書ハ總テ其ノ所轄三等郵便局ヲ經由スヘシ

第二號様式中表面ノ部所轄一、二等局之印ヲ所轄郵便局之印ニ改ム

附則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第三十四號臺灣總督府郵便切手類賣下賣捌規則(明治三十八年六月九日官報)抄録

第七條第一項

三等郵便局ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ所轄郵便局又ハ最寄一、二等郵便局ヨリ、郵便受取所並郵便切手賣捌所ニ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ所轄郵便局ヨリ賣下ヲ受クヘシ但シ所在地ノ關係上所轄郵便局ニ於テ賣下ヲ受クルラ不便トスル郵便受取所又ハ郵便切手賣捌所ニ在テハ所轄郵便局ノ承認ヲ受テ最寄郵便局又ハ郵便出張所ヨリ賣下ヲ受クルコトヲ得

第十五條第一項

三等郵便局所轄區内ノ郵便及電信受取所並郵便切手賣捌人ニ於テ豫メ賣下局ノ承認ヲ得タルトキハ當該局集配人ニ郵便切手類ノ買受ヲ依託スルコトヲ得

第二十七條

此ノ規則ニ依リ三等郵便及電信局區内ノ郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ヨリ所轄一、二等郵便電信局へ差出スヘキ文書又ハ返納スヘキ郵便切手賣捌免許證等ハ其ノ所轄三等郵便及電信局ヲ經由スヘシ

○臺灣總督府令第四十三號(官報 六月八日)

明治四十年三月府令第十四號中「第十五條第十九條」ヲ削ル

附則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年五月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔參照〕

臺灣總督府令第十四號(明治四十年四月一日官報)抄錄
明治三十九年八月二日 遞信省令第六十一號新聞電報規則第十三條 第十五條第十九條及第二十條ヲ除キ之ヲ本島ニ適用ス但シ遞信大臣ノ職權ニ屬スル事項ハ臺灣總督之ヲ行ヒ一等郵便局ノ處理スヘキ事項ハ新聞社又ハ新聞通信社所在地ノ一、二等郵便電信局ニ於テ之ヲ處理ス

○臺灣總督府令第四十四號(官報 六月八日)
臺灣總督府高等女學校規則左ノ通相定ム

明治四十二年五月三十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣總督府高等女學校規則

- 第一條 高等女學校ハ内地人ノ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トス
- 第三條 高等女學校ニ補習科ヲ置ク其ノ修業年限ハ一箇年トス
- 第四條 高等女學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者トス
- 第五條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本校卒業者又ハ他ノ高等女學校ヲ卒業シタル者トス
- 第六條 高等女學校ノ學科目ハ修身、國語、英語、歴史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス
- 前項ノ學科目ノ外學校長ニ於テ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ隨意科目トシテ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得
- 第七條 補習科ノ學科目ハ前條ノ學科目中ニ就キ學校長之ヲ定ム但シ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ必要ナル他ノ學科目ヲ加フルコトヲ得

第八條 生徒身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其ノ生徒ニ課セサルコトヲ得
第九條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スルノ必要アルトキハ臺灣總督ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十一條 休業日ハ左ノ如シ

一 祝日、大祭日

二 臺灣神社例祭日、始政紀念日

三 日曜日

四 夏季休業日 七月十一日ヨリ八月三十一日マテ

五 冬季休業日 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日マテ

前項ノ外學年末ニ於テ七日以内ノ休業ヲ爲スコトヲ得

第十二條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第十三條 傳染病豫防ノ爲其ノ他學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受ケ臨時休業スルコトヲ得

非常變災ノ場合ニ於テ認可ヲ受ケル暇ナキトキハ學校長ハ休業シタル後遲滞ナク臺灣總督ニ報告スヘシ

第十四條 授業料ハ一箇月一圓六十錢トス

第十五條 十五日前ニ退學シ又ハ十六日後ニ入學シタル者ノ授業料ハ八十錢トス學校ノ都合ニ依リ十五日前又ハ十六日後全ク授業ヲ休止シタルトキ亦同シ

第十六條 夏季休業又ハ學校ノ都合ニ依リ引續キ休業一箇月ニ互リタルトキ又ハ缺席引續キ一箇月ニ互リタル者ハ一箇月分ノ授業料ヲ徴收セス

第十七條 學科ノ程度、教授時數、入學、在學、退學及懲戒ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外明治三十四年三月文部省令第四號ヲ準用ス

第十八條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ特ニ規定スルモノノ外臺灣總督ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十年五月府令第三十四號臺灣總督府高等女學校規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際明治四十年五月府令第三十四號臺灣總督府高等女學校規則ニ依リ現ニ在學スル者ハ本令ニ依ル在學者トス

○臺灣總督府令第四十五號(官報 六月十六日)

臺灣關稅規則施行規則ニ依リ稅關ニ納付スヘキ手数料及使用料左ノ通相定ム

本令ハ明治四十二年六月七日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年六月府令第四十號ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

稅關、基隆支署、安平支署及打狗支署臨時開廳特許手数料

一 午前八時ヨリ午後六時迄 一時間迄毎ニ 十圓

一 午後六時ヨリ同十二時迄 一時間迄毎ニ 十五圓

一 午後十二時ヨリ午前六時迄 一時間迄毎ニ 二十圓

一 午前六時ヨリ同八時迄 一時間迄毎ニ 十五圓

但シ内地輸送ノ貨物ニ對シテハ日出ヨリ日没迄一時間迄毎ニ五圓日没ヨリ日出迄一時間迄毎ニ七圓五十錢

稅關支署、基隆支署、安平支署、打狗支署、臨時開廳特許手数料

一日出ヨリ日没迄 一時間迄毎ニ 五圓

一日没ヨリ日出迄 一時間迄毎ニ 七圓五十錢

臨時開廳ハ單ニ出入港屑ヲ爲スニ止マルトキハ稅關及稅關支署トモ其ノ特許手数料ハ半額トス

稅關及稅關支署貨物積卸又送致特許手数料

一日出ヨリ日没迄 西洋形船ハ一時間迄毎ニ 二圓

日本形船及支那形船ハ一時間迄毎ニ 一圓

一日没ヨリ日出迄 西洋形船ハ一時間迄毎ニ 三圓

日本形船及支那形船ハ一時間迄毎ニ 一圓五十錢

稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於ケル檢査特許手数料

一 檢査ニ要スル時間 一時間迄毎ニ 三圓

但シ旅費ヲ要スルトキハ別ニ其ノ實費ヲ加フ

外國貿易船不開港出入特許手数料

一回ニ付 十圓

臺灣關稅規則施行規則第四十條ニ依ル手数料

一 證明 每一件 二圓

一 輸出貨物日計表 每一箇月 十圓

一 其他船舶貨物ニ關スル計表 每一件 五圓乃至五十錢

臺灣關稅規則施行規則第四十一條ニ依ル使用料

一 解橋 船舶一隻ニ付 一日 五圓

一 土地 一坪ニ付 一箇月 十五錢乃至五錢
 一 建物 一坪ニ付 一箇月 六十錢乃至二十錢
 土地建物ノ使用料ハ一箇月未滿ナルトキハ十五日迄ハ半箇月分十五日ヲ超ユルトキハ一箇月分ヲ徵收ス

〔參照〕

明治三十四年七月二日臺灣總督府令第四十號ハ本號ト同伴ナリ

○臺灣總督府令第四十六號(官報 六月十六日)

打狗港内ヲ出入又ハ運航スル船舶ハ築港工事ノ妨害トナルヘキ區域ニ投錨又ハ運航シ若ハ築港用船舶ノ運航又ハ投錨ノ自由ヲ妨害シ又ハ衝突ノ虞アルトキハ追越又ハ横切ヲ爲スコトヲ得ス
 前項ノ區域ハ臨時臺灣工事部長ノ指定スル所ニ依ル

本令ニ違反シタルトキハ船長又ハ船舶ノ操縦者ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料ニ處ス

明治四十二年六月六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第四十七號(官報 六月十六日)

明治四十二年律令第二號ニ依リ行政ノ處分ヲ以テスル印紙ノ官沒ハ廳長ニ於テ命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スヘシ

附 則

本令ハ明治四十二年律令第二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年六月九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○關東都督府令第九號(官報 六月四日)

明治四十年八月府令第四十三號警察官署經費渡切規則中左ノ通改正ス

明治四十二年五月二十四日

關東都督 子爵大島義昌

第二條 警務支署、總領事館分館、警察署、警察官吏派出所、駐在所又ハ出張所ニ於テ渡切經費ノ交付ヲ受クヘキ主任官ハ當該所在勤者中ノ上席者トス

第九條 中民政署長ノ次ニ警務署長ヲ加フ

附 則

本令ハ明治四十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

關東都督府令第四十三號警察官署經費渡切規則(明治四十年八月二十一日官報)抄録

第二條 警察官吏派出所、駐在所又ハ出張所ニ於テ渡切經費ノ交付ヲ受クヘキ主任官ハ當該所在勤者中ノ上席者トス

第九條 民政署長ハ一時ニ數月分ノ交付ヲ要シ又ハ前條ニ依リ交付金額ノ増減ヲ要スル場合ハ其ノ事由ヲ具シ關東都督府ノ承認令達ヲ受クヘシ

○統監府令第十九號(官報 七月十日)
別ニ告示スル紀念郵便繪葉書ヲ發行シ左ノ郵便局ニ於テ明治四十二年五月統監府令第十號郵便切手類及收入印紙買捌規則ニ準シ之カ買捌ヲ爲サシム

明治四十二年七月三日

統監 子爵曾禰荒助

京城郵便局

光化門郵便局

南大門郵便局

西大門郵便局

○統監府令第二十號(官報 七月三十一日)

統監府特許局特許品陳列所規則左ノ通定ム

明治四十二年七月二十四日

統監 子爵曾禰荒助

統監府特許局特許品陳列所規則

第一條 本所ハ韓國及日本國ニ於ケル特許發明、登録實用新案、登録意匠ノ見本、雜形及登録商標ノ見本其ノ他參考品ヲ陳列ス

第二條 第一條ニ該當スル物品ノ出品若ハ寄贈ヲ爲サムトスル者ハ其ノ旨統監府特許局ニ願出ツヘシ

出品ニ關スル規則ハ統監府特許局長之ヲ定ム

第三條 陳列品ニハ其ノ效果作用ノ概要ヲ摘記シタル解説書ヲ附シ尙機械類ハ運轉シテ其ノ實用ヲ一般ニ觀覽セシムルコトアルヘシ

第四條 觀覽人陳列品ノ説明ヲ望ムトキハ其ノ旨掛員ニ申出ツヘシ

第五條 陳列品ニ關シ問合ヲ爲サムト欲スル者アルトキハ本所ハ其ノ依頼ニ應シ紹介其ノ他相當ノ便宜ヲ與フルコトアルヘシ

第六條 本所ハ出品人ノ依頼ニ依リ陳列品ノ即賣ヲ爲スコトアルヘシ

第七條 本所ハ共進會、品評會、商工業學校又ハ物産陳列所等ニ陳列品ノ貸付又ハ讓渡ヲ爲スコト

アルヘシ

第八條 陳列品ニ關スル照會應答其ノ他ノ事項ニシテ重要ナルモノハ時時特許公報、實用新案公報又ハ商標公報ニ掲載ス

第九條 本所ハ商工業ニ關スル報告、統計、參考書類、特許公報、實用新案公報及商標公報等ヲ備付ケ一般ノ縦覽ヲ許ス

第十條 本所ハ京城永樂町一丁目統監府特許局構内ニ置ク

第十一條 本所陳列品ノ縦覽ハ無料トス

第十二條 本所ハ日曜日、大祭祝日ノ翌日及十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテヲ除キ毎日左ノ時間ニ於テ縦覽ヲ許ス但シ時宜ニ依リ之ヲ伸縮シ又ハ縦覽ヲ停止スルコトアルヘシ

三月一日ヨリ六月三十日マテ 午前九時ヨリ午後五時ニ至ル

七月一日ヨリ九月二十日マテ 午前八時ヨリ正午ニ至ル

九月二十一日ヨリ十月三十一日マテ 午前九時ヨリ午後五時ニ至ル

十一月一日ヨリ翌年二月末日マテ 午前十時ヨリ午後四時ニ至ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ陳列所開所ノ日ハ別ニ之ヲ告示ス

○臺灣總督府令第四十八號(官報 七月七日)

明治四十二年勅令第五十六號第二條ニ依リ關稅通路左ノ通相定ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年六月二十七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

淡水基隆間

淡水ヨリ基隆ニ至ル鐵道線路

基隆打狗間

基隆ヨリ打狗ニ至ル鐵道線路

○臺灣總督府令第四十九號(官報 七月七日)

明治三十二年八月府令第九十號臺灣關稅規則施行細則中左ノ通改正ス

明治四十二年六月二十七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條第二條及第三條中「稅關出張所」ヲ「稅關支署」ニ改ム

第四條中「臺灣關稅規則施行細則」ヲ「臺灣關稅規則施行規則」ニ改ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第五十號(官報 七月七日)

明治四十二年五月府令第三十八號臺灣關稅規則施行規則第二十五條ニ依リ收容貨物ノ敷料左ノ通相定ム

明治四十二年六月二十七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

一 重量ニ依リ關稅ヲ賦課セラルヘキ貨物 五百斤迄毎ニ一日金三錢

二 前號以外ノ貨物 十立方尺迄毎ニ一日金三錢

料金ノ徵收上便宜ト認ムルトキハ第一號ノ貨物ヲ第二號ノ定率ニ第二號ノ貨物ヲ第一號ノ定率ニ依ラシムルコトヲ得

收容ノ初日ハ敷料ヲ徵收シ解除ノ日ハ徵收セス

附則

本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年五月府令第三十五號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現存スル收容貨物ニ付テハ從來ノ敷料定率ニ依ル

〔參照〕

明治三十六年五月十六日 臺灣總督府令第三十五號ハ本號ト同伴ナリ

○臺灣總督府令第五十一號 (官報 七月二十二日)

臺灣土地收用規則ヲ明治四十二年七月十六日ヨリ臺北廳大加納堡隘脚及大稻埕ニ施行ス

明治四十二年七月十六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第五十二號 (官報 七月二十七日)

砂糖消費稅法施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年七月二十日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

砂糖消費稅法施行規則

第一條 砂糖糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ一製造場毎ニ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添ヘ左ノ

事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一 製造場ノ位置

二 製造ノ種類

三 製糖器械ノ種類、壓榨能力、發動力ノ區分

四 製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

原料採取區域外ニ於テ舊式精糖ヲ設立セムトスルトキハ豫メ所轄廳ノ承認ヲ受クヘシ

第二條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ毎年製糖著手三十日以前ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

一 製糖ノ著手及終了豫定期日

二 製糖ノ種類別見込高

三 製品ノ記號

四 一日ノ製糖作業時間、製糖能力及一期間作業豫定日數

五 原料ノ種類、見込斤量及原料採取區域外ニ在リテハ其ノ引取先

六 糖廠ニ在リテハ煮沸用釜數、從業者氏名及牛ノ頭數

七 舊慣ニ依ル共同組織ノ糖廠ニ在リテハ各共同者ノ住所氏名及其ノ組織ノ内容

第三條 前二條ノ申告事項及圖面ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄廳ニ申告スヘシ

製造ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由並休止期間ヲ定メ直ニ申告スヘシ休止期間ヲ變更セムト

スルトキ亦同シ

製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄廳ニ申告スヘシ

第四條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスル者ハ移出場ヲ定メ土地建物ノ圖面ヲ添ヘ所

轄廳ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ移出場ヲ以テ製造場ノ一部ト看做ス

前項ノ移出場ニ砂糖、糖蜜、糖水ヲ移出セムトスルトキハ其ノ種類、記號、斤量、箇數及移出ノ日ヲ

定メ其ノ都度收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ移出シタルトキハ收稅官吏ノ下付シタル移出承認書ヲ移出場所轄

廳ノ收稅官吏ニ提出スヘシ

第五條 製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ左ノ事項ヲ所轄廳ニ

申告スヘシ

一 引取ノ目的

二 引取先

三 製糖ノ種類、記號、斤量、箇數

四 引取ノ日

五 税金額(税金相當金額)

六 徵收猶豫期間(擔保期間)

七 擔保物

製造場ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ル場合ニ於テハ前項申告書ニ第二十一條第二項ニ依リ收稅官吏ノ下付シタル検査濟證ヲ添附スヘシ

第六條 砂糖消費稅法第十一條ノ一ニ依リ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ラムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ検査濟證ヲ添附シ所轄廳ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前條第一項ノ申告ヲ要セス

一 引取ノ目的

二 引取先

三 製糖ノ種類、記號、斤量、箇數

四 税金相當金額

五 引取ノ日

六 製造場ノ位置

七 製造ノ時期

八 引取者ト製造者ト異ナルトキハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

前項ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ承認ヲ受クヘシ

第七條 第五條ノ申告又ハ前條ノ申請アリタルトキハ廳ハ検査濟證ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類及斤量ヲ査定シ引取承認書ヲ下付スヘシ

第八條 砂糖消費稅法ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及有價證券ニ限ル

前項ノ擔保額ハ所轄廳之ヲ指定スヘシ

第九條 擔保ヲ提供セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シスル擔保提供書ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

一 擔保スヘキ税金額又ハ税金相當金額

二 引取ルヘキ砂糖、糖蜜、糖水ノ種類及斤量

三 擔保物ノ種類、數量、價格

四 擔保期間

五 擔保提供ノ原因

六 擔保提供者ノ住所、氏名、又ハ名稱

根擔保提供ノ場合ニ於テハ前項第一號及第二號ノ記載ヲ要セス

第十條 擔保物ハ提供者之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄廳ニ提出スヘシ

但シ廳所在地ニ金庫ナキトキハ之ヲ供託セスシテ所轄廳ニ提供スルコトヲ得

前項但書ニ依リ廳ニ於テ擔保ノ提供ヲ受ケタルトキハ當該官吏ハ擔保領收證ヲ提供者ニ下付シ擔保物ハ之ヲ供託スヘシ

第十一條 擔保物ノ價格減少シタルト認メタルトキハ所轄廳ハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十二條 砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ砂糖、糖蜜、糖水引取承認後六箇月以内ニ輸出免狀又ハ之ニ代ハルヘキ書類ヲ添附シ所轄廳ニ申請スヘシ

第十三條 砂糖消費稅法第十一條ノ一第二項ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ供託受領證又ハ擔保ヲ提供シタル廳ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造場カ擔保解除ヲ申請スヘキ廳ノ所轄外ナルトキハ製造場所轄官廳ノ下付シタル砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

- 第十四條 擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ決行スヘシ
- 公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ
- 第十五條 公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ
- 第十六條 砂糖消費稅法第四條第二項但書第五條第二項但書及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得
- 第十七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場ヨリ引取ラムトスル者ハ其ノ引取ノ際第七條ノ引取承認書ヲ製造者ニ交付スヘシ製造者ハ引取承認書ノ交付ヲ受ケタル後ニ非サレハ現品ノ引渡ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十八條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ本島外ニ搬出セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記シ製造場所轄廳ニ申請シ搬出證明書ノ下付ヲ受クヘシ但シ搬出期限ハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 一 製糖ノ種類、記號、斤量、箇數
 - 二 引取先
 - 三 引取ノ年月日及引取者ノ住所、氏名又ハ名稱
 - 四 搬出先
 - 五 搬出港名
 - 六 搬出期限
 - 七 搬出スヘキ砂糖、糖蜜、糖水ノ藏置場
 - 八 搬出者ノ住所、氏名又ハ名稱
- 前項ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ書替ヲ受クヘシ

- 搬出期限内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ搬出證明書ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第十九條 搬出證明書ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ外國ニ輸出シ又ハ内地ニ移送スル際之ヲ稅關ニ提出スヘシ
- 第二十條 砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ政府ノ承認ヲ得テ砂糖、糖蜜ヲ原料トシ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルトキハ左ノ事項ヲ所轄廳ニ申告スヘシ
 - 一 原料引取年月日
 - 二 原料ノ種類、斤量
 - 三 製造濟年月日
 - 四 製造シタルモノノ種類、數量
- 第十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十一條 收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場又ハ販賣場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水其ノ原料品、製造用器具、器械又ハ帳簿書類ヲ検査スヘシ
- 收稅官吏製造場ニ於テ砂糖、糖蜜、糖水ノ検査ヲ爲シタルトキハ検査濟證ヲ製造者ニ下付スヘシ前項ニ依リ砂糖ノ検査ヲ爲シタルトキハ其ノ包裝ニ檢印ヲ押捺スヘシ
- 第二十二條 檢印アル包裝ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ再用スルコトヲ得ス
- 第二十三條 糖汁又ハ糖蜜ノ容器及貯溜所ハ其ノ使用前收稅官吏ノ檢定ヲ受クヘシ
- 第二十四條 收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ製造用器具、器械ニ封緘其ノ他監督上必要ナル方法ヲ施スコトヲ得
- 第二十五條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造又ハ販賣ニ關シ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ製造者又ハ販賣者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ
- 第二十六條 砂糖製造者ハ其ノ製造ニ係ル砂糖ヲ一箇質量百斤トシ「アンペラ」包裝ヲ施スヘシ但

シ所轄廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
砂糖ノ包裝ヲ改裝セムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第二十七條 査定済ノ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場内ニ藏置スルトキハ査定未済ノモノト區別シ收稅
官吏ノ承認ヲ受クヘシ

検査済ノ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場内ニ藏置スルトキハ検査未済ノモノト區別シ收稅官吏ノ承認
ヲ受クルニ非サレハ其ノ位置ヲ變更スルコトヲ得ス

第二十八條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者其ノ製造場内ニ常居スル能ハサルトキハ代理人ヲ定メ所轄
廳ニ届出ヘシ

第二十九條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者其ノ製造場區域内ニ於テ販賣業ヲ兼營セムトスルトキハ其
ノ旨所轄廳ニ申告スヘシ但シ其ノ製造場ト販賣場トハ明確ニ區別シ之カ圖面ヲ添附スヘシ

第三十條 消費稅納付前又ハ擔保提供前ノ砂糖、糖蜜、糖水ニシテ災害其ノ他ノ事故ニ因リ亡失
シタル場合ニ於テハ製造者ハ直ニ之ヲ所轄廳ニ申告スヘシ

第三十一條 砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 原料ノ種類、斤量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ其ノ價格、引取ノ日及引渡人ノ住所、氏名
又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、斤量及使用ノ日

三 製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、記號、斤量、箇數及製造ノ日

四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、記號、斤量、箇數、價格、引渡ノ日及引取人ノ住所、氏
名又ハ名稱

第三十二條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、記號、斤量、箇數、價格、引取ノ日及引渡人ノ住所、氏名又

ハ名稱

二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、記號、斤量、箇數、價格、販賣ノ日及買受人ノ住所、氏名又
ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第三十三條 第十七條第一項ニ依リ製造者ニ於テ交付ヲ受ケタル引取承認書ハ交付ノ日ヨリ第三
十一條及第三十二條ノ帳簿ハ使用済ノ日ヨリ各二箇年間保存スヘシ

第三十四條 甘蔗耕作者ハ製糖年期毎ニ左ノ事項ヲ所轄廳ニ届出ヘシ但シ原料採取區域内ニ於テ
ハ此ノ限ニ在ラス

一 土地ノ坐落、地番、地目

二 甘蔗ノ種類及其ノ作付甲數

三 新植、株出ノ別及其ノ株數

四 收穫見込高

五 使用ノ目的

六 引渡先

七 作付又ハ株出ノ月

八 耕作者ノ住所、氏名

前項ノ届書ハ街庄社長ニ於テ其ノ年五月末日限之ヲ取纏メ所轄廳ニ進達スヘシ

第三十五條 原料採取區域ノ限定ヲ受ケタル砂糖製造者ハ毎年六月末日限甘蔗作付區域ノ概況圖
ヲ添ヘ第三十四條ノ事項ヲ所轄廳ニ届出ヘシ

第三十六條 前二條ニ依リ届出ノ後更ニ新植、株出ヲ爲シ又ハ災害其ノ他ノ事故ニ因リ甘蔗ノ作
付甲數又ハ株數ニ著シキ減差ヲ生スルトキハ直ニ其ノ旨所轄廳ニ届出ヘシ

第三十七條 甘蔗耕作者ハ其ノ耕作地一區域毎ニ左ノ事項ヲ記シタル標本ヲ建ツヘシ

- 一 土名、地番
- 二 甘蔗ノ種類、株數
- 三 耕作者ノ氏名

第三十八條 收稅官吏蔗園ノ調査ヲ爲ストキハ甘蔗耕作者之ニ立會スヘシ

收稅官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ街庄社長、土地整理委員又ハ砂糖製造者ヲ立會セシムルコトヲ得

第三十九條 收稅官吏ニ於テ第三十四條乃至第三十六條ノ届出ニ誤謬アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ之カ再調ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ甘蔗耕作者又ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十條 第二十八條、第三十四條第一項、第三十五條及第三十六條ノ届出ヲ詐リ若ハ怠リタル者又ハ第十七條、第二十二條、第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十

三條、第三十七條、第三十八條及第三十九條第二項ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十一條 申告書、申請書及届書ハ別記第一號乃至第十三號ノ様式ニ依ルヘシ

第四十二條 本令中應ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラレル砂糖、糖蜜、糖水ニ付テハ稅關之ヲ行フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條第二項及第三十五條ノ期限ハ明治四十二年ニ限リ本令施行ノ日ヨリ三十日以内トス
本令施行以前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造スル者ハ本令第一條ノ申告ヲ要セス

明治三十四年九月府令第五十六號砂糖消費稅法施行細則ハ本令發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(別記様式)

第一號

砂糖製造申告書

- 一 製造場ノ位置 何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
- 二 糖製ノ種類 第何種(白糖)分蜜糖(青糖)
- 三 製糖器械ノ種類 何々式製糖器(改良壓榨器、立式石車)
- 四 壓榨能力 何噸(何斤)
- 五 發動力ノ区分 蒸汽(石油發動機、電力、牛ノ働力)

右申告候也
年 月 日

何廳長宛

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
砂糖製造者 何 某

第二號

何年期製糖申告書

- 一 製糖著手豫定期日 何年何月何日
- 二 製糖終了豫定期日 何年何月何日
- 三 製糖ノ種類別見込高及製品記號

種類	種 類				斤量計			
	第一種	第二種	第三種	第四種				
分蜜及白糖	記號	斤量	記號	斤量	記號	斤量	記號	斤量
分蜜車糖								
何 糖								
合 計								

- 四 一日ノ製糖作業時間 自何時何時間(一晝夜)
- 五 一日ノ製糖能力 何斤 此原料甘蔗何噸何斤何糖
- 六 一期間作業豫定日數 何日 (外休業日數何日)
- 七 原料ノ種類別見込斤量引取先

甘蔗種類	斤	量	引	取	先
改其種					何堡(里)何街(庄)土名何々何番地何某
紅 蔗					
奶 蔗					
竹 蔗					
計					

- 八 煮沸用釜數 何釜(何組)
- 九 從業者氏名 何某 何某
- 一〇 牛ノ頭數 何頭 內 運搬用何頭
- 一一 共同者住所氏名及其組織ノ内容

内容區分	共同者住所氏名
何掛(何分)金何程	何邸何堡(里)何街(庄)土名何々何番地何某
計	

右申告候也

年 月 日

何廳長宛

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地

砂糖製造者 何 某 印

備考

第三號

砂糖製造休止(休止期)間變更(申告書)

- 一 製造場位置 何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
 - 二 休止事由 何々
 - 三 休止期間 自何月何日何時 至何月何日何時 滿何日間(何日何時間)
- 右申告候也又ハ何月何日ヨリ製造休止中ノ迄何月何日迄休止期間變更ニ付此段申告候也
- 明治 年 月 日

何廳長宛

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地

砂糖製造者 何 某 印

第四號

移出場承認申請書

- 一 製造場位置 何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
 - 二 移出場ノ位置 何邸何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
 - 三 移出ノ事由 何々
 - 四 移出ノ期間 自何年何月何日 至何年何月何日
- 右申請候也

明治 年 月 日

第五號

何廳長宛

引取申告書

- 一 引取ノ目的
 - 二 引取先
 - 三 製糖ノ種類、配號、斤量、箇數
 - 四 引取ノ日
 - 五 税金(税金相當額)
 - 六 徵收擔保期間(擔保期間)
 - 七 擔保物
- 内地移送(外國輸出(島内消費))
何堡(里)何街(庄)土名何々何某製造場(稅關何々支署)
第何種分蜜糖(青糖)何記號 何斤 何箇
何月何日限
金何圓
何年何月何日ヨリ何年何月何日ニ至ル何箇月
別紙擔保提供書ノ通(何年何月何日提供ノ根擔保ヲ以テ充當)

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
砂糖製造者 何 某 印

何廳長宛

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
引取者 何 某 印

第六號

原料糖引取承認申請書

- 一 引取ノ目的
 - 二 引取先
 - 三 製糖ノ種類、配號、斤量、箇數
 - 四 税金相當金額
- 酒精又ハ何々原料
何堡(里)何街(庄)土名何々何某製造場(稅關何々支署)
第何種何糖何記號 何斤 何箇
何圓

- 五 引取ノ日
 - 六 製造場ノ位置
 - 七 製造ノ時期
 - 八 製造者ノ住所氏名
- 何月何日限
何廳何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
自何年何月何日
至何年何月何日
何廳何堡(里)何街(庄)土名何々何番地何某

何廳何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
引取者 何 某 印

第七號

擔保物提供書

- 一 税金額(税金相當金額)
 - 二 引取ル(キ砂糖)ノ種類、斤量
 - 三 擔保物ノ種類、數、價格
 - 四 擔保期間
 - 五 擔保提供ノ原因
 - 六 右(根)擔保提供候也
- 何圓
第何種砂糖(糖盤)何斤
何々株券 何枚
但 額面何程 自第何號何枚
此拂込金額 至第何號何枚
何々何
自何年何月何日 何箇月間
至何年何月何日 何箇月間
砂糖消費稅法第四條第一項但書
(第五條第一項(第十一條)ノ第二項)

何廳何堡(里)何街(庄)土名何々何番地
擔保提供者 何 某 印

第八號

擔保解除申請書

一 擔保物 何々株券額面何程 自第何號 何枚
至第何號 何枚

但何年何月何日砂糖消費稅法第何條ニ依リ提供ノ分
納稅濟(何々)

右申請候也
年 月 日

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地

擔保提供者 何 某 印

第九號

砂糖(糖蜜)(糖水)搬出證明書下付申請書

一 製糖ノ種類記號、斤量、箇數 第何種分蜜糖(青糖)何記號何斤何箇

二 引取先 何堡(里)何街(庄)何々製糖會社(何々)

三 引取年月日及引取者ノ住所 何年何月何日何堡(里)何街(庄)何某

四 搬出先 內地(外國)

五 搬出港名 打狗(安平)

六 搬出期限 何月何日限

七 搬出場所 何堡(里)何街(庄)土名何々何番地(何々)

右申請候也
年 月 日

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地

搬出者 何 某 印

備考

一 搬出港ヲ豫定シ難キトキハ打狗又ハ安平等ト併記スルモ妨ケナシ

第十號

再製糖(酒精)製造濟申告書

原料引取年月日	使用原料		製造濟		摘要
	種類	斤量	年月日	種類	

右申告候也
明治 年 月 日

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地

製造者 何 某 印

備考

一 製造場ノ位置製造者ノ住所ト異ナルトキハ之カ區分記號ヲ要ス

第十一號

代理人居

一 砂糖製造場 何堡(里)何街(庄)土名何々

二 代理人住所氏名 何堡(里)何街(庄)土名何々

右及御届候也

明治 年 月 日

何堡(里)何街(庄)土名何々何番地

砂糖製造者 何 某 印

何廳長宛

第二十九條ノ二中(但シ)ノ下ニ點燈數五十燈以上ノ者及ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第二十一號(官報八月十六日)

韓國銀行總裁理事ニシテ韓國銀行條例第四十一條ノ事犯アリタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス
前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

明治四十二年七月三十一日

統監 子爵曾禰荒助

○臺灣總督府令第五十五號(官報八月十七日)

明治四十二年勅令第五十六號第二條及臺灣關稅規則ニ依リ從來ノ開港ノ外開港ト爲スヘキ場所左
ノ通指定ス但シ當分ノ内支那形船ニ限リ出入スルコトヲ得
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年八月府令第八十七號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年八月七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

新竹廳管内	舊港	彰化廳管内	鹿港
苗栗廳管内	後壠	嘉義廳管内	東石港
臺中廳管内	梧棲	阿緱廳管内	東港
			澎湖廳管内
			媽宮

〔參照〕

明治三十二年八月十六日 臺灣總督府令第八十七號ハ本號ト同伴ナリ

○臺灣總督府令第五十六號(官報八月二十日)

明治四十一年律令第十三號ハ明治四十二年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年八月十四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

土地ニ關スル公正證書ヲ作成シ登記官廳、登記ノ囑託ヲ爲シタルトキハ其ノ年月日及登記官廳ヲ備考欄ニ明記スヘシ

(第二號様式)

受附簿

月日	受附	件名	證番	申請人ノ住所及氏名	備考
月 日	第 號		第 號		
月 日	第 號		第 號		
月 日	第 號		第 號		
月 日	第 號		第 號		

受附簿

月日	受附	件名	證番	申請人ノ住所及氏名	備考
月 日	第 號		第 號		
月 日	第 號		第 號		
月 日	第 號		第 號		
月 日	第 號		第 號		

○臺灣總督府令第五十八號(官報八月二十日) 公證費用規則左ノ通相定ム

明治四十二年八月十四日

公證費用規則

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 公證規則ニ依リ公正證書ノ作成ヲ申請スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

一 法律行為ノ目的ノ價格百圓マテ 一圓

一 同二百五十圓マテ 一圓五十錢

一 同五百圓マテ 二圓

一 同千圓マテ 三圓

一 同五千圓マテ 五圓

一 同五千圓以上ヲ超過スルトキハ五千圓毎ニ一圓ヲ加フ但シ五千圓ニ滿タサルモ之ヲ五千圓トス

前項ノ價格算定ニ付テハ明治四十二年勅令第七十四號公證人手数料規則第三條乃至第十二條ノ規定ニ依ル

第二條 左ニ掲グル事項ニ付證書ノ作成ヲ申請スル者ハ前條ノ區別ニ從ヒ其ノ十分ノ五ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 承認許可及同意
- 二 當事者雙方ノ履行セサル契約ノ解除
- 三 遺言ノ全部又ハ一部ノ取消
- 四 同一ノ公證官廳ニ於テ證書ニ作成セラレタル法律行為ノ補充又ハ更正
- 第三條 法律行為ニ付テノ證書作成ノ手数料ハ證書ノ紙數四枚ヲ超過スルトキハ超過シタル部分ニ付一枚毎ニ三十錢ヲ加フ
- 第四條 法律行為ニ非サル事實ニ付テノ證書作成ノ手数料ハ證書ノ原本一枚ニ付五十錢トス
- 第五條 祕密證書ニ依ル遺言書ノ方式ニ關スル記載ヲ爲ス場合及委任狀受取書又ハ拒絕證書ヲ作成スル場合ノ手数料ハ原本一枚ニ付五十錢トス
- 第六條 法律行為ト共ニ之ト牽連スル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於ケル手数料ハ前條ノ例ニ依ル但シ其ノ額カ法律行為ノミニ付テノ證書作成ノ手数料ノ額ヨリ少ナキトキハ其ノ多キ額ニ依ル數箇ノ牽連セサル事實ニ付證書ヲ作成スル場合ニ於テハ手数料ノ額ハ各事實ニ付之ヲ算定ス
- 第七條 證書ノ正本ニ執行文付與申請ノ手数料ハ五十錢トス
- 第八條 證書ノ交付又ハ證書ノ閱覽ヲ請求スル者ハ左ノ區別ニ隨ヒ手数料ヲ納ムヘシ
 - 一 正本原本若ハ付屬書類ノ交付 一枚ニ付二十五錢
 - 一 原本若ハ付屬書類ノ閱覽 一回ニ付十五錢
- 第九條 手数料ノ定メナキ事項ニ付テハ最類似スル事項ト同一ノ手数料トス
- 第十條 證書ノ紙數ヲ以テ手数料ヲ納付スル場合ニ於テハ其ノ紙數ハ一行二十字詰二十行ヲ以テ一枚トス但シ一枚ニ滿タサルトキト雖モ一枚トシテ計算ス
- 第十一條 公證官廳所在地ヨリ一里以外ノ地ニ到リ事務ヲ取扱フ場合ニ於テハ出張手数料トシテ

- 左ノ費用ヲ納ムヘシ
- 日當一日ニ付 七十錢
 - 宿泊料一泊ニ付 一圓六十錢
 - 汽車賃一哩ニ付 十錢
 - 船賃一哩ニ付 十錢
 - 車馬賃一里ニ付 四十錢

附則

本令ハ明治四十一年律令第十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年^{十月}府令第八十三號公證費用規則ハ之ヲ廢止ス

○臺灣總督府令第五十九號(官報八月二十日)

明治三十七年^{九月}府令第七十二號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目中「公正證書作成手数料」ヲ公證費用規則ノ手数料ニ改ム

附則

本令ハ明治四十二年^{八月}府令第五十八號公證費用規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年^{八月}府令第六十號(官報八月二十八日)

○臺灣總督府令第六十號(官報八月二十八日)

明治三十九年^{六月}府令第四十五號中電話交換料ノ部新店ノ次ニ左ノ如ク加フ

明治四十二年八月二十日

地名 電話交換料年額 三十六圓

○統監府令第二十二號（官報 九月六日）
明治四十一年統監府令第十二號新聞紙規則中左ノ通改正ス

明治四十二年八月三十日

統監 子爵曾禰荒助

第一條 新聞紙ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ發行地ヲ管轄スル理事官ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 題號
 - 二 記載ノ種類
 - 三 發行ノ時期
 - 四 發行所及印刷所
 - 五 發行人編輯人及印刷人ノ住所氏名年齢
- 編輯人二人以上アルトキハ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ヲ記載スヘシ
認可ヲ受ケタル後第一項第一號乃至第四號ニ掲グル事項並發行人編輯人及印刷人ヲ變更セムトスルトキハ理事官ノ認可ヲ受ケ發行人編輯人及印刷人ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ發行地ノ管轄理事官ニ届出ツヘシ
- 第一條ノ二 發行ノ時期ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第三條第一項中「管轄理事官ニ届出ツヘシ」ヲ「理事官ノ認可ヲ受クヘシ」ニ同條第二項中「届出ヲ爲スマテハ」ヲ「認可ヲ受クルマテハ」ニ改ム
- 第六條第一項ヲ左ノ如ク改ム
- 發行人ハ第一條第一項ノ認可ヲ受ケタルトキハ保證トシテ左ノ金額ヲ認可書交付ト同時ニ管轄理事官ニ納付スヘシ
- 一 京城、仁川、釜山及其ノ區域外二里以内ノ地ニ於テハ二千圓

- 二 前號ニ掲クル以外ノ理事廳所在地及其ノ區域外一里以内ノ地ニ於テハ千圓
 - 三 前二號以外ノ地ニ於テハ五百圓
 - 四 一箇月五回以下發行スルモノニ在リテハ前記各號ノ半額
- 第十二條中「禁止スル」ヲ「認可ヲ取消ス」ニ改ム
- 第十四條中第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號ヲ削ル
- 第一條第一項第三項及第三條ノ認可ヲ受ケス又ハ第一條第三項ノ届出ヲ爲サスシテ發行シタルモノ
- 第十八條 編輯人ノ責任ニ關スル本則ノ規定ハ左ニ掲クル者ニ之ヲ準用ス
- 一 編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者
 - 二 掲載ノ事項ニ署名シタル者
 - 三 取消書正誤書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者
- 發行人編輯人及印刷人ニ關スル本則ノ規定ハ第二條第二項ノ假擔當者ニ之ヲ準用ス
- 第十九條第一項中「第五條」ノ下ニ「第七條第三項」ヲ加ヘ第二項中「届出ヲ爲ス」ヲ「認可ヲ申請シ又ハ届出ヲ爲ス」ニ改ム
- 第二十條 削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從來發行スル新聞紙及雜誌通信ノ類ニシテ從來ノ規定ニ依ル保證金ヲ既ニ納付シタルモノ及本年九月三十日迄ニ之ヲ納付シタルモノハ本令ニ依リ發行ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ第六條ノ保證金ハ本令施行ノ日ヨリ三箇年間ニ之ヲ填補セシム三箇年ヲ經テ尙填補セサルトキハ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

〔參照〕

統監府令第十二號新聞紙規則(明治四十一年五月六日官報)抄錄

- 第一條 新聞紙ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ發行ノ日ヨリ七日以前ニ發行地ノ管轄理事廳ニ届出ツヘシ
 - 一 題號
 - 二 記載ノ種類
 - 三 發行ノ時期
 - 四 發行所及印刷所
 - 五 發行人編輯人及印刷人ノ住所氏名年齢
- 編輯人二人以上アルトキハ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ヲ記載スヘシ
- 届出ヲ爲シタル後第一項第一號乃至第四號ニ掲クル事項及發行人編輯人及印刷人ヲ變更スルトキハ五日以前ニ發行人編輯人及印刷人ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ
- 第三條 發行人編輯人及印刷人死去シ又ハ第五條第二號及第三號ニ該當スルトキハ七日以内ニ之ニ代ルヘキ者ヲ定メ管轄理事廳ニ届出ツヘシ
- 前項ノ届出ヲ爲スマテハ假擔當者ヲ定メ發行スルコトヲ得
- 第六條第一項
 - 發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ニ添ヘ管轄理事廳ニ納付スヘシ
 - 一 京城仁川及釜山 千圓
 - 二 前號ニ掲クル以外ノ理事廳所在地 五百圓
 - 三 前二號以外ノ地 三百圓
 - 四 一箇月五回以下發行スルモノハ前記各號ノ半額
- 第十二條 新聞紙ニシテ第十條ノ規定又ハ第十一條ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ理事官ハ其ノ發賣頒布ヲ禁止シ之ヲ差押ヘ且ツ發行ヲ停止シ又ハ禁止スルコトヲ得
- 第十四條 理事官ハ左ノ各號ニ該當スル新聞紙ハ之ヲ差押フヘシ
 - 一 第一條及第三條ノ届出ヲ爲サスシテ發行シタルモノ
 - 二 保證金ヲ納メスシテ發行シタルモノ
 - 三 保證金ノ缺額ヲ納付セスシテ發行シタルモノ
- 第十八條 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙ニ掲載シタル事項ニ記名シタル者ハ編輯人ト共ニ其ノ責ヲ負フ

新聞紙ニ掲載シタル事項ニ關シ訴訟ヲ提起シタル者ニ於テ其ノ新聞紙ニ記名シタル編輯人ノ外他ニ編輯人アルコトヲ證
 明シタルトキハ該編輯人ハ其ノ新聞紙ニ記名シタル編輯人ト同一ノ責ヲ負フ
 第三條第二項ニ依ル假稱者ハ本則ニ依ル發行ノ編輯人及印刷人ト同一ノ責ヲ負フ
 第十九條 第一條乃至第五條第八條及第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行人ヲ十回以上百回以下ノ罰金ニ處ス
 本則ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テ虛偽ノ事項ヲ記載シタルトキハ發行人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十回以上百
 回以下ノ罰金ニ處ス
 第二十條 保證金ヲ納付セスシテ新聞紙ヲ發行シ又ハ第七條第三項ニ違反シタルトキハ發行人ヲ十回以上百回以下ノ罰金
 ニ處ス

○臺灣總督府令第六十一號 (官報 九月七日)
 煙草耕作區域左ノ通相定ム

本令ハ明治四十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治四十一年九月府令第四十六號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年八月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

縣名	堡里名	街	庄	名
宜蘭縣	員山堡	深灣庄	吧荖豐庄	外員山庄 大湖庄
	浮洲堡	大洲庄	紅柴林庄	中溪洲庄 洲仔庄 叭哩沙庄
	四圍堡	熱溪庄		
苗栗縣	苗栗一堡	南埔庄	馬那邦庄	西山庄 嘉盛庄 大湖庄
	苗栗上堡	草湖庄	大坪沐庄	
	藍興堡	頭汴坑庄	太平庄	車籠埔庄 番仔柴庄 草湖庄
	棟東上堡	大茅埔庄	新伯公庄	東勢角庄 水底柴庄 大坑庄
	棟東下堡	軍功寮庄	藤仔坑庄	下南坑庄 翁仔庄 朴仔口庄
	棟羅堡	阿草寮庄	萬斗六庄	
斗六縣	沙魚頭堡	福興庄	工西林庄	大坑庄
	嘉義西堡	下路頭庄	車店庄	水堀頭街 柳仔林庄
	嘉義東堡	社頭埔庄	中埔庄	坊樹脚庄 石碇庄 龍山脚庄
		內深坑庄	白芒埔庄	頂埔庄 竹頭崎庄 石碇庄
鹽水港廳	下茄苳南堡	三界埔庄	牛稠埔庄	番仔寮庄 馬稠後庄
		恒春街	山脚庄	鼻仔頭庄 網紗庄
		大樹房庄	水泉庄	龍泉水庄 檳榔林庄 大平頂庄
		射寮庄	豬勝東庄	
		港口庄	蚊蟬庄	
		响林庄		
		九個厝庄		
		貓仔坑庄	虎頭山庄	
		楓港庄		

〔參照〕

明治四十一年九月八日臺灣總督府令第四十六號ハ本號ト同伴ナリ

○臺灣總督府令第六十二號 (官報 九月七日)

明治三十四年四月府令第二十號官幣大社臺灣神社神職俸給規則中左ノ通改正ス

明治四十二年八月二十九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第六條ノ二名舉職タル官幣大社臺灣神社神職ニハ俸給定額内ヨリ報酬ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ報酬支給ニ關シテハ第二條乃至第六條ノ規定ヲ準用ス
第七條中「俸給」ノ下ニ「及報酬」ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第二十號官幣大社臺灣神社神職俸給規則(明治三十四年四月十六日官報)抄錄
第七條 俸給支給ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

○臺灣總督府令第六十三號(官報 九月十六日)

臺灣土地收用規則ヲ明治四十二年九月九日ヨリ臺北廳大加納堡後山陂庄ニ施行ス

明治四十二年九月九日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○關東都督府令第十一號(官報 九月十一日)

消防組規則左ノ通定ム

明治四十二年九月二日

關東都督 子爵大島義昌

消防組規則

第一條 民政署長ハ火災警戒防禦ノ爲必要ト認ムルトキハ消防組ヲ設置スルコトヲ得

第二條 消防組ノ設置區域ハ民政署長之ヲ定ム

第三條 消防組ハ頭取一人小頭及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

民政署長ハ前項ノ外必要ニ應シ機關手及調馬手ヲ置クコトヲ得

第四條 頭取ハ警察官吏ノ命ヲ承ケ小頭以下ノ指揮取締ニ任シ庶務ヲ掌理ス

小頭ハ頭取ヲ補佐シ頭取差支アルトキハ小頭中高級故參ノ者其ノ職務ヲ代理ス

第五條 消防組員ハ民政署長之ヲ命免ス

第六條 消防組員ハ左ノ各號ニ適合スル者ヨリ之ヲ採用ス

一 消防組設置區域内ニ居住スル者

二 年齡十八歲以上ニシテ身體強壯ナル者

三 平素ノ行爲粗暴ナラサル者

四 禁錮以上ノ刑ヲ受ケタルコトナキ者

第七條 消防組ハ火災警戒ノ場合、民政署長ニ於テ儀式訓練其ノ他特ニ命シタル場合又ハ民政署

長ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外集合又ハ運動スルコトヲ得ス

第八條 民政署長ハ必要アリト認ムルトキハ消防組ヲシテ其ノ區域以外ニ於ケル火災ノ消防ニ應

援セシムルコトヲ得

第九條 消防組員ハ消防又ハ警戒等ノ爲出場シタルトキハ警察官吏ノ點檢ヲ受ケタル後ニ非サレ

ハ解散スルコトヲ得ス

第十條 消防組員ハ如何ナル場合ト雖警察官吏ノ指揮アルニ非サレハ建造物ノ破壊又ハ栽植物ヲ

截折スルコトヲ得ス

第十一條 民政署長ハ消防組ノ舉動治安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ解散ヲ命スル

コトヲ得

第十二條 出火鎮火又ハ演習召集ノ場合ニ於ケル警報ハ民政署長之ヲ定ム

第十三條 民政署長ハ消防組員ニ對シ第一表ニ掲クル月給ヲ支給スルコトヲ得

第十四條 民政署長必要アリト認ムルトキハ小頭以下ノ者若干人ヲ消防專務員ト爲スコトヲ得

消防專務員ニ對シテハ月額金二十五圓以内ノ日給ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ給料ヲ受クル者缺勤シタルトキハ日割ヲ以テ其ノ給額ヲ減ス但シ職務ノ爲傷痕ヲ受ケ又

- ハ疾病ニ罹リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 民政署長ハ消防組員消防ノ爲出場シ又ハ警戒若ハ演習等ニ從事シタルトキハ第二表ニ揚グル出場手當ヲ給與スルコトヲ得但シ第十四條ノ給與ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十六條 消防組員ニ貸與スヘキ被服ノ品目、員數及保存期限等ハ民政署長之ヲ定ム
- 第十七條 消防組員職務ノ爲死歿シタルトキハ第三表ノ祭祀料及遺族扶助料ヲ給シ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ退職シタルトキハ第三表ノ退職給助料及其ノ治療費ヲ給與ス其ノ退職ニ至ラサル者ニ對シテハ第三表ノ休業手當並其ノ治療費ヲ給與ス
- 第十八條 祭祀料及遺族扶助料ハ遺族ノ請求ニ依リ之ヲ給與ス但シ祭祀料ハ遺族ニ非サルモ死者ノ爲祭祀ヲ行フ者ニ給與スルコトアルヘシ
- 第十九條 休業手當ハ休業日數ニ應シ之ヲ給與ス但シ消防專務員ニハ之ヲ給セズ
- 第二十條 祭祀料、遺族扶助料、退職給助料ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ事實ヲ證スヘキ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ所轄民政署長ヲ經由シ關東都督ニ請求シ休業手當ハ所轄民政署長ニ之ヲ請求スヘシ
- 第二十一條 民政署長ハ消防組員ニシテ職務上功勞特ニ顯著ナル者ニ適宜金品ヲ賞與シ又ハ賞狀ヲ授與スルコトヲ得
- 第二十二條 民政署長ハ消防組員ニシテ法規又ハ指揮命令ニ違反シ若ハ怠慢過失ノ行爲アリタルトキハ其ノ情狀ニ依リ免職又ハ譴責ノ懲戒處分ヲ行フコトヲ得
- 第二十三條 懲戒ニ因リ免職セラレタル者ハ一年ヲ經過シタル後ニ非サレハ消防組員ニ採用スルコトヲ得ス
- 第二十四條 民政署長ハ頭取ヲシテ消防組ニ必要ナル簿冊ヲ備ヘシムヘシ
- 第二十五條 民政署長ハ關東都督ノ認可ヲ受ケ本令ノ施行ニ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一表

頭取	取	小	頭	消防手、機關手、調馬手
金二十圓以内	金十二圓以内	金三圓以内		

第二表

職名	區別	消防出場手當			警戒又ハ演習手當一日又ハ一夜		
		二時間以内	四時間以内	六時間以内			
頭取	取	一圓以内	二圓以内	三圓以内	四圓以内	五圓以内	一圓五十錢以内
小頭	頭	七十錢以内	一圓五十錢以内	二圓以内	三圓以内	四圓以内	一圓以内
消防機關手	手	五十錢以内	一圓以内	一圓五十錢以内	二圓以内	三圓以内	七十錢以内

第三表

職名	區別	祭祀料	遺族扶助料	休業手當日額	退職給助料
頭取	取	金五十圓以内	金三百圓以内	金一圓以内	金三百圓以内
小頭	頭	金三十圓以内	金二百圓以内	金八十錢以内	金二百圓以内
消防機關手	手	金二十圓以内	金百五十圓以内	金五十錢以内	金百五十圓以内

製圖及設計	五	五	五	六	八	八	一〇	七	八	七	九	一	二	一	二	一	四
合	計	三三	三三	三三	三六	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九

第三章 學年學期及休業

第七條 各學科ノ修業年限ヲ四學年ニ分チ各學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
 第八條 學年ヲ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ニ始リ七月三十一日ニ終リ第二學期ハ八月一日ニ始リ十月三十一日ニ終リ第三學期ハ十一月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
 第九條 休業日ハ左ノ如シ

- 一 祝日大祭日
- 一 一日曜日
- 一 學堂記念日
- 一 冬季休業
- 一 春季休業
- 一 夏季休業

前項ノ外休業ヲ要スルトキハ學長ニ於テ關東都督ノ認可ヲ受クヘシ

第四章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第十條 入學ノ時期ハ學年ノ始トス
 第十一條 入學スルコトヲ得ル者ハ品行方正、志望鞏固、年齢十七年以上ノ男子ニシテ左ノ諸號ノ
 一 該當シ且身體検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者タルヘシ
 一 中學校ヲ卒業シタル者
 二 工業學校ヲ卒業シタル者

第十二條 入學志願者ノ數募集豫定人員ニ超過スルトキハ其ノ優良ナル者ヲ選抜シ入學ヲ許可ス
 第十三條 入學志願者ハ第二條ニ掲ケタル學科中ニ就キ一學科ヲ選ビ願出ツヘシ但シ豫備トシテ更ニ一學科ヲ選定スルコトヲ得

第十四條 入學志願者ハ別記第一號書式ノ入學願書ニ第二號書式ノ證明書及第三號書式ノ身體検査書ヲ添ヘ出願スヘシ

第十五條 入學ヲ許可セラレタルモノハ別記第四號書式ノ在學證書ヲ指定ノ期日內ニ差出スヘシ
 第十六條 生徒ハ制服ヲ着用スヘシ
 制服ハ學長之ヲ定ム

第十七條 病氣ニ罹リ三箇月以上修業シ能ハスト思料スル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ父兄(父兄ナキトキハ之ニ代ルヘキ最近ノ親族)連署ノ願書ヲ差出シ許可ヲ得テ該學年ノ終リマテ休學スルコトヲ得

第十八條 生徒退學セムトスルトキハ學長ノ許可ヲ受クヘシ
 第十九條 成業ノ見込ナシト認メタル生徒ハ學長ニ於テ之ヲ除籍スルコトヲ得

第二十條 學長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得
 懲戒ヲ譴責、停學、放校ノ三トス

第五章 試驗、進級及卒業
 第二十一條 試驗ハ隨時之ヲ施行ス
 實修化學分析及製圖ノ試験ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第二十二條 試験ニ缺席シタルモノハ詮議ノ上追試験ヲ行フコトヲ得
 第二十三條 進級ハ該學年間ノ成績ニ就キ之ヲ評定ス

第二十四條 第四學年ノ試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第六章 補則

第二十五條 生徒ハ之ヲ寄宿舎ニ收容ス但シ特別ノ事情アリテ外宿セムトスル者ハ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十六條 授業料ハ當分ノ内之ヲ徴收セス

(別記)

第一號書式(用紙美濃紙)

入學願

志望學科

豫備志望學科

私儀費學堂入學前記ノ學科修業致度候條別紙證明書並身體検査書相添(此段相願候也)

原籍 道府縣郡市町村番地

族稱 戶主(戶主ニ非サレハ親子弟等)

現住所 道府縣郡市町村番地(寄留又ハ同居等)

家業 何中學校卒業(又ハ第五學年在學中)中學校ノ場合)

學歴 何中學校卒業(又ハ第五學年在學中)中學校ノ場合)

年月日

何 某印

生年月日 當時何歳何月

旅順工科學堂學長宛

備考

一 本表ハ自筆タルコトヲ要ス

二 志願者氏名ニハ片假名ヲ附スヘシ

第二號書式(用紙美濃紙)

證明書

道府縣族稱

何 某

生年月日

右者何年何月本校第何學年ニ入學何年何月本校ヲ卒業シ(又ハ目下第五學年在學中ニテ)中學校ノ場合(左ノ成績ヲ得タルコトヲ證明ス)

年月日

何中(工業)學校長 何 某印

學業成績

學年	修了年月日	何學科	評點	操行	備考
第一學年				
第二學年				
.....				

第三號書式(用紙美濃紙)

身體検査書

族稱

何 某

生年月日

- 一體格
- 一身長
- 一體重
- 一胸圍
- 一中心視力
- 一色盲
- 一眼病

- 一 聽力
 - 一 耳疾
 - 一 呼吸器
 - 一 神經系
 - 一 皮膚
 - 一 言語
- 一 既往現在ノ疾病又ハ畸形
右検査候處相違無之候也
- 年 月 日 検査

身體検査書記載方心得

- 一 検査器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可トス
- 二 検査ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルヘシ
- 三 體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ
- 四 體格ノ強健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長(種)ヲ以テ體重(種)ヲ除シタル商〇、三二以上且無病健全ノ者ヲ指ス
中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長(種)ヲ以テ體重(種)ヲ除シタル商〇、二六以上且無病ノ者ヲ指ス
薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不十分ナルカ或ハ身長(種)ヲ以テ體重(種)ヲ除シタル商〇、二六未満ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲扁平胸狹小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
- 五 中心視力ハスネルン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ「D」ト記スヘシ但シ遠視者ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ
色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
- 六 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ

住所

何學校醫

學位 何 某印

第四號書式(用紙美濃紙)
在學證書



右今般入學御許可相成候ニ就テハ御規則遵守可致也
年 月 日

旅順工科學堂學長宛

原籍 族稱

氏 名

生年月日

原籍 現住所 職業

本人氏 名印

父又ハ親族 氏 名印

○統監府令第二十三號 (官報 十月七日)

第一條 度量衡ニ關シテハ韓國ノ度量衡法及度量衡法施行規則ニ依ル

前項ノ度量衡法及度量衡法施行規則中政府又ハ當該官吏トアルハ本令ノ適用上韓國政府又ハ韓國ノ當該官吏ニ該當ス但シ度量衡法第七條第二項及度量衡法施行規則第十條ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 韓國度量衡法第八條各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

韓國度量衡法施行規則第十一條各號ノ一ニ該當スル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

明治四十二年九月二十五日

統監 子爵曾禰荒助

○統監府令第二十四號 (官報 十月九日)

韓國ノ屠獸規則第一條及第二條ニ違背シタル者又ハ第六條ニ依ル停止命令ニ違背シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年九月二十八日

統監 子爵曾禰荒助

○統監府令第二十五號 (官報 十月九日)

明治四十二年^五月統監府令第十五號第一項中「税金ヲ」税金又ハ賦課金ニ改メ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二 明治四十一年^八月統監府告示第百二十二號及明治四十二年^七月統監府告示第六十一號ヲ以テ其ノ譯文ヲ告示シタル地稅ニ關スル件竝地方費法

明治四十二年十月二日

統監 子爵曾禰荒助

〔參照〕

統監府令第十五號(明治四十二年五月二十九日)抄録

第一項

左ニ指定スル韓國政府ノ公布シタル法令ニ定ムル税金ヲ期限内ニ納付セサル者アルトキハ理事官ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ國稅徵收法第三十二條ニ當ル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
一明治四十二年ニ統監府告示第十二號ヲ以テ其ノ譯文ヲ告示シタル家屋稅法、酒稅法及煙草稅法

○統監府令第二十六號(官報十月二十三日)

明治四十年五月統監府令第二十號韓國ニ於ケル銀行業ニ關スル規則中左ノ通改正ス

統監 子爵曾淵荒助

第九條第一項ヲ左ノ如ク改ム

銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後三時マテトス但シ土曜日ハ午後一時ニ至ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第二十號韓國ニ於ケル銀行業ニ關スル規則(明治四十二年四月十六日廿五)抄録

第九條第一項

銀行ノ營業時間ハ左ノ如シ

五月ヨリ十月迄

午前九時ヨリ午後三時ニ至ル

十一月ヨリ四月迄

午前十時ヨリ午後四時ニ至ル

但シ土曜日ハ午後一時ニ至ル

○統監府令第二十七號(官報十月二十三日)

明治四十二年七月勅令第二百五五號ニ依リ統監府營林廠ノ木材又ハ製品ノ賣拂代金延納ノ擔保トシテ

提供スル有價證券ノ種類ハ國債證券、日本勸業銀行債券、日本興業銀行債券及貯蓄債券トス
明治四十二年十月十六日 統監 子爵曾淵荒助

○臺灣總督府令第六十四號(官報十月十八日)

臺灣刑事令施行規則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣刑事令施行規則

第一條 罰金、科料ノ受刑者無資力ナルコト明ナル場合ニ於テハ強制執行ヲ爲サスシテ直ニ勞役、場若ハ獄舎ニ留置シ又ハ管刑ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條 即決官署ニ於テ言渡シタル罰金、科料及追徴金ノ徵收ニ付テハ臺灣租稅滯納處分規則ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第六十五號(官報十月十八日)

明治三十八年十二月府令第八十九號廳位置及管轄區域中宜蘭廳管轄區域浮洲堡ノ部ニ「粗坑庄、小南灣庄」ヲ追加ス
臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第六十六號(官報十月十八日)

明治三十一年八月府令第八十七號保甲條例施行規則中左ノ通改正ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

保正及甲長ハ區長ノ指揮ヲ承ケ保内又ハ甲内ニ於テ區長ノ職務ヲ補助執行ス

附則

本令ハ明治四十二年十月九日府令第五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第六十七號(官報十月十八日)

明治四十二年十月九日勅令第二百十七號ニ依ル區ノ名稱及其ノ區域内ノ街庄社名並區長役場ノ位置ハ臺灣總督之ヲ告示ス

區長ノ管轄區域ハ廳直轄又ハ支廳管轄區域内ニ於テ之ヲ畫定スルモノトス

附則

本令ハ明治四十二年十月九日勅令第二百十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年十月六日府令第三十號街庄社長設置規程ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年十月五日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

○臺灣總督府令第六十八號(官報十月十八日)

區長職務規程左ノ通相定ム

明治四十二年十月五日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

區長職務規程

區長ノ職務左ノ如シ

- 一 法令ノ周知ニ關スルコト
- 二 人民ヨリ行政官廳ニ提出スル願届等ノ進達ニ關スルコト
- 三 行政官廳ヨリ發シタル命令ノ傳達ニ關スルコト
- 四 部内ノ情況其ノ他諸報告ニ關スルコト
- 五 臺灣歲入地方稅其ノ他諸收入ニ關スルコト

六 公共費ノ保管及出納ニ關スルコト

七 前各號ノ外特ニ廳長ヨリ命スル事項

前項ニ關シ特ニ規定アルモノ又ハ廳長ニ於テ特ニ定メタルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治四十二年十月九日勅令第二百十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年十月五日府令第四十號ハ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十五年五月三十日(官報五月九日)臺灣總督府令第四十號ハ街庄社長職務ノ件ナリ

○臺灣總督府令第六十九號(官報十一月十八日)

區長及區書記任用規則左ノ通相定ム

明治四十二年十月五日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

區長及區書記任用規則

第一條 區長ハ所轄廳内ニ住居シ年齡三十歲以上ノ資産名望アル者ニシテ國語ノ素養ニ關シ修業年限六箇年ノ臺灣公學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第二條 區書記ハ年齡十八歲以上ニシテ國語ノ素養ニ關シ修業年限六箇年ノ臺灣公學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

第三條 區長ハ廳判任官又ハ判任官待遇者ノ中ヨリ之ヲ兼シムルコトヲ得

區書記ハ前項ニ掲グル者又ハ廳囑託員若ハ雇員ノ中ヨリ之ヲ兼シムルコトヲ得

第四條 區長及區書記ハ當分ノ内第一條及第二條ノ規定ニ拘ラス區長ハ年齡三十歲以上區書記ハ年齡十八歲以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ中ヨリ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

- 一 臺灣公學校第四學年以上ノ課程ヲ修了シタル者
- 二 元臺灣總督府國語傳習所甲科ヲ卒業シタル者
- 三 廳長ニ於テ適任ト認メタル者

附則

本令ハ明治四十二年九月勅令第二百十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第七十號(官報十一月十八日)

明治三十七年二月府令第十二號縣社以下神社神職任用規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十月七日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第二條第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ第四號ヲ第三號ニ第五號ヲ第四號ニ改ム

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第八條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 內務大臣ノ委託ニ依リ開設セル皇典講究所神職養成部神職教習科卒業ノ者

〔參照〕

臺灣總督府令第十二號縣社以下神社神職任用規則(明治三十七年二月十八日抄録)

第二條 年齡滿二十歲以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ社司社掌ノ試験ヲ受クルコトヲ得

一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復讐シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

○臺灣總督府令第七十一號(官報十月二十二日)

甘蔗計量用衡器取締規則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

甘蔗計量用衡器取締規則

第一條 一日三十英噸以上ノ榨能力ヲ有スル製糖業者ハ甘蔗計量用トシテ秤量千斤以上ノ臺秤並其ノ試驗用分銅百斤以上ヲ設備スヘシ

廳長ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項衡器ノ秤量種類簡數若ハ其ノ設備スヘキ位置ヲ指定シ又ハ使用上必要ナル制限ヲ附スルコトヲ得

第二條 前條ノ臺秤ハ每期其ノ製糖開始前臺灣總督ノ檢定ヲ受ケタルモノ又ハ其ノ修覆ヲ了シタルモノニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ檢定又ハ修覆ヲ了シタル臺秤ニハ左ノ例ニ依リ其ノ證印ヲ桿ノ末端ニ附ス

四三檢(又ハ四三修)

地中掛臺秤ニシテ臺板(プラットフォーム)移動シ又ハ臺板ト周圍ノ間隙ト接觸ヲ生シ若ハ臺板上ノ軌鐵ト地上面ノ軌鐵ト接觸ヲ生シタルトキ亦第一項ニ準ス

第三條 第一條ノ臺秤ニシテ假リ蓋ヲ複用シ又ハ之ニ代ルヘキ裝置ヲ爲サムトスル者ハ其ノ構造仕樣書圖面及其ノ風袋重量ヲ詳記シ豫メ臺灣總督ニ届出ヘシ

第四條 甘蔗ノ計量ニ際シ其ノ積載車輛ノ各風袋重量ヲ控除スルニ定期間各車ノ重量又ハ各車ノ平均重量ニ依ラムトスル者ハ左記事項ヲ詳記シ豫メ臺灣總督ニ届出ヘシ但シ牛車ニ在リテハ二箇以上ノ平均重量ニ依ルコトヲ得ス

(一)各車ノ平均風袋ヲ用フル場合

(イ)車輛ノ種類物質簡數及其ノ各車輛ノ重量(支柱ノ重量ヲ含ム)

(ロ)車輛ノ構造及仕樣書

(二)各車別風袋ヲ用フル場合

車輛ニ附屬スル支柱ニシテ取離シヲ爲シ得ルモノハ其ノ種類、物質、箇數、寸法及各箇ノ重量
第五條 假リ蓋及積載車輛ノ風袋重量ハ第六條規定ノ定差ノ五分ノ一ノ範圍ノモノニ限り廳長之
ヲ秤定ス

前項ノ秤定重量ハ廳長之ヲ各車輛ニ表記ス
表記ノ秤定重量ニ變化ヲ生シ又ハ其ノ表記アル風袋ニ加工ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ
更ニ其ノ秤定ヲ申請スヘシ

第六條 假リ蓋又ハ積載車輛ノ重量ニシテ左ノ定差ヲ超ユルモノハ之ヲ甘蔗計量ニ使用スルコト
ヲ得ス

種類	定差
車輛又ハ假リ蓋ノ重量	五十斤
最大	三十斤
大	二十斤
中	十斤
小	十斤

第七條 臺秤ノ使用者ハ第五條ノ秤定風袋重量ニ變化ヲ生シ又ハ其ノ疑ヒアルモノハ直ニ當該風
袋ノ使用ヲ停止シ更ニ其ノ秤定ヲ申請スヘシ

第八條 廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第三條及第四條ノ風袋ニ對シ隨時臨檢スルコトヲ得
第九條 廳長ニ於テ假リ蓋又ハ積載車輛ノ風袋ニ異狀ヲ生シ又ハ其ノ重量ニ變化ヲ生シタル疑ヒ
アリト認ムルトキハ直ニ其ノ使用ヲ停止シ相當ノ處理ヲ命スルコトヲ得

第十條 臺秤ニ風袋錘ヲ用ヒテ當該風袋重量控除ノ用ニ供セムト欲スル者ハ第五條秤定ノ平均風
袋重量ヲ詳記シ所轄廳長ノ證明書ヲ添ヘ殖産局長ニ其ノ賣下ヲ申請スヘシ

第十一條 第一條第一項ニ該當スル製糖場ニ於テ計量ノ重量ニ相違ノ疑ヒアルトキ又ハ計量方法
不適當ナリト認ムルトキハ廳長ハ計量甘蔗ノ受授若ハ其ノ計量ヲ停止シ相當ノ處理ヲ命スルコ
トヲ得

第十二條 第五條秤定ノ風袋ニシテ其ノ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ種類、箇數、物質及秤定重量
ヲ詳記シ所轄廳長ニ届出ヘシ

第十三條 臺秤ノ使用者ハ常ニ其ノ臺板上又ハ其ノ周圍ノ間隙ニ堆積スル雜物ヲ清掃スヘシ
第十四條 第一條第一項又ハ第二項ノ指定若ハ制限、第二條第一項第三項、第三條、第四條、第五條
第三項、第六條、第七條、第十二條及第十三條ニ違反シ又ハ第八條、第九條及第十一條ニ依ル臨檢若
ハ命令ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第二十八號(官報十二月四日)
統監府裁判所設置ノ件左ノ通定ム

明治四十二年十月二十一日

統監府裁判所設置ノ件

統監府裁判所ヲ設置シ其ノ名稱、位置及管轄區域ヲ別表ノ通定ム
各裁判所開廳ノ期日ハ更ニ之ヲ告示ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
別表

統監府裁判所ノ名稱、位置及管轄區域表

裁判所ノ名稱及位置	管轄區域
高等法院 控訴院 地方裁判所 區裁判所	道名 府 郡 名
高等法院 (漢城府) 京師 (同上) 京城 (同上) 京城 (同上)	漢城府 京城 京城
安城 州 州 州 州	安城、揚城、竹山 會陽、平康、利川、陽 州、陰竹、利川、陽 州、麻田、積城、朔 川、麻田、積城、朔 川、麻田、積城、朔 川、麻田、積城、朔 川、麻田、積城、朔
水原 仁川 金浦 春川 金剛 鐵原 通川 江陵 平昌	水原、始興、果川、廣 州、龍仁、振威、南 陽、安山 仁川府 金浦、陽川、富平、通 津 江華、喬桐 春川、華川、楊口、醴 臨 金城、金化、淮陽 鐵原、平康、伊川、安 峽 通川、歙谷、高城 江陵、襄陽、杆城 平昌、海三、三陟 平昌、旌善、寧越

統監 子爵曾爾荒助

統監府司法廳職員	縱六分五厘 橫七分 葉銀色 花金色ノ 桐章一箇ツツラ 襟部ノ兩前襟ニ附ス
統監府裁判所 書記長、通譯官、 書記、通譯生	葉深紫色、花金色ノ桐章トス 餘ハ同上 葉深緋色、花金色ノ桐章トス 餘ハ同上 葉深綠色、花金色ノ桐章トス 餘ハ同上

襟章圖中「統監府職員」ヲ「統監府職員」ニ改メ「統監府法務院職員及其ノ圖」ヲ削ル
附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第三十三號(官報十一月四日)

統監府裁判所及檢事局事務章程左ノ通定ム

明治四十二年十月二十一日

統監 子爵曾禰荒助

統監府裁判所及檢事局事務章程

- 第一條 裁判所ノ長及檢事局ノ長事故アル場合ニ於ケル行政事務ノ代理ハ其ノ廳ノ判事及檢事中其ノ長ノ指定シタル者之ヲ爲ス
- 前項ノ規定ハ區裁判所上席ノ判事又ハ檢事故アル場合ニ之ヲ準用ス
- 第二條 高等法院長ハ京城控訴院判事ヲシテ高等法院判事ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第三條 控訴院長ハ其ノ院ノ判事及其ノ院所在地ノ地方裁判所判事ヲシテ相互ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第四條 地方裁判所長ハ其ノ裁判所判事及其ノ管内ノ區裁判所判事ヲシテ相互ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第五條 地方裁判所長ハ豫審判事事故アル場合ニ於テ其ノ裁判所又ハ所轄區裁判所ノ判事ニ豫審判事ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

- 第六條 裁判ノ合議ハ裁判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス
- 合議ハ之ヲ公行セス其ノ顛末竝ニ各判事ノ意見ニ付テハ嚴ニ祕密ヲ守ルコトヲ要ス
- 第七條 合議ハ過半數ノ意見ニ依リ之ヲ決ス
- 判事ノ意見三說以上ニ分レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ルマテ被告ニ不利益ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス
- 第八條 檢事局ノ長ハ其ノ局ノ檢事及其ノ管内ノ下級檢事局ノ檢事ヲシテ相互ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第九條 各裁判所ニ書記課ヲ置キ其ノ裁判所及檢事局ニ附屬セシム
- 第十條 高等法院及控訴院ノ書記長ハ各其ノ所屬ノ院長及檢事長ノ命ヲ承ケ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス
- 第十一條 地方裁判所書記課ニ監督書記ヲ置ク
- 區裁判所書記課ニ二人以上ノ書記ヲ置キタルトキハ其ノ一人ヲ監督書記トス
- 監督書記ハ其ノ所屬地方裁判所長及檢事正之ヲ命ス
- 監督書記ヲ命シタルトキハ速ニ之ヲ統監ニ報告スヘシ
- 第十二條 地方裁判所監督書記ハ地方裁判所長及檢事正ノ命ヲ承ケ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス
- 區裁判所監督書記ハ一人ノ判事檢事又ハ上席ノ判事檢事ノ命ヲ承ケ書記課ノ事務ヲ指揮監督ス
- 第十三條 裁判所及檢事局ノ長ハ其ノ裁判所及其ノ管内ノ下級裁判所ノ書記ヲシテ相互ニ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ通譯官及通譯生ニ之ヲ準用ス
- 第十四條 裁判所及檢事局ノ長ハ其ノ廳ノ豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得
- 雇員ハ書記ノ命ヲ承ケ寫字簿冊ノ整理其ノ他ノ事務ニ從フ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第三十四號(官報十一月四日)

辯護士規則左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

辯護士規則

- 第一條 統監府裁判所ニ於テ辯護士ノ職務ヲ行フ者ハ辯護士名簿ニ登録セラルルコトヲ要ス
- 第二條 各地方裁判所檢事局ニ辯護士名簿ヲ置ク
辯護士ハ其ノ氏名ヲ登録シタル地方裁判所ノ所屬トス
- 第三條 左ニ記載シタル者ハ辯護士名簿ノ登録ヲ申請スルコトヲ得
 - 一 辯護士法ニ依リ辯護士タルノ資格ヲ有スル者
 - 二 韓國人辯護士試験ニ合格シタル者
 - 三 韓國人ニシテ韓國ノ判事、檢事、辯護士又ハ統監府裁判所ノ判事、檢事タリシ者
- 第四條 左ニ記載シタル韓國人ハ辯護士名簿ニ登録セラルルコトヲ得ス
 - 一 禁獄又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 二 懲戒處分ニ因リ判事、檢事若ハ辯護士ノ資格ヲ喪失シタル者
- 第五條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ登録ヲ受ケムトスル地方裁判所檢事局ヲ經由シテ統監ニ申請書ヲ差出スヘシ
- 第六條 地方裁判所檢事局ニ於テ登録申請書ヲ受理シタルトキハ檢事正ハ第三條及第四條ノ要件ヲ調査シ意見ヲ附シテ之ヲ統監ニ差出スヘシ

第七條 辯護士名簿ノ登録ハ統監ノ命令ニ依リ地方裁判所檢事局之ヲ爲ス

第八條 辯護士名簿ノ登録ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ所屬地方裁判所檢事局之ヲ爲ス

- 一 申請アリタルトキ
- 二 死亡シタルトキ
- 三 除名セラレタルトキ
- 四 第四條ニ該當シタルトキ

第九條 辯護士名簿ノ登録又ハ其ノ取消ヲ申請スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 金二十圓
- 二 登録換 金十圓
- 三 登録ノ取消 金一圓

手数料ノ納付ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 地方裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ニ登録ヲ爲シタルトキハ其ノ登録ノ番號及年月日ヲ統監ニ報告シ且之ヲ本人ニ通知スヘシ

登録ヲ取消シタルトキ亦前項ニ準ス

第十一條 辯護士名簿ノ登録又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ統監府公報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十二條 辯護士ハ所屬地方裁判所又ハ其ノ管内ノ區裁判所所在地ニ事務所ヲ設ケ之ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ届出ツヘシ

所屬地方裁判所管轄地外ニ事務所ヲ設ケタルトキハ所屬地方裁判所檢事局及事務所所在地ノ地方裁判所檢事局ニ之ヲ届出ツヘシ

第十三條 辯護士ハ所屬地方裁判所毎ニ辯護士會ヲ設クヘシ但シ五人ニ滿タサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ辯護士五名以上ニ達シタルトキハ三十日以内ニ辯護士會ヲ設クヘシ
 第十四條 監督官ハ事情ニ因リ韓國人辯護士ヲシテ別ニ辯護士會ヲ設ケシメ又ハ韓國人辯護士ニ
 辯護士會ニ加入スルコトヲ免シ若ハ其ノ退會ヲ許スコトヲ得
 第十五條 辯護士ハ辯護士會ニ加入シタル後ニアラサレハ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス但シ辯護士
 會ノ設立ナキトキハ其ノ限ニ在ラス
 第十六條 辯護士及辯護士會ハ所屬地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ク
 第十七條 監督官ハ辯護士ノ職務ニ關スルト否トヲ問ハス其ノ品位ヲ汚損スヘキ行狀ニ付諒告ヲ
 爲スコトヲ得
 第十八條 監督官ハ辯護士ノ會議ニ臨席シ意見ヲ述フルコトヲ得
 第十九條 辯護士會ニ會長ヲ置ク又常議員ヲ置クコトヲ得
 會長及常議員ハ辯護士ノ總會ニ於テ之ヲ選舉シ監督官ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ定メ監督官ヲ經由シテ統監ノ認可ヲ受クヘシ
 第二十一條 辯護士會會則ニハ會長常議員ノ選舉、職務、任期ニ關スル規程、職事ニ關スル規程、辯
 護士ノ風紀保持ニ關スル規程並報酬金ニ關スル規程其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設クヘ
 シ
 第二十二條 辯護士會ノ設ケナキ場合又ハ第十四條ニ依リ辯護士會加入ヲ免シ若ハ其ノ退會ヲ許
 シタル場合ニ於テハ監督官ハ辯護士會會則ニ代ルヘキ命令ヲ發スヘシ
 第二十三條 第十二號第二項ノ場合ニハ事務所所在地ノ地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ケ且其ノ地
 ノ辯護士會會則又ハ之ニ代ルヘキ監督官ノ命令ヲ遵守スヘシ
 前項ノ規定ハ所屬地方裁判所檢事正ノ監督權及必要ナル限度ニ於テ所屬辯護士會會則又ハ之ニ
 代ルヘキ監督官ノ命令ヲ遵守スヘキ義務ニ影響ヲ及ホスコトナレ

第二十四條 辯護士會議ノ日時、場所及議題ハ辯護士會ヨリ豫メ之ヲ監督官ニ届出ツヘシ
 第二十五條 辯護士會議ニ於テハ左ノ事項ノ外議スルコトヲ得ス
 一 法令又ハ辯護士會會則ニ規定シタル事項
 二 統監裁判所又ハ檢事局ヨリ諮問シタル事項
 第二十六條 辯護士會議ノ議決ニシテ法令又ハ辯護士會會則ニ違反スルモノアルトキハ統監ハ之
 ヲ無効トスルコトヲ得
 第二十七條 辯護士本令又ハ辯護士會會則若ハ監督官ノ命令ニ違反スル所爲アルトキハ監督官ハ
 會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ懲戒處分ヲ統監ニ申請スヘシ
 第二十八條 懲戒ハ左ノ四種トシ統監之ヲ行フ
 一 譴責
 二 三百圓以下ノ過料
 三 一年以下ノ停職
 四 除名
 第二十九條 懲戒處分ハ統監府公報ヲ以テ之ヲ公告ス
 第三十條 辯護士名簿ハ別記様式ニ依ル
 附則
 第三十一條 本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第三十二條 明治四十二年統監府令第九號辯護士規則ハ之ヲ廢止ス
 第三十三條 本令施行ノ際理事廳及韓國裁判所檢事局ニ於テ辯護士名簿ニ登錄アル者ハ本令施行
 ノ日ヨリ三十日以内ニ本令ニ規定シタル辯護士名簿ノ登錄ヲ申請スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ免除ス

第三十四條 前條ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ申請ノ日ヨリ辯護士ノ職務ヲ行フコトヲ得
第三十五條 本令施行前ニ係ル辯護士ノ所爲ト雖本令ニ照シ懲戒スヘキモノアルトキハ本令ニ依
リ之ヲ懲戒ス

第三十六條 明治四十二年七月二十四日以前ニ理事官ノ許可ヲ得タル訴訟代理業者ハ當分ノ内其
ノ理事官所在地ヲ管轄スル地方裁判所及其ノ管内區裁判所ニ於テ訴訟代理ヲ爲スコトヲ得
第三十七條 監督官ハ前條ノ訴訟代理業者ニ不適當ノ所爲アリト認メタルトキハ何時ニテモ其ノ
業務ヲ禁スルコトヲ得

別記様式(用紙美濃紙)

本籍	住所	氏名
	住所	氏名
資格	生年月日	族籍
登録番号	登録年月日	資格
辯護士會加入年月日	事務所	事務所
出張事務所		

登録取消年月日	懲戒	備考

○統監府令第三十五號(官報十一月四日)
明治四十一年統監府令第十二號新聞紙規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵會禰荒助

第九條中「統監府及管轄理事廳」ヲ「統監府、管轄理事廳及管轄地方裁判所檢事局」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第十二號新聞紙規則(明治四十一年四月三日(五)抄録)

第九條 發行人ハ其ノ發行シタル新聞紙ヲ統監府及管轄理事廳ニ毎號各二部ヲ納付スヘシ

○統監府令第三十六號(官報十一月四日)

執達吏ニ屬スル職務ヲ行フ場合ニ於ケル手数料ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵會禰荒助

執達吏ニ屬スル職務ヲ行フ場合ニ於ケル手数料ハ執達吏手数料規則ノ例ニ依ル
官吏ニ非サル者執達吏ノ職務ヲ行ヒタルトキノ手数料ハ其ノ者ノ所得トス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第三十七號(官報十一月四日)

訴訟及非訟事件ニ付韓國人ノ貼用スヘキ收入印紙ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

韓國人訴訟及非訟事件ニ付韓國法規ニ依リ收入印紙ヲ貼用スヘキ場合ニ於テハ各相當價額ノ日本
政府ノ收入印紙ヲ貼用スヘシ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第三十八號(官報十一月四日)

刑事判決ノ正本、謄本及抄本ノ手数料ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

刑事判決ノ正本、謄本及抄本ヲ求ムル者ハ其ノ用紙一枚ニ付手数料トシテ金五錢ヲ納付スヘシ其
ノ一枚ニ滿タサルトキ亦同シ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第三十九號(官報十一月四日)

明治三十九年統監府令第三十八號中左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

第三號中「統監府令第三十五號」ヲ「統監府令第三十八號」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

明治三十九年(九月二十七日)統監府令第三十八號ハ統監府及所屬官署ニ於テ徵收スル手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スルノ
件ナリ

○統監府令第四十號(官報十一月四日)

明治三十九年統監府令第二十四號中左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

「統監府法務院」及「統監府臨時問島派出所」及「創リ」統監府特許局ノ下ニ「統監府司法廳、統監府裁
判所、統監府裁判所檢察局及統監府監獄」ヲ加フ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

明治三十九年(八月一日)統監府令第二十四號ハ統監府所屬官署ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付キ國ヲ代表スル件ナリ

○統監府令第四十一號(官報十一月四日)

理事廳看守任用及給與規則、明治三十九年統監府令第三十五號、明治四十一年同令第九號及同年同
令第五十號ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

〔參照〕

明治三十九年九月二十日（官報十一月四日） 統監府令第三十五號ハ判決ノ正本謄本及抄本ノ手数料ニ關スル件、同四十一年三月二十一日（官報十一月四日） 同第九號ハ理事監獄看守定員、同年二月二十八日（官報十一月四日） 同第五十號ハ理事監獄ニ監獄法適用ノ件ナリ

○統監府令第四十二號（官報十一月四日）
統監府巡查採用及給與令左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

統監府巡查採用及給與令

- 第二條 統監府巡查ハ日本人タル韓國巡查ノ中ヨリ特ニ之ヲ採用スルコトヲ得
- 前項ノ巡查ニシテ韓國ノ巡查ヲ免セラレタルトキハ當然其ノ職ヲ免セラレタルモノトス
- 第二條 統監府巡查ノ給與ニ付テハ巡查給與令ヲ準用ス
- 第三條 統監府巡查ニハ滿韓在勤文官加俸令ヲ準用ス
- 第四條 統監府巡查ニハ一箇月十圓以内ノ宿料ヲ給スルコトヲ得
- 第五條 統監府巡查ノ俸給ハ其ノ支給ヲ停止シ其ノ他ノ給與ハ之ヲ支給セス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第四十三號（官報十一月四日）

統監府看守採用規則左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

統監府看守採用規則

- 第一條 統監府看守採用ニ付テハ看守採用規則ヲ準用ス
- 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ看守ニ採用スルニ付テハ技藝ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

- 一 滿二年以上看守ノ職ニ在リテ退職後滿二年ヲ經過セサル者
- 二 韓國ノ文官任用令ニ依リ一般判任文官タル資格ヲ有スル者
- 三 韓國判任文官ノ職ニ在リタル者
- 四 韓國陸軍下士以上ノ職ニ在リタル者
- 第三條 韓國人ニシテ看守ヲ志願スル者ハ看守採用規則第二條ノ外尙左ノ各號ノ一ニ牴觸セサルコトヲ要ス
 - 一 韓國ノ刑法ニ依リテ禁獄以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 二 韓國ノ懲戒ニ關スル規定ニ依リ官職ヲ免セラレ滿二年ヲ經過セサル者

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ理事廳ノ看守、雇員又ハ韓國ノ監獄看守ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ際ニ限り特ニ之ヲ統監府看守ニ採用スルコトヲ得

○統監府令第四十四號（官報十一月四日）

韓國人タル統監府看守ノ給與ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

韓國人タル統監府看守ノ給與ニ付テハ左ノ變更ヲ以テ委任及判任待遇監獄職員給與令中看守ニ關スル規定ヲ準用ス但シ宿料ハ之ヲ給セス

- 一 月俸ハ七圓乃至十五圓トス但シ激習中ハ五圓トス
- 二 初任者ノ月俸ハ九圓以下トス
- 三 月俸ノ増給ハ二圓以下トス
- 四 増俸期間ノ制限ヲ受クル月俸ハ十圓以上トス

- 五 特別手當ハ一箇月七圓以下トス
- 六 勤務手當ハ一日三十錢以下トス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

現ニ韓國ノ監獄看守タル韓國人ヲ統監府看守ニ採用スル場合ニ於テハ本令施行ノ際ニ限リ第二號ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

○統監府令第四十五號(官報十二月四日)

奏任及判任待遇統監府監獄職員ノ定員ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

奏任及判任待遇統監府監獄職員ノ定員ハ各監獄ヲ通シテ左ノ如シ

- 監獄醫 十三人
- 教誨師 四人
- 教師 四人
- 藥劑師 四人
- 看守 七百人
- 女監取締 四人

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第四十六號(官報十二月四日)

統監府監獄ニ看守部長ノ職ヲ置クノ件左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

統監府監獄ニ看守部長ノ職ヲ置キ月俸十五圓以上ノ看守ノ中ヨリ之ヲ命ス但シ韓國人タル看守部長ハ月俸十二圓以上ノ看守ノ中ヨリ之ヲ命スルコトヲ得看守部長ハ看守ノ上班トシ看守長ノ職務ヲ補助ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第四十七號(官報十二月四日)

奏任及判任待遇統監府監獄職員及統監府巡查ノ加俸額ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十二年十月二十三日

統監 子爵曾禰荒助

奏任及判任待遇統監府監獄職員ノ加俸額ニ付テハ明治四十年統監府令第十三號第一條ノ規定ヲ準用ス但シ六級俸以下ノ判任待遇統監府教誨師、統監府教師及統監府藥劑師ハ十八圓トス

統監府看守及統監府女監取締ノ加俸額ハ月俸十五圓以上ハ月俸ト同額トシ月俸十四圓以下ハ十五圓トス

統監府巡查ノ加俸ハ其ノ額前項ニ同シ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第四十八號(官報十二月四日)

統監府監獄職員ニシテ巡警、監外ノ作業ニ就ク受刑者ノ戒護、要所ノ警備及護送ニ從事スル者ニハ常ニ銃ヲ携帯セシム

前項ノ外典獄ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ戒護ニ從事スル監獄職員ニ臨時ニ銃ヲ携帯セシムルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十三日

○統監府令第四十九號(官報十一月四日)

判任待遇統監府監獄職員ノ懲戒ニ付テハ監獄判任待遇職員懲戒規程ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十三日

○統監府令第五十號(官報十一月四日)

韓國駐衛兵隊ノ配置及憲兵分隊ノ管區別表ノ通定ム

憲兵分遣所以下ノ配置及管區ハ憲兵隊長之ヲ定ム

附則

本令ハ明治四十二年十一月二日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十八日

別表

憲兵隊配置及憲兵分隊管區表

憲兵隊	本部位置	憲兵分隊	同上位置	憲兵分隊管區
京城	京城	京城大和町	京城大和町	京城一區、黃海道(平壤分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)、江原道(成興分隊管區ニ屬スル區域ヲ除ク)
平壤	平安南道平壤郡	平安南道平壤郡	平安南道平壤郡	平安南道一區、新義州、送安郡、瑞興郡、黃海道、山部、安岳郡、長連郡、股栗郡、靈川郡、松山郡、長淵郡、信川郡、文化郡
大邱	慶尙北道大邱郡	慶尙北道大邱郡	慶尙北道一區	
大邱	慶尙南道大邱郡	慶尙南道大邱郡	慶尙南道一區	
大邱	全羅南道大邱郡	全羅南道大邱郡	全羅南道一區	
大邱	全羅北道大邱郡	全羅北道大邱郡	全羅北道一區	
大邱	忠清南道大邱郡	忠清南道大邱郡	忠清南道一區	
大邱	忠清北道大邱郡	忠清北道大邱郡	忠清北道一區	
大邱	江原道大邱郡	江原道大邱郡	江原道一區	
大邱	咸鏡南道大邱郡	咸鏡南道大邱郡	咸鏡南道一區	
大邱	咸鏡北道大邱郡	咸鏡北道大邱郡	咸鏡北道一區	

統監 子爵曾禰荒助

統監 子爵曾禰荒助

統監 子爵曾禰荒助

大和町		天安		忠清南道		全羅北道		忠清北道	
大邱	榮山浦	天安	忠清南道	全羅北道	忠清北道	全羅北道	忠清北道	全羅北道	忠清北道
咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道	咸鏡南道
咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道	咸鏡北道

○統監府令第五十一號(官報十一月四日) 囚人及被告人護送規則左ノ通定ム

統監 子爵曾禰荒助

囚人及被告人護送規則

第一條 囚人及被告人ノ護送ハ警察官吏ヲシテ之ヲ行ハシム但シ特ニ必要アル場合ニ於テハ憲兵下士卒ヲシテ行ハシムルコトヲ得

監獄間ニ於ケル囚人ノ護送ハ看守長、看守ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二條 護送ハ總テ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ直送スヘキモノトス但シ時宜ニ依リ沿道警察官署ノ遞傳ニ付スルコトヲ得

第三條 護送ヲ爲ストキハ發送官署ハ別紙様式ノ護送狀ヲ作り必要ノ書類ヲ添ヘ被護送者ト共ニ護送官吏ニ交付スヘシ但シ直送ノ方法ニ依リ囚人ノ監獄間ノ護送ヲ爲ス場合ニ於テハ身分帳其ノ他ノ書類ヲ以テ護送狀ニ代フルコトヲ得

第四條 發送官署ハ豫メ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ其ノ氏名、發送ノ日時、護送ノ事由及方法ヲ通報スヘシ

第五條

被護送者ノ所持スル金品ハ左ノ例ニ依リ之ヲ取扱フ
一 金錢ハ發送官署ヨリ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ之ヲ直送ス但シ金額五圓ニ滿タサル
トキ、即日ニ護送ヲ終了スヘキトキ又ハ被告人ニ屬スル金錢ニシテ本人ノ請求アルトキハ
護送官吏ニ依リ託送スルコトヲ得

二 物品ハ護送官吏ニ依リ之ヲ託送ス但シ危險ノ虞アル物品又ハ護送官吏ノ攜帶ニ適セサル物
品ハ發送官署ヨリ被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ直送スルコトヲ得
送致中ノ金品ハ護送官吏ニ依リ託送スル場合ニ於テハ護送官署ノ保管ニ屬シ其ノ他ノ場合
ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス

第六條 護送ハ日出前日没後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ汽車、汽船ニ依ル場合若ハ特別ノ
事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 被護送者ハ汽車、汽船中ニ在ル場合ノ外警察官署ニ宿泊セシム但シ囚人及勾留狀ニ依リ
拘留スヘキ被告人ハ監獄所在地ニ於テハ監獄ニ宿泊セシムルコトヲ得
警察官署又ハ監獄ニ宿泊セシメ難キトキハ他ニ宿所ヲ定ムルコトヲ得

第八條 被告人護送ノ場合ニ於テハ監獄ノ規程ニ從ヒ護送中ニ必要ナル物品又ハ飲食物ノ購求若
ハ差入ヲ許スコトヲ得
前項ニ依リ購求シタル物品又ハ飲食物ノ代價ハ保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ證認書ヲ徴
スヘシ

第九條 護送中逃走者アルトキハ護送官吏ハ直ニ其ノ地ノ警察官吏、憲兵及附近ノ警察官署並護
送官署ニ通報シ護送官署ハ之ヲ發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署ニ通報スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ書類及金品ハ之ヲ發送官署ニ返付ス

第十條 護送中護送者疾病ニ罹リタルトキハ相當ノ手當ヲ加ヘ若シ護送ヲ繼續スヘカラサルモ
ノト認メタルトキハ被護送者ヲ書類及金品ト共ニ附近ノ警察官署ニ交付スヘシ但シ第七條第一
項但書ニ該當スル者ニ付テハ之ヲ附近ノ監獄ニ交付スルコトヲ得

前項ニ依リ交付ヲ受ケタル官署ハ直ニ疾病ノ狀況ヲ發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署
ニ通報スヘシ疾病治癒シテ更ニ護送ニ付シタルトキ亦同シ

第十一條 護送中護送者死亡シタルトキハ其ノ死體ヲ書類及金品ト共ニ附近ノ警察官署ニ交付
スヘシ
汽車、汽船中ニ於テ死亡シタルトキハ其ノ死體ハ最初ノ停車地又ハ著船地ノ警察官署ニ交付スヘ
シ但シ已ムヲ得サル場合ニ於テハ其ノ他ノ停車地又ハ著船地ノ警察官署ニ交付スルコトヲ得

死體ノ交付ヲ受ケタル警察官署ハ發送官署及被護送者ノ交付ヲ受クヘキ官署並本人ノ住所地ヲ
管轄スル警察官署ニ死亡ノ日時、原因等ヲ通報シ護送ニ關スル書類ハ之ヲ發送官署ニ返付スヘ
シ
死亡後二十四時間内ニ交付ヲ受クル者ナキトキハ死體ハ假リニ之ヲ埋葬シ遺留ノ金品ハ之ヲ發
送官署ニ返付スヘシ

第十二條 護送官吏ノ旅費及被護送者ニ要スル護送ノ費用ハ護送官署ノ負擔トス但シ被護送者ヲ
監獄又ハ警察官署ニ宿泊セシメタル場合ニ於ケル費用ハ其ノ監獄又ハ警察官署ノ負擔トス

第十三條 被護送者ヲ監獄又ハ警察官署以外ニ宿泊若ハ飲食セシメタル場合ニ於テハ其ノ費用ハ
實費額ニ依ル但シ宿泊ノ費用ハ一夜金三十錢、飲食ノ費用ハ一回金十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

附則
本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

前項ニ依リ辨償セシムヘキ金額ハ典獄之ヲ定ム
第九條 給與品ノ修補ハ自辨トス

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第五十四號(官報 十一月十九日)

統監府監獄備人給與品及貸與品規程左ノ通定ム

明治四十二年十月二十九日

統監府監獄備人給與品及貸與品規程

統監 子爵會禰荒助

第一條 監丁、馱者及馬丁ニ給與スル品目、數量及供用期限ハ左ノ如シ

品目	監丁		馱者		馬丁		事由
	數量	供用期限	數量	供用期限	數量	供用期限	
冬服	一組	八箇月	一組	八箇月	一組	八箇月	
夏服	二組	四箇月	二組	四箇月	二組	四箇月	
外傘	一箇	二年	一箇	二年	一箇	二年	雨覆付
帽	一箇	一年	一箇	一年	一箇	一年	
日襪	一箇	四箇月	一箇	四箇月	一箇	四箇月	
短靴	二組	一年	二組	一年	二組	一年	
底革足袋	一	一年	一	一年	一	一年	

品目	數量	供用期限
ゲートル	一組	一年
靴下	一組	一年
冬観衣袴下	二組	八箇月
夏観衣袴下	二組	四箇月

第二條 監丁、馱者及馬丁ニハ必要ニ依リ外套、袴、手帳、捕縄及呼子笛ヲ貸與スルコトヲ得
第三條 給與品ハ現品ヲ以テ給ス但シ左記ノ給與品ニ限り各相當ノ代料ヲ以テ給與スルコトヲ得

短靴 一組
底革足袋 一組
ゲートル 一組
靴下 一組
冬観衣袴下 一組
夏観衣袴下 一組
前項但書ニ依リテ支給スヘキ金額ハ各品ヲ通シタル年額ヲ十二分シテ毎月五日之ヲ給ス但シ休
働日ニ當ルトキハ順次之ヲ繰下クルモノトス
第四條 給與品ノ支給期ハ左ノ如シ
一 夏服、帽、日覆、短靴、底革足袋、ゲートル、夏観衣、袴下ハ五月
一 冬服、外套、冬観衣、袴下ハ九月
一 靴下ハ毎月

第五條 給與品ノ供用期限ハ支給シタル翌月ヨリ起算ス
 第六條 支給期日以後ニ於テ給與スヘキ場合ニハ還納品ヲ以テ相當期限ヲ定メ之ヲ給與スルコトヲ得
 期日以後ニ支給シタル給與品ニシテ其ノ次ノ支給期日ニ至リテ供用期限尙存スルモノハ之ヲ還納セシム

第七條 免職、轉職、退職又ハ死亡ノ際ハ其ノ貸與品及供用期限内ニ在ル給與品ヲ還納セシム
 第八條 貸與品又ハ供用期限内ニ在ル給與品ヲ毀損又ハ紛失シタルモノアルトキハ代品ヲ貸與又ハ給與ス其ノ過失怠慢ニ出テタルモノナルトキハ代料辨償ノ責ニ任セシム
 前項ニ依リ辨償セシムヘキ金額ハ典獄之ヲ定ム

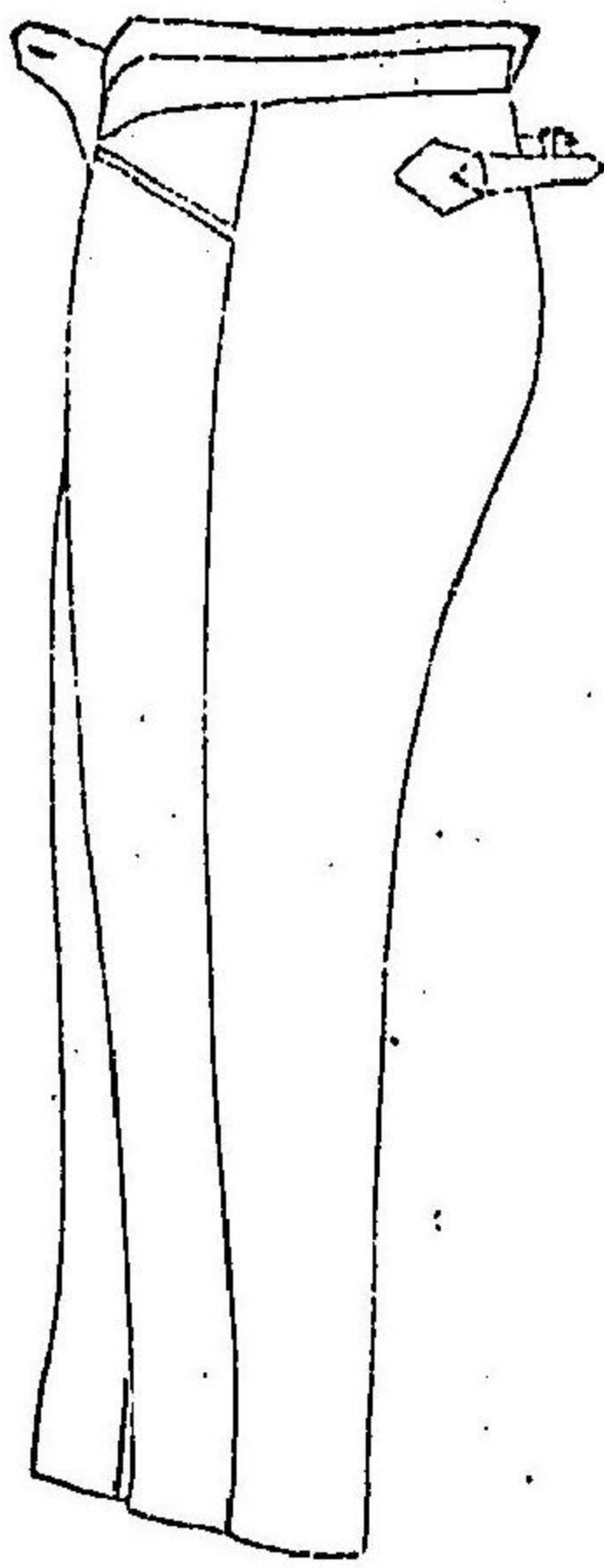
第九條 給與品ノ修補ハ自辨トス
 第十條 被服ノ製式ハ別表ノ如シ
 第十一條 監丁、馭者及馬丁以外ノ監獄常備人ニシテ被服其ノ他ノ物品ヲ給與又ハ貸與スヘキ必要アルトキハ典獄ハ本規程ノ定ムル所ニ準シテ其ノ一部又ハ全部ヲ給與又ハ貸與スルコトヲ得

附則
 本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 別表

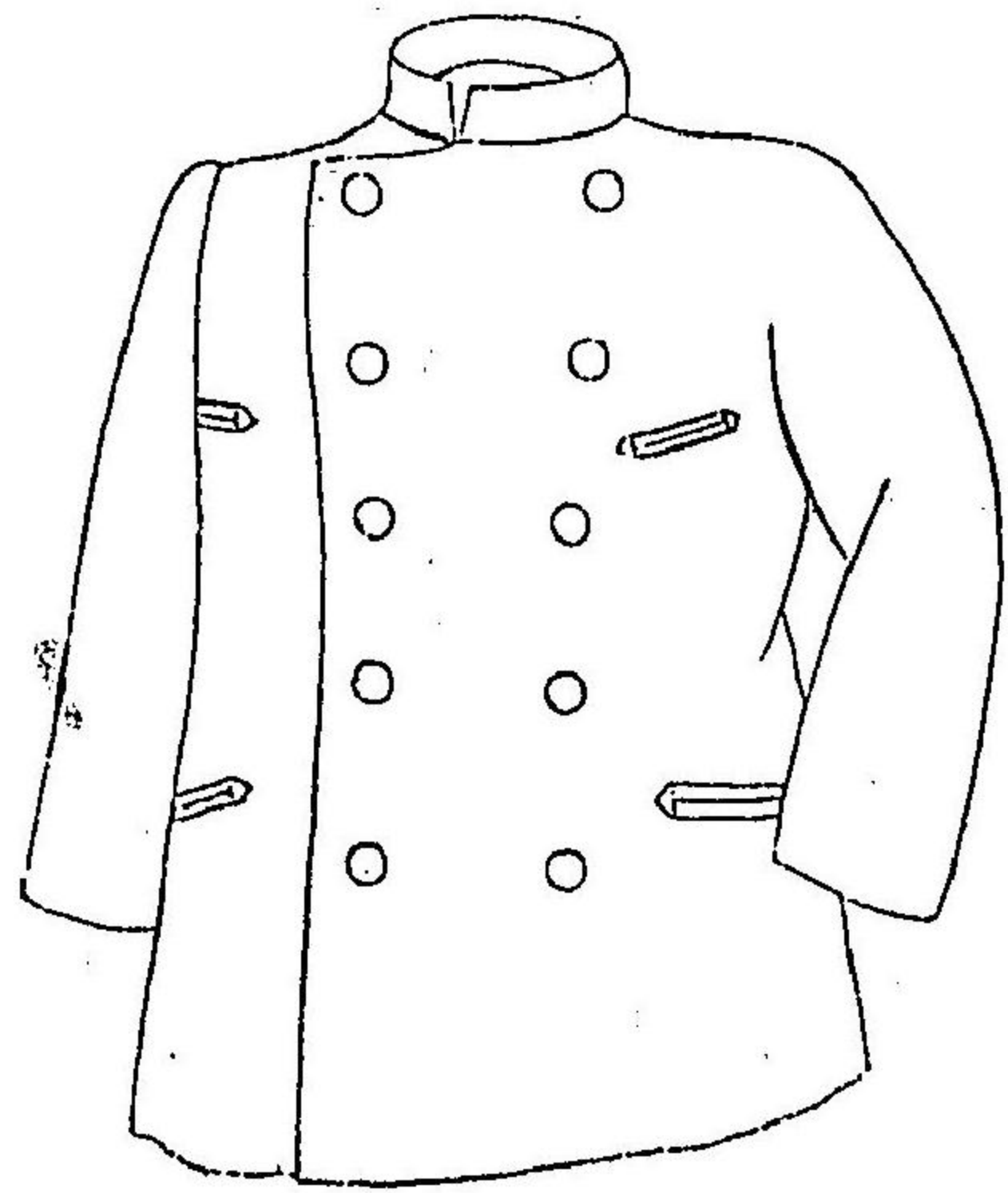
名	稱	地質	帽章	眼庇	履紐	製式	形狀
監丁	馭者	同	同	同	同	同	同
上部黒絨 下部茶褐絨	眞鍮圓形 一寸五分 字號	革黒	三	革	下部高サ一寸三分 上部噴出幅一分 茶褐圓ノ如シ		

名		稱		地質		帽		名		稱		地質		製式		形狀	
馬丁	馭者	監丁	馭者	馬丁	馭者	監丁	馭者	馬丁	馭者	監丁	馭者	馬丁	馭者	監丁	馭者	馬丁	馭者
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨	濃紺又ハ黒絨
角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五	角圓形 徑七分五
長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六	長サハ靴履上際ヲ去ルコト約六
圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ

明治四十二年十一月 府令 統監府第五十四號

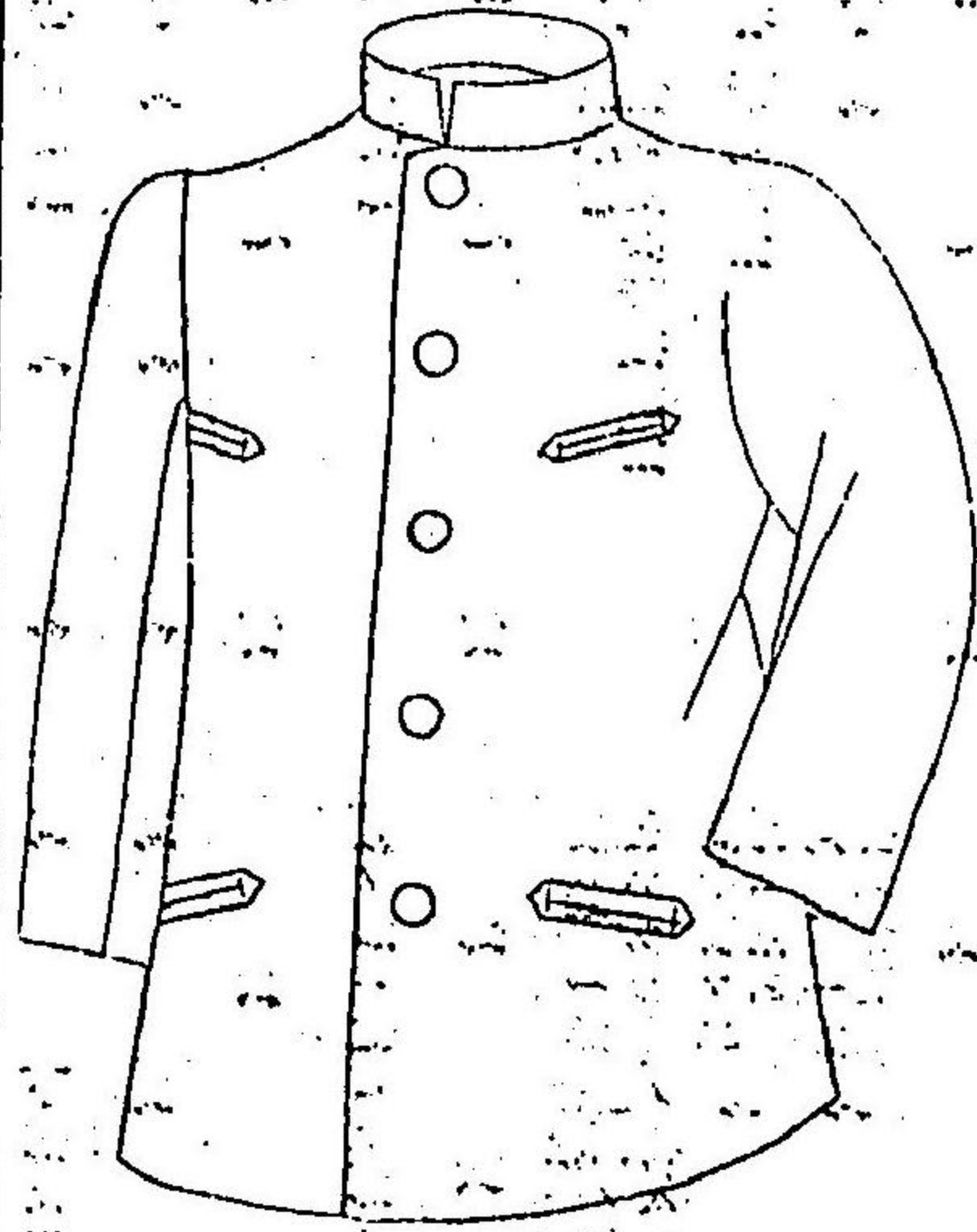


袴

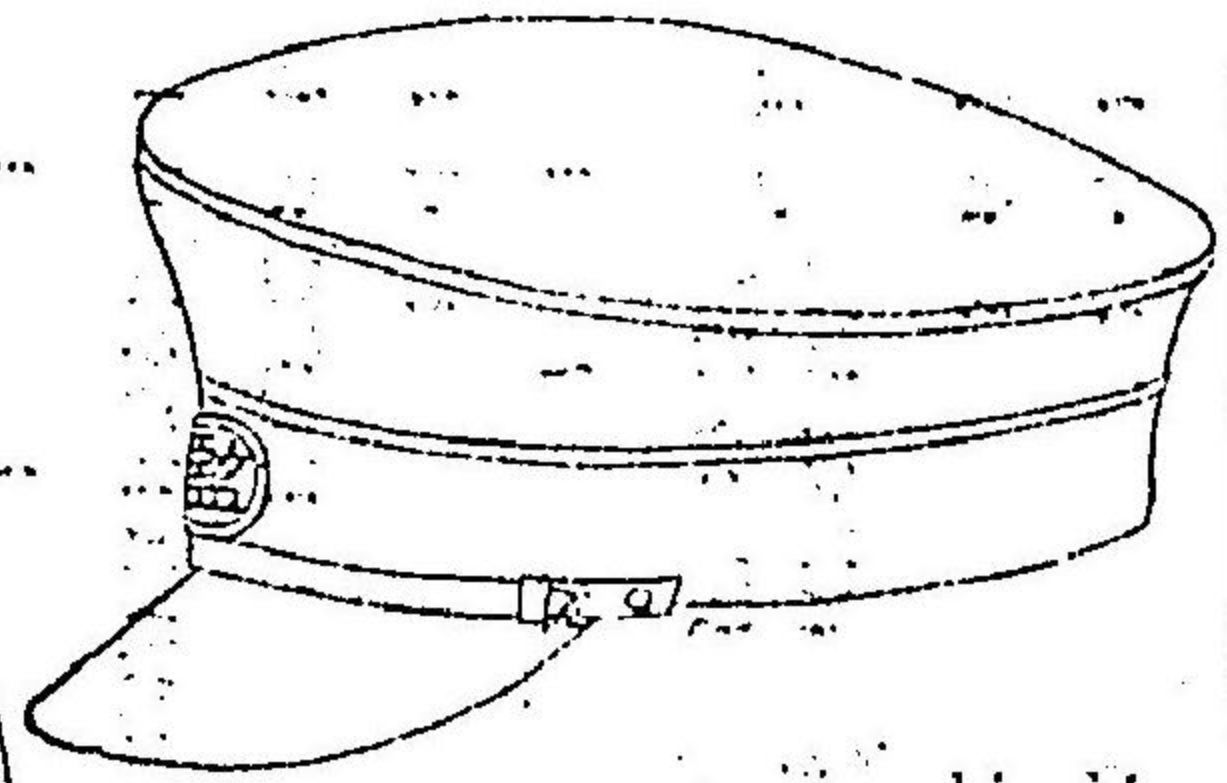


衣
(者叙)

明治四十二年十一月 府令 統監府第五十四號

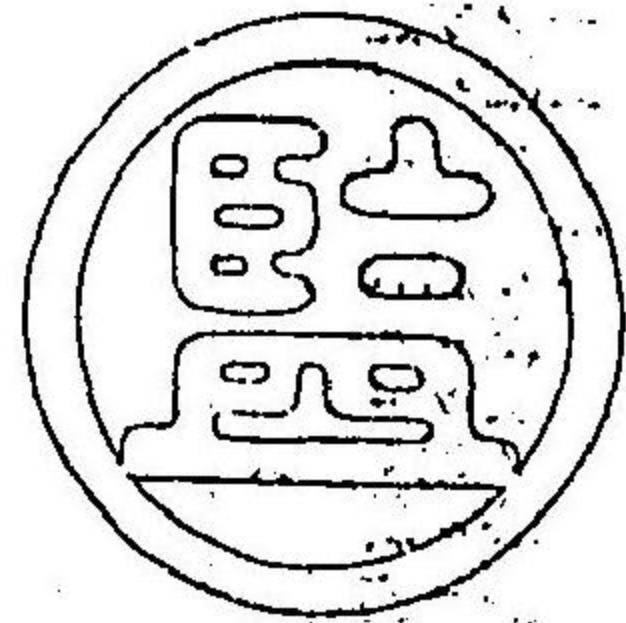


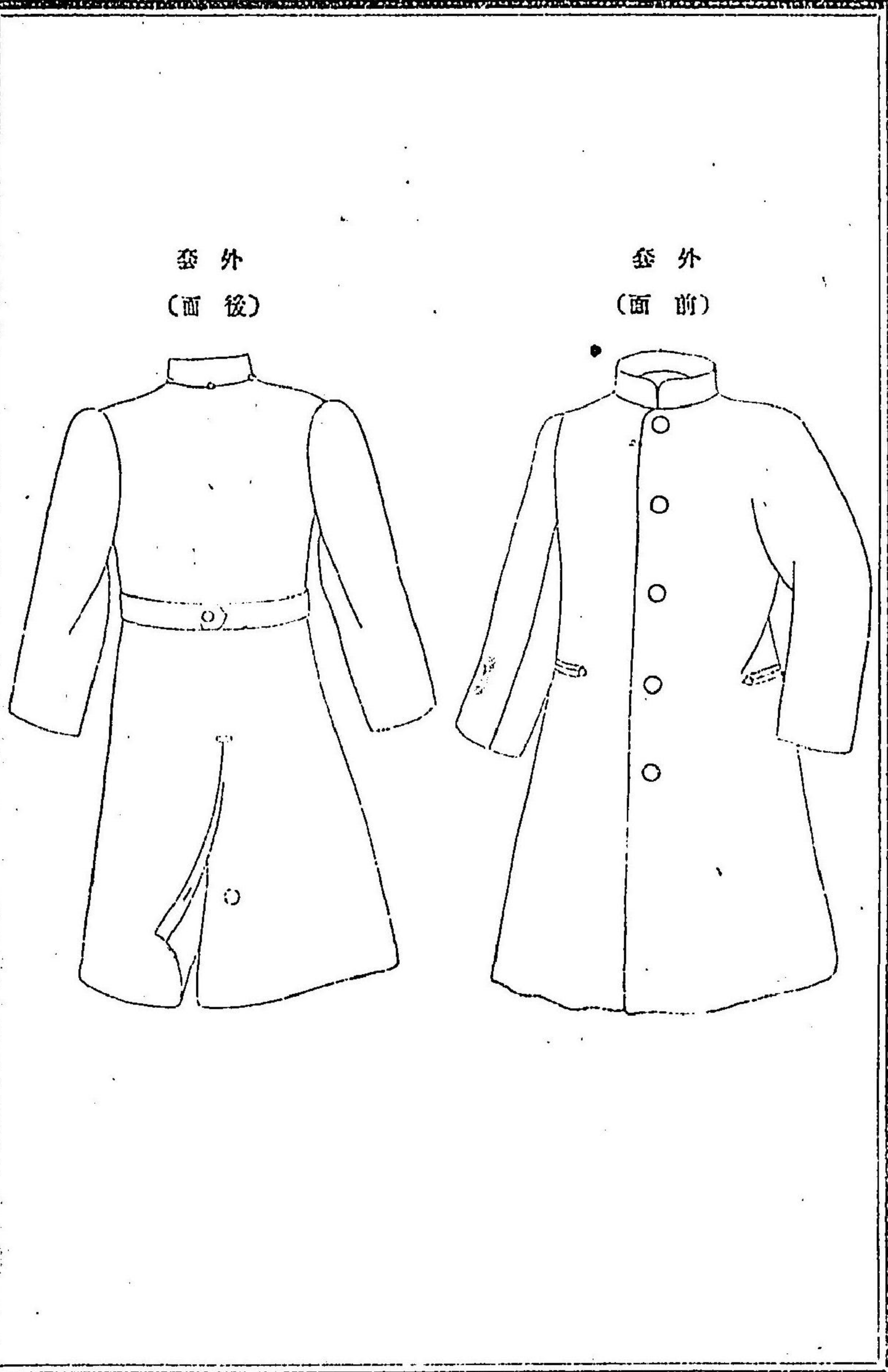
衣
(丁馬) (丁驗)



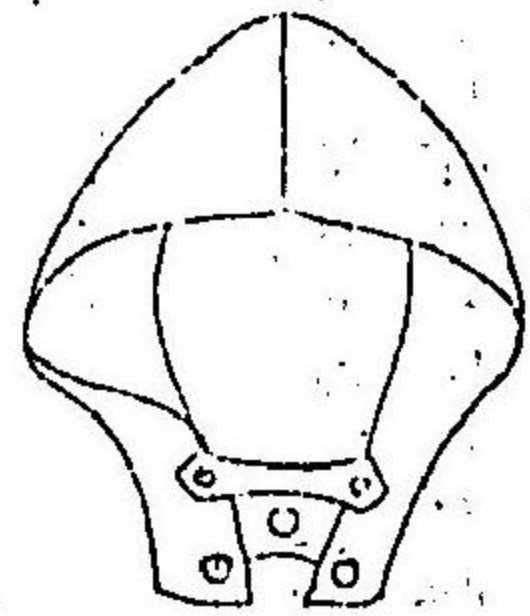
帽

章

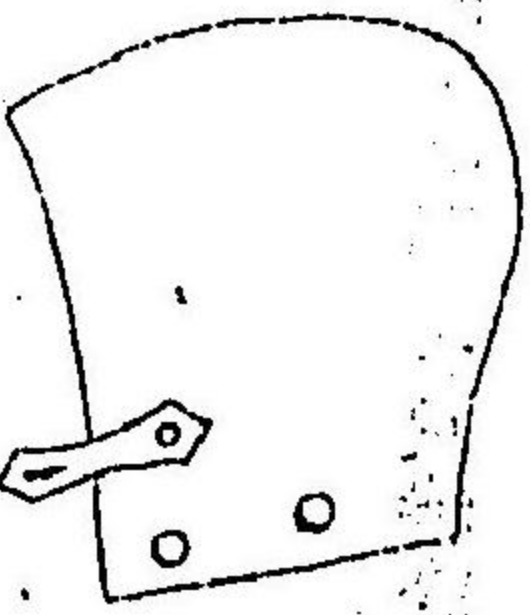




外傘雨履 (面前)



(面側)



○統監府令第五十五號(官報十一月十九日)
 明治四十一年九月統監府令第四十號官廳用軍用及私設電信電話並特設電話維持規程中左ノ通改正ス

明治四十二年十月三十日

統監 子爵曾禰荒助

第二條第一項第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 電話機、附屬物品及電池ノ維持料

一 電話機(電池及附屬品ヲ含ム)

一箇毎二年額金八圓

二 卓上電話機(同)

一箇毎二年額金十二圓

三 電鈴

一箇毎二年額金二十圓

四 受話器(筒形又ハ時計形)

一箇毎二年額金一圓二十錢

五 電池裝置場所一箇所ニ付

一箇毎二年額金三圓五十錢

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

軍用電信線ヲ連接セル通信官署内ニ裝置スル機械及電線其ノ他附屬物品ノ維持料亦前項ニ同シ

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第五十六號(官報十一月十九日)
韓國特許令施行規則左ノ通改正ス

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

韓國特許令施行規則

第一條 韓國特許令ノ施行ニ關シテハ特許法施行細則ニ依ル但シ同則中特許局トアルハ統監府特許局ニ、外國人トアルハ日本國及韓國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ニ、外國法人トアルハ日本國及韓國以外ノ國ノ法人ニ、遞信省令トアルハ統監府令ニ、官報トアルハ統監府公報ニ、大審院トアルハ統監府高等法院ニ該當ス

第二條 軍事上秘密ヲ要スル發明ノ特許ニ付テハ明治四十二年勅令第二百九十九號ニ依ル但シ同令中特許局長トアルハ統監府特許局長ニ該當ス

第三條 特許ノ登錄ニ關シテハ特許登錄令及特許登錄令施行規則ニ依ル但シ特許登錄令中主務大臣トアルハ統監ニ、區裁判所トアルハ統監府區裁判所ニ、裁判所トアルハ統監府裁判所ニ該當ス

第一條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ韓國特許令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
舊韓國特許令第四條ノ特許ニ付テハ特許法施行細則、特許登錄令及特許登錄令施行規則中特許證及其ノ模本ニ關スル規定ヲ適用セス

○統監府令第五十七號(官報十一月十九日)
韓國意匠令施行規則左ノ通改正ス

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

附則

本令ハ韓國意匠令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
舊韓國意匠令第五條ノ意匠ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス

第二條 意匠ノ登錄ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十五號及同年農商務省令第四十七號ニ依ル

附則

本令ハ韓國意匠令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
舊韓國意匠令第五條ノ意匠ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス
○統監府令第五十八號(官報十一月十九日)
韓國商標令施行規則左ノ通改正ス

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

第一條 韓國商標令ノ施行ニ關シテハ商標法施行細則ニ依ル但シ同則中外國トアルハ日本國及韓國以外ノ國ニ該當ス

第二條 商標ノ登錄ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十六號及同年農商務省令第四十八號ニ依ル

第三條 韓國特許令施行規則第一條但書、第三條第一項但書及第四條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ韓國商標令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊韓國商標令第五條ノ商標ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス

○統監府令第五十九號(官報十二月十九日)

韓國實用新案令施行規則左ノ通定ム

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

韓國實用新案令施行規則

第一條 韓國實用新案令ノ施行ニ關シテハ實用新案法施行規則ニ依ル

第二條 實用新案ノ登録ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十七號及同年農商務省令第四十九號ニ依ル

第三條 韓國特許令施行規則第一條但書、第二條、第三條第一項但書及第四條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

附則

本令ハ韓國實用新案令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

韓國實用新案令附則第四項ニ依ル出願ニハ其ノ發明又ハ意匠カ米國ニ於テ特許又ハ意匠ノ登録ヲ受ケタルモノナルコト及出願人カ其ノ特許權又ハ意匠權ヲ有スルコトヲ證明スヘキ書面ヲ添附ス

前項ノ出願ニ關シテハ手数料ヲ徴收セス

韓國實用新案令附則第四項ノ實用新案ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ出願ニ關シテハ手数料ヲ徴收セス

韓國實用新案令附則第四項ノ實用新案ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス

○統監府令第六十號(官報十一月十九日)
韓國特許辦理士試驗規則左ノ通定ム

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

韓國特許辦理士試驗規則

韓國ニ於ケル特許辦理士試驗ニ關シテハ特許辦理士試驗規則ニ依ル但シ同則中特許局トアルハ統監府特許局ニ、特許局高等官トアルハ統監府及統監府特許局高等官ニ、主務大臣トアルハ統監ニ、官報トアルハ統監府公報ニ該當ス

附則

本令ハ韓國特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第六十一號(官報十一月十九日)

韓國特許代理業者登録規則ハ韓國特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

○統監府令第六十二號(官報十一月十九日)

委任及判任待遇統監府監獄職員旅費規則左ノ通定ム

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

委任及判任待遇統監府監獄職員旅費規則

第一條 委任及判任待遇統監府監獄職員ノ韓國内ノ旅費ニ付テハ外國旅費規則ヲ準用ス但シ統監府看守及統監府女監取締ノ旅費額ハ備員ノ額ニ依ル

第二條 委任及判任待遇統監府監獄職員ノ本邦内ニ於ケル旅費ニ付テハ內國旅費規則ヲ準用ス但シ統監府看守及統監府女監取締ノ旅費額ハ警察官吏其他內國旅費概則中看守ノ額ニ依ル

第三條 統監府及理事廳職員給與令第七條ノ規定ハ委任及判任待遇統監府監獄職員ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ韓國特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第六十二號(官報十一月十九日)

委任及判任待遇統監府監獄職員旅費規則

第一條 委任及判任待遇統監府監獄職員ノ韓國内ノ旅費ニ付テハ外國旅費規則ヲ準用ス但シ統監府看守及統監府女監取締ノ旅費額ハ備員ノ額ニ依ル

第二條 委任及判任待遇統監府監獄職員ノ本邦内ニ於ケル旅費ニ付テハ內國旅費規則ヲ準用ス但シ統監府看守及統監府女監取締ノ旅費額ハ警察官吏其他內國旅費概則中看守ノ額ニ依ル

第三條 統監府及理事廳職員給與令第七條ノ規定ハ委任及判任待遇統監府監獄職員ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ韓國特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第六十一號(官報十一月十九日)

韓國特許代理業者登録規則ハ韓國特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

○統監府令第六十二號(官報十一月十九日)

委任及判任待遇統監府監獄職員旅費規則左ノ通定ム

明治四十二年十一月一日

統監 子爵曾禰荒助

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第六十三號(官報十一月十九日)

統監府司法廳統監府裁判所及統監府監獄囑託員、雇員、傭人旅費規則左ノ通定ム

明治四十二年十一月一日

統監 子爵會禰荒助

統監府司法廳統監府裁判所及統監府監獄囑託員、雇員、傭人旅費規則

囑託員、雇員(授業手ヲ含ム)及傭人(監丁、延丁、給仕、小使、取寄馬丁等)ノ旅費ニ付テハ統監府及理事廳囑託員、雇員其他旅費規則ニ依ル

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○統監府令第六十四號(官報十一月十九日)

統監府監獄官制施行ノ際理事廳看守ノ職ニ在リタル者ヨリ直ニ統監府看守ヲ命セラレタル者及統監府司法警察官官制施行ノ際韓國政府聘用中ノ統監府巡查又ハ理事廳巡查ヨリ直ニ統監府巡查ヲ命セラレタル者ハ勸導者トス

明治四十二年十一月一日

統監 子爵會禰荒助

○統監府令第六十五號(官報十一月二十日)

明治四十一年ハ統監府令第三十三號郵便私書函使用規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月十三日

統監 子爵會禰荒助

第七條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ使用料ハ使用者官公署ナルトキハ之ヲ後納トスルコトヲ得

〔參照〕

統監府令第三十三號郵便私書函使用規則(明治四十一年八月二十六日)抄録

第七條 私書函使用料ハ一箇年ヲ左ノ四期ニ分テ其ノ一期分ヲ前納スヘシ但シ管該會計年度ニ屬スル使用料二期分以上ヲ一時ニ前納スルコトヲ得

第一期 自六月三十日 第二期 自七月三十一日 第三期 自八月三十一日 第四期 自九月三十一日

○統監府令第六十六號(官報十二月二十日)

明治三十九年統監府令第三十八號中左ノ通改正ス

明治四十二年十一月十三日

統監 子爵會禰荒助

第二號中「統監府令第二十四號韓國人」ヲ削ル

第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 刑事判決ノ正本、謄本及抄本ノ手数料ニ關スル規定ニ依リ徵收スル手数料

第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 官吏カ執達吏ニ屬スル職務ヲ行フ場合ニ徵收スル手数料

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

統監府令第三十八號(明治三十九年九月二十七日)抄録

左ニ掲クル手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

一 統監府令第三十四號韓國人外國旅券規則ニ依リ徵收スル手数料

二 統監府令第三十八號判決ノ正本、謄本及抄本ノ手数料ニ關スル件ニ依リ徵收スル手数料

○臺灣總督府令第七十二號(官報十一月二日)

明治三十七年十一月府令第八十五號中電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス

明治四十二年十月二十三日

林內基隆間	八十五錢	林內西螺間	十	林內打狗間	五十五錢
林內淡水間	七十五錢	林內五間所間	十	林內橋仔頭間	四十五錢
林內臺北間	七十五錢	林內土庫間	十	林內新營南間	三十五錢
林內新竹間	五十五錢	林內他里霧間	十	林內新營庄間	三十五錢
林內苗栗間	四十五錢	林內嘉義間	十	林內南靖庄間	二十五錢
林內葫蘆墩間	三十五錢	林內南靖庄間	十	林內新營庄間	二十五錢
林內臺中區	三十五錢	林內新營庄間	十	林內新營庄間	二十五錢
林內彰化間	三十錢	林內新營庄間	十	林內新營庄間	二十五錢
林內林圯埔間	十	林內新營庄間	十	林內新營庄間	二十五錢
林內斗六間	十	林內新營庄間	十	林內新營庄間	二十五錢

○臺灣總督府令第七十三號(官報十一月二日)

明治三十八年六月府令第五十號收入印紙賣下賣捌規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第八條第一項中「百分ノ五ヲ」百分ノ三ニ改ム

第九條第一項中「百分ノ七ヲ」百分ノ十ニ改ム

附則

〔參照〕

臺灣總督府令第五十號收入印紙賣下賣捌規則(明治三十八年六月三十日府令第七十三號抄錄)

第八條第一項 收入印紙ヲ賣捌人ニ賣下クルトキハ其ノ定價ニ對シ百分ノ五ノ割引ヲ爲スヘシ

第九條第一項

賣捌人ハ收入印紙ノ損傷若ハ汚染シタルトキ又ハ不用ニ歸シタルトキハ其ノ定價ニ對シ百分ノ七ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ地方廳ニ請求スルコトヲ得

○臺灣總督府令第七十四號(官報十一月二日)

明治三十八年五月府令第三十四號臺灣總督府郵便切手類賣下賣捌規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十四日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第九條及第四號樣式中「千分ノ七十ヲ」千分ノ五十ニ改ム

附則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第三十四號臺灣總督府郵便切手類賣下賣捌規則(明治三十八年五月二十六日府令抄錄)

第九條 三等郵便局、郵便受取所並郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ買受高ノ定價ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ

一 三等郵便局ニ對シテハ定價千分ノ七十

二 郵便受取所並郵便切手賣捌所ニ對シテハ定價千分ノ五十

○臺灣總督府令第七十五號(官報十一月十五日)

應位置及管轄區域左ノ通相定ム

本令ニ定ムル管轄區域外ノ蕃地ノ管轄ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

明治三十八年十一月府令第八十九號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

白沙墩	客仔厝	元長	潭內	大田	土庫	三合	五間	他里	溫厝	惠來	蘇厝	斗六	大六	九林	模厝	溪厝	竹園	西仔	下埔	埔仔	馬厝	草湖
龍下	頂六	頂林	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
合頂	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
山仔	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
鹿湖	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
五塊	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
大湖	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
下埔	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
大湖	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚

白沙墩	客仔厝	元長	潭內	大田	土庫	三合	五間	他里	溫厝	惠來	蘇厝	斗六	大六	九林	模厝	溪厝	竹園	西仔	下埔	埔仔	馬厝	草湖
龍下	頂六	頂林	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
合頂	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
山仔	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
鹿湖	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
五塊	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
大湖	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
下埔	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚
大湖	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚	頂脚

明治四十二年十一月府令 薩摩縣管內第七十五號

新	溪	竹	蘇	陽	大	車	土	北	大	頂	高	半	尖	新	新	尖	火	牛	溪	海	香	三
塹	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚	脚
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
田	雙	後	雙	壽	扶	新	淡	柏	四	食	飛	三	劍	家	租	海	普	油	新	香	三	
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
溪	小	六	港	大	樹	後	頂	番	溪	大	溪	下	牛	沙	五	五	山	大	二	香	三	
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
橋	下	更	三	好	草	下	後	蔡	林	口	下	橋	路	新	什	廟	香	大	香	三	三	
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
太	大	林	港	香	灣	溪	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下	下
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
東	下	深	六	香	水	蔡	蔡	龍	萬	內	植	臨	番	東	近	八	香	三	香	三	三	
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄

三五四

鹽	水	港	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽	鹽
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
五	通	東	角	溪	南	頂	考	新	應	洲	栗	温	後	山	茄	下	大	中	大	香	三	大
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
海	等	西	蘇	溪	下	布	島	坎	國	温	山	施	下	茄	下	大	三	大	香	三	大	大
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
海	北	扇	半	過	五	前	真	拱	下	中	三	中	頂	港	嶼	港	嶼	港	嶼	港	嶼	港
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
因	後	菜	嶼	黃	竹	新	港	龜	湖	後	墩	海	埔	祖	管	溪	北	溪	北	溪	北	溪
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄
飯	新	順	竹	慈	牛	副	鴨	雙	拳	海	後	梅	下	白	月	飯	店	庄	庄	庄	庄	庄
庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄	庄

明治四十二年十一月府令 薩摩縣管內第七十五號

三五五

學甲堡	宅仔港庄	學甲庄	中洲庄	溪底寮庄	北門嶼庄
學甲寮庄	溪洲仔寮庄	渡仔頭庄	佳里興庄	港仔尾庄	溪州庄
佳里興堡	子真廟庄	海埔庄	佳里興庄	港仔尾庄	溪州庄
新宅庄	蘇荳寮庄	南廂庄	大敦寮庄		
茅港尾東堡	蘇荳寮庄	南廂庄	大敦寮庄		
茅港尾西堡	下營庄	大敦寮庄			
赤山堡	林鳳營庄	蕃埔庄	港仔頭庄	水漆林庄	二甲庄
龜仔港庄	六甲庄	七甲庄	港仔頭庄	水漆林庄	二甲庄
中社庄	官佃庄	拔仔林庄	鳥山頭庄	角秀庄	中陽庄
二坵庄	九重橋庄	番仔田庄	水流東庄	王爺宮庄	笨潭庄
大坵園庄	九重橋庄	番仔田庄	三結義庄		
善化里東堡	北仔店庄	番仔頭庄	南勢坑庄	雙溪仔庄	茄拔庄
社仔庄	北仔店庄	小新營庄	坐駕庄		
東勢寮庄	北仔店庄	小新營庄	坐駕庄		
善化里西堡內	頭社庄	鳴頭庄	口背里庄	荳菜宅庄	
內	頭社庄	鳴頭庄	口背里庄	荳菜宅庄	
樟梓山溪西里	三埔庄	芒仔芒庄	北寮庄	竹頭崎庄	二重溪庄
鴨吧啞庄	三埔庄	芒仔芒庄	北寮庄	竹頭崎庄	二重溪庄
密枝庄	竹園庄	灣坵庄	鹿陶洋庄	鹿陶崎庄	沙仔田庄
龜丹庄	竹園庄	灣坵庄	鹿陶洋庄	鹿陶崎庄	沙仔田庄
內新化南里	中坑庄	蕃埔寮庄			
南	中坑庄	蕃埔寮庄			
外新化南里	港仔寮庄	石仔崎庄	左鎮庄	菜寮庄	山豹庄
潭頂庄	港仔寮庄	石仔崎庄	左鎮庄	菜寮庄	山豹庄

崗仔林庄	章山庄	內庄仔庄	九層林庄		
新化東里	章山庄	內庄仔庄	九層林庄		
山仔頂庄	聚正庄	牛稠埔庄			
新化北里	聚正庄	牛稠埔庄			
新化西里	大社庄	北勢洲庄			
新化西里	大社庄	北勢洲庄			
新市街	新店庄	社內庄	番仔寮庄		
大目降街	新店庄	社內庄	番仔寮庄		
大目降街	新店庄	社內庄	番仔寮庄		
廣儲東里	崇拔林庄	燕坑仔庄			
知母義庄	崇拔林庄	燕坑仔庄			
廣儲西里	大坑尾庄	竹仔脚庄	洋仔庄	噶口庄	北勢庄
廣儲西里	大坑尾庄	竹仔脚庄	洋仔庄	噶口庄	北勢庄
崙仔頂庄	西勢庄	王田庄			
崙仔頂庄	西勢庄	王田庄			
保東里	頂山脚庄	下湖庄			
保東里	頂山脚庄	下湖庄			
保西里	媽祖廟庄				
保西里	媽祖廟庄				
八甲庄	太子廟庄				
八甲庄	太子廟庄				
長興上里	太子廟庄				
長興上里	太子廟庄				
大灣庄	太子廟庄				
大灣庄	太子廟庄				
一甲庄	太子廟庄				
一甲庄	太子廟庄				
永康上中里	嶼嶼潭庄	埔姜頭庄	葛松庄		
永康上中里	嶼嶼潭庄	埔姜頭庄	葛松庄		
網寮庄	嶼嶼潭庄	埔姜頭庄	葛松庄		
網寮庄	嶼嶼潭庄	埔姜頭庄	葛松庄		
永康下里	嶼嶼潭庄	埔姜頭庄	葛松庄		
永康下里	嶼嶼潭庄	埔姜頭庄	葛松庄		
虎尾寮庄	後甲庄	三份仔庄			
虎尾寮庄	後甲庄	三份仔庄			
仁和里	後甲庄	三份仔庄			
仁和里	後甲庄	三份仔庄			
竹筒厝庄	桶盤淺庄	牛稠仔庄	鞍仔庄	十三甲庄	
竹筒厝庄	桶盤淺庄	牛稠仔庄	鞍仔庄	十三甲庄	

新昌里	永寧里	文賢里	三甲仔庄	崎源庄	仁德南里	上崙仔庄	仁德北里	塗庫庄	歸仁南里	歸仁北里	永豐里	崙仔頂庄	外新豐里	內新豐里	崇德西里	德洞庄	依仁里	中洲庄	長治一圖庄
			車路寮庄	田厝庄	新佃庄	沙崙庄							新埔庄	中坑仔庄	大荅庄	大荅庄	二橋庄	下坑庄	
			大甲庄	崁脚庄									深坑仔庄	龍船庄	布袋尾庄	港墩庄	營後庄		
			海埔庄										關帝廟街	崎頂庄	林仔邊庄				
			園仔內庄												剖猪厝庄				
			頂茄荳庄												大潭庄				

長治二圖里	大湖庄	下新社庄	烏樹林庄	嘉祥外里	九閣庄	中路庄	仁壽上里	阿公店街	梓官庄	海尾庄	仁壽下里	登甲庄	九甲庄	觀音上里	千秋寮庄	深水庄	觀音中里	楠梓坑街	保舍甲庄	觀音內里	觀音下里	竹仔門庄	乾仔形庄	半屏里	後到庄
湖內庄	北嶺庄	北嶺庄	挖仔頂庄	挖仔頂庄	前舍甲庄	大舍甲庄	大隆庄	仕隆庄	拔集庄	拔集庄	後紅頭庄	林仔頂庄	後紅頭庄	林仔頂庄	角宿庄	角宿庄	林仔頂庄	面埔庄	面埔庄	溪埔庄	新武厝庄	前埔厝庄	右冲庄		
竹厝庄	三爺埤庄	土寮庄	街尾庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	茄荳庄	
後椰庄	鴨母寮庄	鴨母寮庄	五甲庄	崗山庄	後崗庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	赤崁庄	
本洲庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	前峯庄	
竹仔港庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	阿連庄	

與隆外里	左營庄	廟後庄	竹仔脚庄	塙仔頭庄	番仔寮庄
與隆內里	鹽埕埔庄	內惟庄	桃仔園庄	前峯尾庄	覆鼎金庄
赤山內里	赤山脚庄	鳥松脚庄	夢裡庄	牛潮埔庄	
大竹埔庄	山仔脚庄	木松脚庄	空埔庄	大脚脚庄	
鳳山街	竹仔脚庄	新庄庄	道爺庄	七老爺庄	
新甲庄	維仔庄	大港庄	三塊厝庄	林德官庄	
大港埔庄	前金庄	烏雅松庄	過田庄	戲獅甲庄	
鳳山下里	旗後街	中洲庄	紅毛港庄	前五塊厝庄	
草衙庄	佛公庄	港仔墘庄	二苓庄	五甲庄	
鳳山上里	鳳鼻頭庄	港仔墘庄	中大厝庄	店仔後庄	
中麻庄	過塙仔庄	空地仔庄	大厝庄	荊葱脚庄	
小竹下里	赤崁庄	榜潭庄	林仔邊庄	王公廟庄	
溪洲庄	油尾庄	中港庄	大樹脚庄	九曲堂庄	
小竹上里	翁公園庄	山仔頂庄	小坪頂庄		
無水寮庄	阿猴廳				
港西中里	阿猴街				

潘西中里	管轄區域	崇蘭庄	頭前溪庄	海豐庄	歸來庄	公館庄
大湖庄	新社庄	麟洛庄	德協庄	火燒庄	番仔寮庄	
鹽埔庄	隆寮庄	彭厝庄	大路庄	老塙庄	番仔寮庄	
港四上里	搭樓庄	武洛庄	九塊厝庄	冷水坑庄	東寧庄	
阿里港街	後寮庄	土庫庄	中港庄	下張庄	東寧庄	
三塊厝庄	旗寮庄	高樹下庄	阿發庄	加納庄	田力庄	
東港庄	手巾寮庄	月眉庄	龍肚庄	新威庄	田力庄	
埔角庄	旗寮庄	吉洋庄	金瓜庄	中坵庄	田力庄	
竹頭角庄	手巾寮庄	月眉庄	龍肚庄	新威庄	田力庄	
精梓仙溪東里	十張庄	茄湖庄	新開庄	大邱庄	六龜庄	
山杉林庄	土庫庄	茄湖庄	新開庄	大邱庄	六龜庄	
老淡庄	土庫庄	茄湖庄	新開庄	大邱庄	六龜庄	
羅漢外門里	國潭庄	北勢庄	菜仔坑庄	溝坪庄	溪州庄	
磅磅坑庄	內埔庄	木橋庄	東勢埔庄	中埔庄	脚吊寮庄	
羅漢內門里	狗魚庄	木橋庄	東勢埔庄	中埔庄	脚吊寮庄	
觀音亭庄	水蛙源庄	牛欄埔庄	南安老庄	打鹿埔庄		
古亭坑庄	忠心庄	老東勢庄	新東勢庄	新北勢庄	老北勢庄	
嘉祥內里	忠心庄	老東勢庄	新東勢庄	新北勢庄	老北勢庄	
田寮庄	忠心庄	老東勢庄	新東勢庄	新北勢庄	老北勢庄	
港西下里	忠心庄	老東勢庄	新東勢庄	新北勢庄	老北勢庄	
內埔庄	忠心庄	老東勢庄	新東勢庄	新北勢庄	老北勢庄	
西勢庄	忠心庄	老東勢庄	新東勢庄	新北勢庄	老北勢庄	
西丹庄	忠心庄	老東勢庄	新東勢庄	新北勢庄	老北勢庄	

鼎	海	東	石	鄉	土地公前	鄉	沙	港	鄉	鼎	海	鄉	中	寮	鄉
西	寮	鄉	潭	邊	鄉	港	仔	尾	鄉	沙	港	鄉	鼎	海	鄉
瓦	碇	鄉	城	前	鄉	港	尾	鄉	瓦	碇	鄉	後	寮	鄉	
中	海	鄉	港	仔	鄉	岐	頭	鄉	小	赤	寮	鄉			
赤	寮	鄉	港	仔	鄉	岐	頭	鄉	小	赤	寮	鄉			
大	寮	鄉	島	嶼	鄉										
通	梁	鄉	大	倉	鄉										
吉	貝	鄉													
西	嶼	鄉													
檳	榔	鄉	合	界	頭	鄉	竹	篙	鄉	大	池	角	鄉	小	池
新	馬	鄉	內	寮	鄉	外	寮	鄉							
網	寮	鄉	將	軍	鄉	東	吉	寮	鄉	西	吉	寮	鄉	嶼	坪
水	寮	鄉	花	宅	鄉	花	嶼	鄉							

〔參照〕
 明治三十八年二月九日(即舊曆十一月十五日)臺灣總督府令第八十九號ハ本號ト同伴ナリ
 ○臺灣總督府令第七十六號(官報十一月十五日)
 應管轄區域ノ改正ニ依リ從前設置ノ支廳ニシテ其ノ位置他廳ノ管轄區域ニ屬シタルトキハ其ノ支廳ハ臺灣總督府地方官制第十一條ニ依リ管轄區域ノ屬スル廳ノ支廳トシテ設置シタルモノト看做ス

支廳所在地ニ廳ヲ置カレタルトキハ其ノ支廳ハ廢止シタルモノト看做ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第七十七號(官報十一月十五日)

明治三十七年三月府令第二十八號臺灣總督府地方法院及出張所名稱位置管轄區域左ノ通改正ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

臺灣總督府地方法院及出張所名稱位置管轄區域

名	稱	位置	管轄區域
臺	北	地	北
臺	中	地	中
臺	南	地	南

臺北地方法院出張所 北 臺北廳、桃園廳、新竹廳、宜蘭廳、臺東廳、花蓮港廳各管下一圓
 臺中地方法院出張所 中 臺北地方法院管轄ノ內宜蘭廳、臺東廳、花蓮港廳各管下一圓
 臺南地方法院出張所 南 嘉義廳、臺南廳、阿緬廳、澎湖廳各管下一圓

本令施行前臺北地方法院臺中出張所ニ於テ受理シタル事件ハ臺中地方法院ニ於テ管轄ス
 本令施行前臺北地方法院新竹出張所ニ於テ受理シタル事件ハ臺北地方法院ニ繫屬ス
 本令施行前臺南地方法院嘉義出張所ニ於テ受理シタル事件ハ臺南地方法院ニ繫屬ス
 本令施行前臺南地方法院ニ於テ受理シタル臺東廳、花蓮港廳管內ノ事件ニシテ未ダ判決ヲ經サルモノハ仍舊臺南地方法院ニ於テ管轄ス
 本令施行前臺北地方法院新竹出張所ニ於テ受理シタル臺中廳管下大甲支廳管內ノ事件ニシテ未ダ判決ヲ經サルモノハ仍舊臺北地方法院ニ於テ管轄ス

本令施行前臺南地方法院嘉義出張所ニ於テ受理シタル南投廳管下林圯埔支廳管內ノ事件ニシテ未
 タ判決ヲ經サルモノハ仍臺南地方法院ニ於テ管轄ス
 本令施行前臺北地方法院ニ於テ受理シタル宜蘭廳管下坪林尾支廳管內ノ事件ニシテ未
 サルモノハ仍臺北地方法院ニ於テ管轄ス
 ○臺灣總督府令第七十八號(官報十一月十五日)

明治三十八年五月府令第三十一號地方法院及出張所管內登記所名稱位置管轄區域左ノ通改正ス
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

地方法院及其ノ出張所管內登記所名稱位置管轄區域

名	稱	位置	管轄區域
臺北地方法院	淡水登記所	滬尾	臺北廳管下滬尾支廳、小基隆支廳各管內一圓
臺北地方法院	基隆登記所	基隆	臺北廳管下基隆支廳、瑞芳支廳、頂雙溪支廳、金包里支廳、水返脚支廳各管內一圓
臺北地方法院	深坑登記所	深坑	臺北廳管下深坑支廳、新店支廳各管內一圓
臺北地方法院	桃園登記所	桃園	桃園廳管下一圓
臺北地方法院	新竹登記所	新竹	新竹廳管下鳳直轄、北埔支廳、樹杞林支廳、新埔支廳、中港支廳、南庄支廳各管內一圓
臺北地方法院	苗栗登記所	苗栗	新竹廳管下苗栗支廳、後壠支廳、通霄支廳、三叉河支廳、大湖支廳各管內一圓
臺中地方法院	大甲登記所	大甲	臺中廳管下大甲支廳管內一圓
臺中地方法院	彰化登記所	彰化	臺中廳管下彰化支廳、鹿港支廳各管內一圓
臺中地方法院	北斗登記所	北斗	臺中廳管下北斗支廳、員林支廳、二林支廳各管內一圓
臺中地方法院	南投登記所	南投	南投廳管下鳳直轄、草鞋墩支廳、集集支廳、林圯埔支廳各管內一圓
臺中地方法院	埔里登記所	埔里	南投廳管下埔里支廳管內一圓
臺南地方法院	斗六登記所	斗六	嘉義廳管下斗六支廳、旗頭厝支廳、西螺支廳、尚背支廳、土庫支廳各管內一圓
臺南地方法院	北港登記所	北港	嘉義廳管下北港支廳、下湖口支廳各管內一圓
臺南地方法院	嘉義登記所	嘉義	嘉義廳管下鳳直轄、打貓支廳、竹頭崎支廳、中埔支廳、後大埔支廳各管內一圓
臺南地方法院	樸仔脚登記所	樸仔脚	嘉義廳管下樸仔脚支廳、東石港支廳各管內一圓
臺南地方法院	鹽水港登記所	鹽水港	嘉義廳管下鹽水港支廳、布袋嘴支廳、前大埔支廳、店仔口支廳各管內一圓
臺南地方法院	麻荳登記所	麻荳	臺南廳管下麻荳支廳、蕭壠支廳、北門嶼支廳、六甲支廳各管內一圓
臺南地方法院	大目降登記所	大目降	臺南廳管下大目降支廳、灣里支廳、鴨吧麻支廳各管內一圓
臺南地方法院	阿公店登記所	阿公店	臺南廳管下阿公店支廳、楠仔坑支廳各管內一圓
臺南地方法院	鳳山登記所	鳳山	臺南廳管下鳳山支廳、打狗支廳各管內一圓
臺南地方法院	東港登記所	東港	阿緞廳管下東港支廳、枋寮支廳各管內一圓
臺南地方法院	恒春登記所	恒春	阿緞廳管下恒春支廳、枋山支廳、蚊蟀支廳各管內一圓
臺南地方法院	阿緞登記所	阿緞	阿緞廳管下鳳直轄、阿里港支廳、潮州支廳各管內一圓
臺南地方法院	蕃薯寮登記所	蕃薯寮	阿緞廳管下蕃薯寮支廳、六龜里支廳、甲仙埔支廳各管內一圓

○臺灣總督府令第七十九號(官報十一月十五日)
 明治三十三年勅令第三百五十九號臺灣總督府監獄官制第十三條ニ依リ監獄支監ノ名稱位置左ノ通
 相定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年九月府令第七十八號ハ之ヲ廢止ス

明治四十二年十月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

名稱 臺北監獄支監

位置 宜蘭

〔參照〕

明治三十三年九月二十七日臺灣總督府令第七十八號ハ本號ト同伴ナリ

○臺灣總督府令第八十號(官報十一月十五日)

明治三十七年律令第三號第四條ニ基キ花蓮港廳長ヲシテ同令第一條各號ニ掲ケタル事務ヲ取扱ハシム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第八十一號(官報十一月十五日)

明治三十六年一月府令第六號臺灣地方稅規則施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第二條 地方費區ノ區域左ノ如シ

第一地方費區

臺北廳 宜蘭廳

桃園廳

新竹廳

臺中廳

南投廳

嘉義廳

第二地方費區

臺南廳 阿緞廳

臺東廳 花蓮港廳

第三地方費區

澎湖廳

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第八十二號(官報十一月十五日)

明治四十一年十月十二日府令第七十號臺灣農會規則施行規則中左ノ通改正ス

明治四十二年十月二十五日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第十條第二項中「役員」ヲ「會長、副會長及評議員」ト改メ左ノ一項ヲ加フ

幹事、地方委員及支會長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ會員中ヨリ會長之ヲ選任ス但シ名譽會員及贊助會員中ヨリ之ヲ選任スルヲ妨ケス

第十六條第一項中「十月」ヲ「二月」ニ改ム

第十七條ヲ左ノ通改ム

農會カ補助金ノ下付ヲ受ケムトスルトキハ設置ノ場合ヲ除クノ外前年八月中ニ申請書ニ其理由ヲ記載シタル書面、事業經營ノ要項及經費ノ概算書ヲ添附シ之ヲ臺灣總督ニ差出スヘシ

第十八條中「十月」ヲ「六月」ニ改ム

第二十四條ノ二 農會ニ屬スル廳區域カ他ニ合併セラレタルトキハ其ノ農會モ亦合併ス

農會ニ屬スル廳區域カ分割セラレタルトキハ其ノ農會ハ臺灣總督ノ指定スル農會ニ合併ス但シ農會財產ノ處分方法ハ分割シタル土地ノ各管轄廳長ニ於テ之ヲ協定シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條中「設置」ノ下ニ「合併」ヲ加フ

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十二年十一月 府令 臺灣總督府第八十二號

ノ二ノ場合ニ於テハ之ヲ減額セス
第十三條 削除

第十六條 電氣使用者ハ電氣ニ關スル設備ヲ濫ニ變更、修理シ若ハ貸渡シ又ハ臺灣總督府土木部
ノ貼付シタル封箋ヲ破棄シ或ハ剝取スヘカラス

第十七條 前條ノ規定ニ背キ電燈、電扇、電動機ノ數又ハ力ヲ増加シタルトキハ增加前ノモノニ對
スル既定使用料ノ外更ニ増加後ノモノニ對シ左記各號ノ率ニ依リ計算セル月額使用料ノ六箇月
分ヲ納付セシム

一 電燈ハ一燭光ニ付第三十三條白熱燈內燈五燭光ニ對スル晝夜間點燈料ノ五分ノ一

二 電扇ハ十六吋迄ハ第三十九條十六吋電扇月額使用料、十六吋ヲ超過スルモノハ同條六十吋
電扇月額使用料

三 電力ハ一馬力ニ付第五十一條五馬力以內ニ對スル一馬力晝夜使用料

前各號ニ依リ難キモノハ消費電量ヲ標準トシ臺灣總督府土木部長隨時之ヲ定ム

第十八條 電氣使用者ニ於テ其ノ申込使用時間外ニ電氣ヲ使用シタルトキハ其ノ都度反則使用ヲ
爲シタル分ニ對シ既定使用料ノ外更ニ第三十三條又ハ第五十一條ニ規定シタル晝夜使用月額料
金ノ一箇月分ヲ納付セシム

第十九條ノ二 第二十五條第三號、第四號ニ依リ送電中止ヲ受ケタル者ニシテ其ノ滯納金ヲ完納
シ送電中止ノ解除ヲ申込タルトキハ一申込ニ付金五十錢ノ復舊費ヲ即納セシム

前項ノ場合ニ於テ中止工事ノ準備ニ著手シタルトキハ工事完了セサルトキト雖尙前項ノ復舊費
ヲ徵收ス

第二十二條ノ二 納入告知書發行後翌月一日以前ニ於テ一部ノ使用ヲ中止、廢止又ハ變更シタル
ニ因リ料金ニ減額ヲ生シタルトキハ該納入告知書記載ノ月額料金ヲ假ニ納付セシメ爾後ニ於テ

徵收スヘキ料金ニ充當ス但シ全部ノ使用ヲ中止又ハ廢止シタル爲爾後ニ於テ徵收スヘキモノナ
キトキハ此ノ限ニ在ラス

月額料金以外ノ諸納付金ニ付過誤納金ヲ生シタルトキニ於テモ前項ノ規定ヲ準用ス

第二十四條ノ二 毎月二日、十一日、十八日ノ兩日ニ限リ晝間送電ヲ中止ス但シ作業上ノ必要ニ依リ此ノ
期日ヲ變更スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ使用者ニ通知スルモノトス

第二十五條 左ニ掲タル場合ニ於テハ送電ヲ中止シ又ハ拒絕スルコトアルヘシ

一 天災事變等不可抗力ノ爲發電所、配電所、水路、電線路其ノ他ニ故障ヲ生シ又ハ生セムトスル
虞アルトキ

二 發電所、配電所、水路、電線路等ニ臨時修繕ヲ要スルトキ

三 點燈料、電扇料、電力使用料、貸附料等ノ月額料金又ハ其ノ日割料金ヲ第八條規定ノ納期日又
ハ指定ノ期日迄ニ納付セサルトキ

四 電燈球ノ交換手数料、電氣機械器具、材料ノ拂下代金其ノ他各種ノ工事費等一切ノ收納金ヲ
臺灣總督府土木部長ノ發シタル納入告知書記載ノ納期日迄ニ納付セサルトキ

五 第十六條ノ規定ニ背キタルトキ

六 第二十四條ノ臨檢ヲ拒ミタルトキ

七 電氣設備保安ニ關シ臺灣總督府土木部長ニ於テ必要ト認メタル指示ニ應セサルトキ

八 電氣設備ニ危害ヲ及ボスモノト認ムヘキ作爲ヲ加ヘ又ハ加ヘムトスル虞アルトキ

第二十五條ノ二 電氣使用者ハ其ノ電氣使用上生シタル一切ノ電氣使用規則違背事項ニ關シテハ
自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルヲ得ス

第二十七條 電燈ノ種類ハ白熱電燈、弧光電燈ノ二トシ其ノ點火方法ヲ區分スルコト左ノ如シ
一 定時燈 夜間(自午後四時至午前八時)又ハ晝夜點火スルモノ

二 不定時燈 晝夜ニ拘ラス電量ヲ計リテ點火スルモノ
 三 臨時燈 九十日以内ニ於テ臨時期間ヲ定メ點火スルモノ
 第二十八條 貸附設備ニ係ル白熱電燈ノ取付費ハ左ノ率ニ依リ一戸又ハ一家毎ニ納付セシム

取付箇數

十燈迄

一燈ニ付 金一圓

十一燈ヨリ三十燈迄

金七十錢

三十一燈ヨリ百燈迄

金五十錢

百一燈以上

金四十錢

拂下又ハ使用者ノ購入設備ニ係ル白熱電燈ノ取付費並弧光電燈及臨時電燈ノ取付費ハ工事ノ模様ニ依リ相當費用ヲ納付セシム

第三十條 削除

第三十一條 家屋移轉、名義變更等ノ場合ニ於ケル架設換費ハ工事ノ模様ニ依リ相當費用ヲ納付セシム

第三十三條 定時燈點燈料ハ月額トシ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付セシム

臺北供給區域

區分	種別	白		熱	
		一燈ニ付	一燈ニ付	一燈ニ付	一燈ニ付
夜間內燈	五燭光	六圓十錢	八圓十錢	二圓十五錢	二圓十五錢
	八燭光	十圓	一圓五錢	一圓四十五錢	一圓四十五錢
夜間外燈	五燭光	八圓十錢	十圓	一圓四十五錢	一圓四十五錢
	八燭光	一圓五錢	一圓五錢	一圓四十五錢	一圓四十五錢
晝夜內燈	五燭光	六圓十錢	八圓十錢	二圓十五錢	二圓十五錢
	八燭光	十圓	一圓五錢	一圓四十五錢	一圓四十五錢
晝夜外燈	五燭光	八圓十錢	十圓	一圓四十五錢	一圓四十五錢
	八燭光	一圓五錢	一圓五錢	一圓四十五錢	一圓四十五錢

臺北供給區域	
區分	種別
夜間內燈	五燭光 三圓十錢
夜間外燈	五燭光 三圓十錢
晝夜內燈	五燭光 三圓十錢
晝夜外燈	五燭光 三圓十錢

基隆、臺南及打狗供給區域

區分	種別	白		熱	
		一燈ニ付	一燈ニ付	一燈ニ付	一燈ニ付
夜間內燈	五燭光	八圓十錢	十圓	二圓十五錢	二圓十五錢
	八燭光	一圓	一圓二十錢	一圓八十錢	一圓八十錢
夜間外燈	五燭光	八圓十錢	十圓	二圓十五錢	二圓十五錢
	八燭光	一圓	一圓二十錢	一圓八十錢	一圓八十錢
晝夜內燈	五燭光	八圓十錢	十圓	二圓十五錢	二圓十五錢
	八燭光	一圓	一圓二十錢	一圓八十錢	一圓八十錢
晝夜外燈	五燭光	八圓十錢	十圓	二圓十五錢	二圓十五錢
	八燭光	一圓	一圓二十錢	一圓八十錢	一圓八十錢

臨時燈ノ點燈料ハ前表記載ノ月額料金二倍額ノ日割計算トス
 内燈トハ邸宅内又ハ其ノ類似ノ場所ニ使用スルモノヲ謂ヒ外燈トハ道路公園又ハ公有水面ヲ
 照ラス爲ニ使用スルモノ及道路ニ沿ヒタル門燈、軒燈等ニシテ公衆ノ利便ニ供スル目的ヲ以テ
 設備スルモノヲ謂フ

第三十四條 白熱不定時燈點燈料ハ左ノ指定電量ヲ一箇月ノ最低額トシ使用ト否トニ拘ラス之ニ
 對スル月額料金ヲ納付スヘシ指定電量ニ超過シタルトキハ「ワット」時又ハ其ノ以内ヲ増ス
 毎ニ臺北供給區域ニ在リテハ金二十錢基隆、臺南及打狗供給區域ニ在リテハ金二十二錢ノ割合
 ヲ以テ算定シ之ヲ納付セシム

最低指定電量	供給區域別月額料金	
	臺北	基隆、臺南及打狗
三萬「ワット」時金	六圓	六圓六十錢

第三十六條 點燈料ハ其ノ料金ノ額ニ依リ割引ヲ爲スコト左ノ如シ

- 一箇月點燈料
 - 三十圓以上五十圓未満 割引率 百分ノ五
 - 五十圓以上百圓未満 割引率 百分ノ七
 - 百圓以上 割引率 百分ノ十

第三十七條 白熱電燈及弧光電燈ノ貸付料ハ月額トシ白熱電燈ハ一燈ニ付金十錢、弧光電燈ハ一
 燈ニ付金二圓ヲ納付セシム

第三十九條 電扇ハ定著、不定著ノ二種トシ定時使用ハ左ノ月額電扇使用料ヲ納付セシメ不定時
 使用ニ關シテハ第三十四條電燈ノ不定時使用ノ例ニ依リ之ニ對スル使用料ヲ納付セシム

種類	種類	箇數	供給區域別月額料金	
			臺北	基隆、臺南及打狗
十	二吋	一	基二	圓二圓二十錢
十	六吋	一	基三	圓三圓五十錢
六	十吋	一	基六	圓七圓

臨時電扇ノ使用料ハ前表ニ記載シタル月額料金ニ倍額ノ日割計算トス
 前項ノ臨時電扇ハ九十日以内ニ於テ臨時期間ヲ定メ使用スルモノトス

第四十條 電扇ノ貸付料ハ月額トシ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ納付セシム

種類	種類	箇數	月額貸付料	
			基	金
十	二吋	一	基	一圓
十	六吋	一	基	一圓五十錢
六	十吋	一	基	三圓

第四十條ノ二 電扇ノ使用者ニシテ其ノ使用ヲ中止スルトキハ中止間電扇一基ニ付每一箇月金二
 十錢ノ中止料ヲ徵收ス但シ月ノ二日以後ニ於テ中止ヲ爲シタル場合ハ其ノ月ニ限り之ヲ徵收セ
 ス

前項ノ中止ヲ爲シタル後其ノ月ノ中途ニ至リ再使用ヲ爲スコトアルモ其ノ月ノ中止料ハ之ヲ徵
 收ス

第四十一條 電扇ノ取付費、架設替費等ニ付テハ電燈ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十二條 削除

第四十三條 電力使用ノ最短期間ヲ三箇月トス既定ノ期間ヲ更ニ延長セムトスルモノハ期間満了一箇月前ニ申込ムヘシ

第四十五條第四十六條及第四十七條ヲ削ル

第四十八條 電動機ノ据付費、据換費及取除費ハ左ノ率ニ依リ之ヲ納付スヘシ但シ同一使用場内ニ於ケル据換費ハ半額トス

電動機馬力數	一基ノ据付、取除又ハ据換費
五馬力迄	金六圓
六馬力ヨリ十馬力迄	金十圓
十一馬力ヨリ二十馬力迄	金十五圓
二十一馬力ヨリ五十馬力迄	金二十五圓
五十一馬力ヨリ百馬力迄	金四十圓
百一馬力ヨリ三百馬力迄	金七十圓
三百馬力以上	金百二十圓

電力變更ノ費用ハ電動機ノ据付費、取除費ノ中ニ就キ其ノ大ナルモノニ依リ其ノ額ヲ定メ之ヲ納付セシム

臨時電力使用ノ場合ニ於ケル据付費、取除費ハ相當費用ヲ納付セシム

第五十一條 電力ノ定時使用料ハ月額トシ申込期間中使用ト否トニ拘ラス左ノ區別ニ從ヒ使用場毎ニ之ヲ納付セシム中途廢止ノ場合亦同シ

臺北供給區域

限定使用馬力數	晝夜使用一馬力ニ付	晝間使用一馬力ニ付
五馬力迄	金十六圓	金七圓
六馬力ヨリ十馬力迄	金二十四圓	金六圓
十一馬力ヨリ三十馬力迄	金三十二圓	金五圓
三十一馬力ヨリ五十馬力迄	金四十圓	金四圓五十錢
五十一馬力ヨリ百馬力迄	金四十八圓	金四圓
百一馬力以上	金五十六圓	金三圓

基隆、臺南及打狗供給區域

限定使用馬力數	晝夜使用一馬力ニ付	晝間使用一馬力ニ付
五馬力迄	金十七圓	金七圓五十錢
六馬力ヨリ十馬力迄	金二十五圓	金六圓五十錢
十一馬力ヨリ三十馬力迄	金三十三圓	金五圓五十錢
三十一馬力ヨリ五十馬力迄	金四十一圓	金五圓
五十一馬力ヨリ百馬力迄	金四十九圓	金四圓五十錢
百一馬力以上	金五十七圓	金三圓五十錢

前表ノ限定使用馬力數ニ依リ計算シタル使用料カ其レヨリ小ナルモノニ對スル使用料ヨリ低額ナルトキハ其ノ小ナルモノニ對スル使用料ノ最高額ヲ徴收ス

夜間ノミ使用ノ場合ハ晝夜使用ノ料金ニ依リ之ヲ納付セシム
 臨時電力ノ使用料ハ前表ニ記載シタル月額料金ニ倍額ノ日割計算トス
 第五十一條ノ二 電力ノ不定時使用料ハ左ノ指定電量ヲ一箇月間ニ於ケル使用電量ノ最低額トシ
 申込期間中使用ト否トニ拘ラス之ニ對スル月額料金ヲ納付スヘシ指定電量ニ超過シタルトキハ
 一千「ワット」時又ハ其ノ以內ヲ増ス毎ニ臺北供給區域ニ在リテハ金十錢基隆、臺南及打狗供給區
 域ニ在リテハ金十一錢ヲ徵收ス申込使用期間ノ中途ニ於テ中止又ハ廢止シタルトキ亦同シ

一馬力ニ對スル	供給區域別月額料金
最低指定電量	臺北 基隆、臺南及打狗
二萬「ワット」時	金 二圓 二十錢

第五十一條ノ三 不定時電力使用料月額以上ノ分ハ爾後ノ月額使用料ト同時ニ其ノ精算額ヲ合セ
 之ヲ納付セシム但シ廢止ノ場合ニ於ケル月額以上ノ料金ハ其ノ都度精算シ之ヲ納付セシム
 第五十二條 削除
 第五十三條 電動機ノ貸付料ハ月額トシ電力使用期間中使用ト否トニ拘ラス左ノ區別ニ從ヒ之ヲ
 納付セシム廢止ノ場合亦同シ

電動機種別	一基ノ貸付料
一馬力	七圓
二馬力	八圓
三馬力	九圓
五馬力	十圓

五馬力以上ノモノニ對スル貸付料ハ臺灣總督府土木部長隨時之ヲ定ム

第五十三條ノ二 電力用電量計ノ貸付料ハ月額トシ電力使用期間中使用ト否トニ拘ラス左ノ率ニ
 依リ之ヲ納付セシム

第五十四條 削除

電量計計量能力	月額貸付料
一馬力	金 一圓
二馬力以上ハ一馬力ヲ加フル毎ニ	金 十錢ヲ加フル

第五十五條 電動機及其ノ附屬機械、器具材料ノ修理ハ臺灣總督府土木部ニ於テ之ヲ爲シ相當費
 用ヲ納付セシム但シ臺灣總督府土木部ヨリ使用者ニ貸付シ若ハ拂下ケタル機械、器具、材料ニシ
 テ其ノ瑕疵据付以前ニ生シタルモノト認ムルトキハ修理ノ費用ハ之ヲ徵收セス
 使用者ニ於テ前項ノ修理ヲ爲サントスルトキハ臺灣總督府土木部長ノ承認ヲ受ケ其ノ監督ノ下
 ニ施行スヘシ

第五十七條 第五十五條第二項ノ監督又ハ其ノ他ノ調査等ノ爲使用者ヨリ臺灣總督府土木部職員
 ノ出張ヲ要求シタルトキハ相當費用ヲ納付セシム

第五章 補則

第五十八條 電燈球、電扇、電動機以外ノ機械器具ニ依リテ電氣ヲ使用セムコトヲ申込ム者アルト
 キハ時宜ニ依リ之ニ應スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於ケル電氣使用料及其ノ他必要ナル事項ハ臺灣總督府土木部長隨時之ヲ定ム
 第五十九條 明治三十五年ハ逡信省令第三十五號電氣事業取締規則第一條第二號、第三號ノ規定
 ニ適合スル電氣事業者ニシテ電氣ノ供給ヲ請フ者アルトキハ時宜ニ依リ之ニ應スルコトアルヘ
 シ

前項ノ場合ニ於ケル電氣使用料並電氣供給ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督府土木部長ノ定ムル所ニ依ル

第六十條 電氣使用事業ノ種類、性質等ニ因リ臺灣總督府土木部長ニ於テ必要ト認ムルトキハ規定ノ料金ニ對シ特ニ割引減額ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ割引額ハ臺灣總督府土木部長隨時之ヲ定ム

附則

本令ハ臺北及基隆供給區域ニ對シテハ明治四十二年十二月一日ヨリ臺南及打狗供給區域ニ對シテハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行以前ノ電氣使用者ニシテ本令施行ノ日ヨリ二十日以内ニ使用廢止ノ申込ヲ爲ササルモノハ本令ニ依リ使用申込ヲ爲シタルモノト看做ス

前項ノ期間内ニ使用廢止ノ申込ヲ爲シタル者ハ廢止ニ因ル取除費ヲ徵收セス

〔參照〕

臺灣總督府令第三十五號臺灣總督府電氣使用規則(明治四十年(五月二十三日)抄録)

第三條 電氣ヲ使用セムトスル者ハ臨時臺灣工部部ニ申込ムヘシ

電氣使用者ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ雙方運署ニ臨時臺灣工部部ニ申込ムヘシ但シ讓受人ハ讓渡人ノ未納ニ係ル諸料金納付ノ義務アルモノトス

第四條 前條第一項及第二項ノ變更申込ニ對シテハ作業上ノ都合ニ依リ之ヲ拒絕シ又ハ其ノ施設ヲ延期スルコトアルヘシ

第五條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

前項拂下物品ハ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ノ目的ト爲スコトヲ得ス若不用ト爲リタルトキハ臨時臺灣工部部ニ於テ査定スル所ノ價額ニ依リ買收スルモノトス

第六條 電氣使用ニ關スル工事ハ取付費、據付費ノ全部及器具、機械材料拂下代金ノ全部若ハ一部納付済ノ上之ヲ施設ス但シ臨時臺灣工部部ニ於テ前納ノ必要ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九條 新ニ電氣ヲ使用シ又ハ再使用ノ場合ニ於テハ其ノ月ノ月額料金ハ日割ヲ以テ指定期内ニ納付スヘシ

第十條 臨時臺灣工部部ノ都合ニ依リ送電ヲ中止シタルトキハ其ノ月ノ月額料金ハ其ノ全額ヲ納付スヘシ

第十一條 前條ノ規定ニ依リ送電ヲ中止シタルトキハ其ノ月ノ月額料金ハ其ノ全額ヲ納付スヘシ

第十二條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第十三條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第十四條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第十五條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第十六條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第十七條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第十八條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第十九條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十一條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十二條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十三條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十四條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十五條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十六條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十七條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十八條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第二十九條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十一條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十二條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十三條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十四條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十五條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十六條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十七條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十八條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第三十九條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十一條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十二條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十三條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十四條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十五條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十六條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十七條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十八條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第四十九條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第五十條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第五十一條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第五十二條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第五十三條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

第五十四條 電氣設備、電氣計及其ノ附屬物品ハ當分ノ内臨時臺灣工部部ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作廢スルコトアルヘシ

十燈迄	金一圓
十一燈ヨリ三十燈迄	金七十錢
三十一燈ヨリ百燈迄	金五十錢
百一燈以上	金四十錢
孤光燈取付箇數	内燈 金五圓 外燈 金四十圓
一燈ニ付	金五圓
白熱電燈ノ取除費ハ取付費ト同額トシ孤光燈ノ取除費ハ取付費ノ半額トス	

第三十條 建物ノ構造其ノ他ノ事由ニ因リ特別ノ工事ヲ要スルトキハ第二十八條ノ定額ノ外相當費用ヲ加ヘ之ヲ納付セシム

第三十一條 屋外電燈及家屋移轉ノ場合ニ於ケル取付費取除費ハ工事ノ模様ニ因リ相當費用ヲ納付セシム

第三十三條 定時電燈點燈料ハ月額トシテ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

區分	種別	供		給		區	
		夜間内燈	晝夜内燈	夜間外燈	晝夜外燈	北	南
五燭光	六十錢	八十錢	八十錢	一圓	一圓二十錢	六十錢	六十錢
八燭光	八十錢	一圓	一圓五錢	一圓二十錢	八十錢	七十錢	七十錢
十燭光	一圓	一圓二十錢	一圓三十五錢	一圓五十錢	八十錢	九十錢	九十錢
十六燭光	一圓二十錢	一圓四十錢	一圓六十錢	一圓八十錢	一圓	一圓十錢	一圓十錢
二十五燭光	一圓六十錢	一圓八十錢	二圓十五錢	二圓三十錢	一圓四十錢	一圓五十錢	一圓五十錢
三十二燭光	二圓	二圓二十錢	二圓七十錢	三圓	一圓八十錢	一圓九十錢	一圓九十錢
五十燭光	三圓	三圓三十錢	四圓	四圓三十錢	二圓五十錢	二圓六十錢	二圓六十錢
百燭光	五圓	五圓五十錢	六圓五十錢	七圓	四圓	四圓二十錢	四圓二十錢
百五十燭光	七圓	七圓五十錢	九圓四十錢	九圓九十錢	六圓	六圓五十錢	六圓五十錢
二百燭光	十圓	十一圓	十三圓五十錢	十四圓	八圓	八圓五十錢	八圓五十錢
千二百燭光	一燈二付	一燈二付	二十圓	一燈二付	二十二圓	二十二圓	二十二圓

第三十四條 白熱不定時電燈點燈料ハ左ノ指定電燈一箇月ノ使用最低トシ使用ト否トニ拘ラス之ニ對スル月額料金ヲ納付スヘシ指定電燈ニ超過シタルトキハ五十「ワット」時ニ付電北供給區域ニ在リテハ金一錢其陸供給區域ニ在リテハ金一錢

內燈トハ家屋其ノ他ノ建築物及敷地内ニ使用スルモノヲ謂ヒ外燈トハ道路、公園ニ使用スルモノ及道路ニ沿ヒタル門燈、軒燈等ヲ謂フ

一 取付料合ヲ以テ算定シ之ヲ納付セシム但シ電燈ノ取付アル場合ハ十二時及十六時ハ一基ヲ一燈トシ六十時ハ一基ヲ三燈トシテ加算ス

取付燈數	指定電燈		月額料金		指定電燈		月額料金	
	三十燈以下	三十燈以上一燈ヲ増加スル毎ニ	北	南	北	南	北	南
三十燈以下	四萬五千「ワット」時	九圓	四萬五千「ワット」時	九圓九十錢	四萬五千「ワット」時	九圓九十錢	四萬五千「ワット」時	九圓九十錢
三十燈以上一燈ヲ増加スル毎ニ	千五百「ワット」時	三十錢	千五百「ワット」時	三十三錢	千五百「ワット」時	三十三錢	千五百「ワット」時	三十三錢

第三十六條 點燈料ハ其ノ料金ノ額ニ依リ割引ヲ爲スコト左ノ如シ

一箇月點燈料
 十圓以上三十圓未満 百分ノ五
 三十圓以上五十圓未満 百分ノ七
 五十圓以上百圓未満 百分ノ十
 百圓以上 百分ノ十二

第三十七條 自然電燈ハ貸付料トシテ一燈ニ付一箇月金十錢ヲ納付スヘシ

第三十九條 電燈ハ定著ノ不定著ノ二種トシテ左ノ月額料金ヲ納付セシム

種別	種類	個數	供		給		區	
			夜間内燈	晝夜内燈	夜間外燈	晝夜外燈	北	南
十二時	時	一基	二圓五十錢	二圓七十錢	二圓七十錢	二圓七十錢	二圓七十錢	二圓七十錢
十六時	時	一基	四圓	四圓五十錢	四圓五十錢	四圓五十錢	四圓五十錢	四圓五十錢
六十時	時	一基	八圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓

第四十條 電燈使用者ニシテ電燈計ヲ以テ使用スルトキハ其ノ電燈計ノ示ス總電燈點燈料ノ計算ニ依リ點燈料トシテ納付セシム尙左ノ月額電燈貸付料ヲ納付セシム

十二時電燈 一基 金一圓三十錢
 十六時電燈 一基 金一圓八十錢
 六十時電燈 一基 金四圓

第四十二條 電燈取付費、取除費ノ納付ニ關シテハ第二十八條ヲ準用ス

第四十二條 電力使用申込書ニハ左ノ事項ヲ記載シ使用場ノ機械配置平面圖ヲ添付スヘシ

- 一 事業ノ種類
- 二 使用ノ馬力數
- 三 使用期間
- 四 使用時間

第四十三條 電力ノ使用期間ヲ區別シテ左ノ三種トシ繼續使用ノ場合ハ期限一箇月前更ニ申込ムヘシ

- 一 三箇月使用
- 二 六箇月使用
- 三 一箇年使用

第四十五條 電動機、變壓器及其ノ附屬器具ノ設備方法ヲ區別スルコト左ノ如シ

- 一 臨時臺灣工事部以外ニ於テ購入セシメ設備スルモノ
- 二 臨時臺灣工事部ニ於テ拂下ケ設備アルモノ
- 三 臨時臺灣工事部ニ於テ貸付ケ設備スルモノ但シ五馬力以下ニ限ル

第四十六條 前條ノ設備ニ關スル工事ハ臨時臺灣工事部ニ於テ之ヲ施行ス但シ電動機ノ据付据換ノ基礎工事ハ臨時臺灣工事部ノ指揮ニ從ヒ使用者ニ於テ施行スヘシ

第四十七條 第四十五條第一號ノ場合ニハ購入前臨時臺灣工事部ニ協議シ電氣方式制限等總テ適合ノモノヲ採用スヘシ

第四十八條 電動機ノ据付費、据換費及取除費ハ左ノ率ニ依リ之ヲ納付スヘシ但シ同一使用場内ニ於ケル据換費ハ半額トス

馬力 數

五馬力迄 一基ニ付 金六圓

六馬力ヨリ十馬力迄 金十圓

十一馬力ヨリ二十馬力迄 金十五圓

二十一馬力ヨリ五十馬力迄 金二十五圓

五十一馬力ヨリ百馬力迄 金四十五圓

百一馬力ヨリ三百馬力迄 金七十五圓

三百馬力以上 金百二十圓

電力變更ノ費用ハ電動機ノ据付費又ハ取除費ノ中ニ就キ其ノ大ナルモノニ依リ其ノ額ヲ定メ之ヲ納付セシム

第五十一條 電力使用料ハ月額トシ一期間中使用ト否トニ拘ラス左ノ區別ニ從ヒ一使用場毎ニ之ヲ納付セシム中途廢止ノ場合亦同シ

限定使用馬力數	供給		北		基		隆	
	晝夜使用 馬力ニ付	晝間使用 馬力ニ付	晝夜使用 馬力ニ付	晝間使用 馬力ニ付	晝夜使用 馬力ニ付	晝間使用 馬力ニ付	晝夜使用 馬力ニ付	晝間使用 馬力ニ付
五馬力	金十六圓	金七圓	金十七圓	金十七圓	金十七圓	金十七圓	金十七圓	金十七圓
六馬力ヨリ十馬力迄	金十四圓	金六圓	金十五圓	金十五圓	金十五圓	金十五圓	金十五圓	金十五圓
十一馬力ヨリ三十馬力迄	金十二圓	金五圓	金十三圓	金十三圓	金十三圓	金十三圓	金十三圓	金十三圓
三十一馬力ヨリ五十馬力迄	金十圓	金四圓五十錢	金十一圓	金十一圓	金十一圓	金十一圓	金十一圓	金十一圓
五十一馬力ヨリ百馬力迄	金八圓	金四圓	金九圓	金九圓	金九圓	金九圓	金九圓	金九圓
百一馬力ヨリ三百馬力迄	金六圓	金三圓	金七圓	金七圓	金七圓	金七圓	金七圓	金七圓
			金三圓五十錢	金三圓五十錢	金三圓五十錢	金三圓五十錢	金三圓五十錢	金三圓五十錢

前表ノ限定使用馬力數ニ依リ計算シタル使用料カ其レヨリ小ナルモノニ對スル使用料ヨリ低額ナルトキハ其ノ小ナル限定馬力數ニ對スル使用料ノ最高額ヲ徵收ス

三百一馬力以上ハ別ニ定ムル所ノ料金ニ依リ之ヲ納付セシム

夜間ノミ使用ノ場合ハ晝夜使用ノ料金ニ依リ之ヲ納付セシム

第五十二條 電力使用料ハ使用期間ニ依リ割引ヲ爲スコト左ノ如シ

使用期間

六箇月間使用 割引率 百分ノ五

一箇年間使用 百分ノ七

第五十三條 電動機ノ貸付料ハ月額トシ一期間中使用ト否トニ拘ラス左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納付セシム廢止ノ場合亦同シ

馬力數

一馬力 金七圓

二馬力 金八圓

三馬力 金九圓

四馬力 金十圓

五馬力 金十圓

第五十四條 左ノ月日ニハ晝間ニ限り送電ヲ休止ス但シ之カ爲使用料ヲ減額セス

一月 一日 二日 三日 十五日

二月 一日 十一日

三、四、五、七、八、九月 一日 十五日
 六月 一日 十七日
 十月 一日 二十八日(二十七日ヲ加フルコトアルヘシ)
 十一月 三日 十五日
 十二月 一日 三十日 三十一日
 第五十五條 電動機其ノ他附屬器具ノ修理ハ臨時臺灣工務部ニ於テ之ヲ爲シ相當費用ヲ納付セシム但シ第四十五條第二號及第三號ノ器具機械ニシテ其ノ暇疵撥付以前ニ生シタルモノト認ムルトキハ修理ノ費用ハ之ヲ免除ス
 使用者自ラ修理ヲ爲サントスルトキハ臨時臺灣工務部ノ承認ヲ受ケ其ノ監督ノ下ニ施行スヘシ
 第五十七條 第五十五條第二項ノ監督又ハ調査ノ爲臨時臺灣工務部職員ノ出張ヲ要求シタルトキハ相當費用ヲ納付セシム
 ○臺灣總督府令第八十九號(官報 十一月二十四日)

明治三十一年三月府令第十號臺灣阿片令施行規則中左ノ通改正ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第二條 阿片煙膏ハ阿片煙膏元賣捌人ヲシテ阿片煙膏仲賣捌人ニ賣下ケ之ヲ阿片煙膏請賣人ニ賣捌カシム

阿片煙膏元賣捌人ハ臺灣總督府專賣局長、阿片煙膏仲賣捌人ハ廳長之ヲ指定ス

第三條中「特許ヲ得ントスル者ハ」下ニ「阿片煙膏一日分ノ吸食量ヲ記載シ」ヲ加フ

第三條ノ二 阿片煙膏購買吸食特許者ハ阿片煙膏購買吸食特許鑑札及阿片煙膏購買通帳ニ登載ノ阿片煙膏吸食量三日分以上ノ煙膏ヲ購買シ又ハ所持スルコトヲ得ス但シ土地ノ狀況其ノ他止ムヲ得サル事情ニ因リ警察官署ノ認定ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條中「前條」ヲ「第二條」ニ改ム

第六條第十條第十一條第十三條中「取次人」ヲ「元賣捌人及仲賣捌人」ニ改ム

第七條 阿片煙膏元賣捌人ハ阿片煙膏ヲ常ニ二百箱以上貯藏スヘシ

第八條中「阿片煙膏取次人」ニ下付スルヲ「阿片煙膏仲賣捌人」ニ賣下クニ改ム

第九條 阿片煙膏元賣捌人ハ阿片煙膏仲賣捌人以外ノ者ニ阿片煙膏仲賣捌人ハ阿片煙膏請賣特許證札所持者以外ノ者ニ阿片煙膏ヲ賣捌クコトヲ得ス

第十二條 阿片煙膏元賣捌人及阿片煙膏仲賣捌人ハ帳簿ヲ製シ下付又ハ賣下ヲ受ケ及日日賣下ケ又ハ賣捌キタル阿片煙膏ノ品種數量代價及阿片煙膏賣下ケ又ハ賣捌キタル仲賣捌人及請賣人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十五條ノ二 阿片煙膏請賣人ハ阿片煙膏購買吸食特許者カ所持セル阿片煙膏購買吸食特許鑑札及阿片煙膏購買通帳ニ登載ノ吸食量一日分以上ノ煙膏ヲ所持スル情ヲ知テ阿片煙膏ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

阿片煙膏請賣人ハ毎月初度販賣ノトキニ於テ阿片煙膏購買通帳ニ記載セル前月中ノ阿片煙膏購買數量ヲ計上シ其ノ通帳ニ記入スヘシ

第十六條ノ二 阿片煙膏請賣人ハ阿片煙膏購買吸食特許者カ携帶セル阿片煙膏購買吸食特許鑑札及阿片煙膏購買通帳ニ登載セル阿片煙膏一日ノ吸食量三日分以上ヲ販賣スルコトヲ得ス但シ警察官署ノ認定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 第七條第十五條ノ二第十六條第十六條ノ二又ハ第三十七條ニ背キタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ二百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第六條第十條ニ背キタル者及各特許鑑札ヲ賣買又ハ其ノ他ノ名義ヲ以テ受授シタル者ハ六箇月以下ノ懲役若ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三條ノ二第五條第十二條第十三條第十七條第十八條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第三十二條第三十八條ニ背キタル者及第三十九條ニ違背シ故ナク買收セサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第四十四條 削除

附則

本令ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス